第 1 話　第 45 回 11 月祭環境対策委員会総括

文責：原　康祐

1.11 月祭環境対策委員会概説

(1) 発足と今日までの経過

11 月祭環境対策委員会は、1993 年度工学部 11 月祭実行委員会による「NF 環境調査」で判明した、11 月祭の大きな環境負荷の軽減のため、1994 年に発足し、今年度まで、11 月祭の環境負荷の削減、来場者への意識啓発を目標として活動してきた。

(2) 11月祭における位置づけ

11 月祭を企画・運営する団体は 11 月祭全学実行委員会本部事務局（以下、11 月祭事務局と略す）と各学部中間実行委員会と 11 月祭環境対策委員会である。11 月祭環境対策委員会は、環境負荷の少ないごみ回収・処理システムを作成・運営する団体と位置づけられ、そのほかは全て、11月祭事務局が取り仕切った。また、各学部中間実行委員会は、学部企画を企画・運営する団体である。

(3) 運営団体

11 月祭環境対策委員会は、1999 年度以来、環境サークルえこみっと（以下、えこみっとと略す）の活動の一環となっている。えこみっとは、6月までは別の活動を行い、7月から本格的に11月祭環境対策委員会として活動し始めた。ただし、環対準備会議を5月から7回にわたって開き、方針の決定などを行った。環対準備会議はえこみっと例会後に開き、2回生以上が出席した。

2.ごみ問題の捉え方

当委員会は環境対策の中でもごみ対策を行った。そのため、ごみ問題をどう捉えるかは当委員会の活動範囲と大きく関わる。

ごみ問題の捉え方はいろいろあると思う。ごみ焼却場からの排ガスや最終処分場の不足の問題をごみ問題と捉える人もいるであろうし、所謂「環境問題」としてのみ捉えるのではなく、ポイ捨ての問題もごみ問題であるという人もいるだろう。今年度は、話し合いの場を持ったわけではないが、以下のような捉え方が原稿のチェックを通して承認された。

「ごみ問題のうち直接的なものは、ごみ焼却場からの有害な排ガスや、最終処分場の不足などの問題である。一方、ごみがもともとは資源であったことを考えれば、大量のごみが出るということは、大量の資源が消費されたことを意味するため、間接的に、資源枯渇の問題もごみ問題に含まれる。そして、これらの直接的な問題と間接的な問題は密接にかかわっているため、解決に向かわせるためには、大量生産・大量消費・大量廃棄を基調とした社会を変えなければならない。」

3.活動理念・活動方針・重点目標

(1) 解説

11 月祭は 4 日間にわたって開催される、関西最大規模の学園祭である。今年度は 142 もの模擬店が軒を連ねた。当然そこから排出されるごみは膨大なものとなり、まさに、大量生産・大量消費・大量廃棄社会の縮図である。

そこで、11月祭においても環境対策を行い、環境負荷の低減に努めることが必要である。また、たくさんの来場者が学内外から訪れる11月祭において環境対策を行うことは、広報の面で非常に有意であり、当委員会の活動を通じて多くの人々にごみ問題に対して意識を持ってもらうことができると考えている。そこで、下のような活動理念を昨年度に引き続き採用した。

＜活動理念＞

11月祭環境対策委員会は環境問題が重要な問題であるということを認識し、特に11月祭におけるごみ問題について総合的な活動をする。同祭りにおいてごみ減量の理想的モデルを構築し、本学学生及び11月祭来場者、ついには社会に対してこのごみ減量モデルを提示し、社会の目指すべき方向を示唆する。

また、この理念に基づき、下の2つを活動方針とした。

＜活動方針＞

① 11月祭において、実質的な環境負荷の削減を、祭り参加者とともに行う。
② 11月祭において、祭り参加者全てを巻き込んだ活動を行い、環境問題についての意識啓発を行う。

①について、環境負荷の削減を方針とすることは自明であろう。「祭り参加者とともに」という部分は、②と重複するかもしれないが、環境負荷の削減が、当委員会だけの仕事と思われるべきではない、祭り参加者に自分で出したごみに責任を持ってもらいたい、という思いから加えた。

次に②について、当委員会は11月祭の環境負荷の削減のために作られたが、それだけではなく、来場者に対する意識啓発もできる。意識啓発の手段は広報・企画に限らず、実際に7分別もあるごみ箱にごみを捨てるなど、実践することによってもごみに対して興味を持つきっかけを与えることができると考える。このような意識啓発により、当委員会の存在意義は、11月祭内に留まらず、社会においても生ずるだろう。そのために、②を方針とした。

さらに、今年度の重点目標として、下のような目標を掲げた。

＜重点目標＞

「11月祭の参加者全員がごみを減らす努力をする」ように祭り参加者に働きかける。

ここで言う「ごみ」とは、最終的に埋め立てられるごみのことを言う。

上に述べたように、意識啓発の手段として、実践してもらうということが挙げられる。それがすなわち、「11月祭の参加者がごみを減らす努力をする」ということである。そして、それが十分達成されるように、祭り参加者、すなわち、来場者、企画担当者などに働きかけることを今年の重点目標とした。

(2) 実際に行ったことと比較しての反省

活動理念・活動方針については、おおむねこれに沿った活動が行えたと思う。しかし、理念の「ごみ減量の理想的モデルを構築」は不可能であろう。飽くまで理念であるから、これを目指したということでよいのかもしれない。

今年度の重点目標についても、おおむね達成できたと思う。ただし、効果が現れにくいものであるのでうまくいったかよく分からない。各種のアンケートの結果を見る限りでは、必ずしも成功したとは言えない。詳しくは、調査担当の項（Ｐ60から）を参照してもらいたい。

(3) 決定における反省点

今年度は、活動理念と活動方針の決定を第1回環対準備会議（日程は後述）で行い、重点目標の決定を第5回環対準備会議で行った。しかし、いずれも十分な議論が行われた上で決定されたかどうか疑問である。活動理念などは、そう頻繁に変えるべきものではないかもしれないが、活動を始める前に十分議論することは必要である。十分な議論を経ることで、理念等が活動の根幹に関わる部分であることが確認でき、その本来の効果を発揮するだろう。

今年は、理念については踏襲、方針については、「祭り参加者とともに」という文言を加えただけであ

る。変えなければならないものではないが、来年度以降十分議論できるように前もって準備をしていただきたい。

4.活動内容と組織構造の概説

上記の活動方針・重点目標を踏まえた上で、今年度の活動内容とその担当について述べる。

(1) ごみ回収・リサイクルシステムの作成・運営

ごみ回収システムとは、大雑把に言えば模擬店がごみ回収をするシステムであり、ごみリサイクルシステムとは、分別後のごみが業者に引き渡されるまでのシステムである。全体を統括する担当を例年通り置いた。ただし、下に示すように、別担当の管轄に替えた仕事もある。

→ごみ分別・リサイクル担当

ごみ処理システムのうち、生ごみ堆肥化に関わることは、有機農業研究会との交渉、米糠集めなど、特殊な面が多いので、別担当が毎年置かれている。今年もそれに従った。

→生ごみ堆肥化担当

後片付け日は、本祭中に比して大量消費・大量廃棄のごみが出るため、ごみの回収システムを変えなければならない。また、11 月祭事務局主導の大清掃など、特別なことが多い。

そこで、ごみ分別・リサイクル担当の負担軽減のため、また、後片付け日のごみ回収システムの改善のため、昨年度後片付け日に関して別担当が置かれ、今年もそれに従った。

→後片付け日担当

ごみ分別・リサイクル担当の負担軽減のため、応援団との交渉など特殊な面が多い前夜祭についても、今年度は別担当を置いた。

→前夜祭担当

(2) 環境面の啓発

2年前から続けているレストスペースは、今年も実施した。また、今年度はそれに附随して、分別の実演も行った。

→企画担当

環境面の啓発を目的として、11月祭の会場内に立て看板を設置した。

11月祭事務局が作る11月祭パンフレットに、環境対策のことを載せていただいた。

当委員会の 11 月祭における活動の周知を狙って、11 月祭前に、校舎内にポスターを貼った。

→広報担当

(3) システムの周知

11 月祭前には企画担当者説明会における説明で、11 月祭当日には巡回による説明・店内 POP（段ボール吊）で、それぞれシステムの周知を図った。システムの周知は、今年度の重点目標の達成において重要である。そのため、企画担当者説明会での説明の改善など、企画担当者説明会に重点を置いた。

→代表

模擬店企画担当者説明会においては、作業手順などをまとめた冊子、「環境虎の巻」を配布した。

当日の巡回では、ごみを回収していない模擬店に対する注意などを行った。

店内POPについては、昨年度までごみ分別・リサイクル担当が行っていたが、作成の目的が広報担当の受け持つところであるため、また、ごみ分別・リサイクル担当の負担の軽減のため、広報担当が行った。

→広報担当

(4) 調査

ごみの総量・組成調査、模擬店に対する調査・アンケートを行った。

→調査担当

(5) 洗い皿企画

使い捨て容器でない、プラスチック製の皿・箸等を模擬店に貸し出す企画を行った。これは、当委員会発足時から続けられているものである。

→洗い皿担当

(6) スタッフ募集・当日シフト管理等

当委員会の運営を円滑にするために、コアスタッフと当日スタッフの募集を行った。また、当日の運営を円滑にするために、シフトの作成とその運用を行った。

→スタッフ管理担当

(7) その他

上記に含まれない活動は代表が担当した。

→代表

今年度の組織構造は、代表の下に、以上の9担当を置く形とした。それぞれの担当の人数は以下のとおりである。

ごみ分別・リサイクル担当：2 回生 2 人、1 回生 1 人
生ごみ堆肥化担当：2 回生 1 人
前夜祭担当：1 回生 1 人
企画担当：1 回生 1 人
調査担当：1 回生 1 人
洗い皿担当：2 回生 1 人、1 回生 1 人
後片付け日担当：3 回生 1 人
広報担当：2 回生 1 人、1 回生 1 人
スタッフ管理担当：3回生1人

担当の分け方・人数については、大きな問題は見られなかった。細かい反省点については、各担当の項を参照してもらいたい。

5.例会の議題から見る1年の流れ

各担当からの細かい議題については各担当の項を参照。また、企画担当者説明会については、代表の項を参照。

5 ／12　第 1 回環対準備会議
　○活動理念・活動方針の決定　○洗い皿担当の決定　○組織構造の決定と希望担当調査
　○1回生向けリサイクル勉強会[1]の予定決定　○1回生向け環対ガイダンス予定決定
5 ／26　第 2 回環対準備会議
　○洗い皿　○2，3回生の担当決定　○環対スタッフ募集（6月）の概要決定
5 ／29　第 1 回 11 月祭全学実行委員会
6 ／2　第 3 回環対準備会議
　○洗い皿　○新歓用立て看板の撤去日決定　○スタッフ募集びら第1版チェック
6 ／9　第14回例会　○リサイクル勉強会（廃食油）
　第 4 回環対準備会議
　○各担当　○NF企画説明会での洗い皿説明者決定　○スタッフ募集びら第2版チェック
6 ／17　第15回例会　○リサイクル勉強会（生ごみ）
　第 5 回環対準備会議
　○重点目標の決定　○各担当　○1回生の担当のガイダンス原稿等について
　○堆肥化等にかかる費用を助成金でまかなうことについて

[1]環対を始める前に最低限の知識をつけてもらうことを目的として、6回にわたって1回生向けリサイクル勉強会を実施した。これは昨年度に始められたものである。

6 ／23 第16回例会　　○リサイクル勉強会(生ごみ堆肥化)　○環対ガイダンス[1](総論)
第 6 回環対準備会議
○各担当　○企画担当者説明会について
6 ／30 第 17 回例会
○リサイクル勉強会(サーマルリサイクル)　○環対ガイダンス(各担当、立場について補足)
第 7 回環対準備会議
○各担当　○1回生の担当決定方法の決定
7 ／7　第 18 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○１回生希望担当調査
7 ／21 第 19 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○リサイクル勉強会(発泡トレー、段ボール)
○ 1 回生の担当決定
7 ／28 第 20 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について
9 ／15 第 21 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○NF中の事務局による模擬店アンケートについて
9 ／22 第 22 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について
9 ／29 第 2 回 11 月祭全学実行委員会
第 23 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について
10 ／6 第 24 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について
10 ／13　第 25 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○企画書再考　○当日マニュアル作成企画書
10 ／20　第 26 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○当日マニュアル担当振り　○物品作成計画策定
10 ／25，26　物品製作（広報の立て看板）
10 ／27　第 27 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○当日マニュアル最終担当振り
○物品作成計画の変更と確認　○必要物品リストの提出要請
11 ／1，2　物品製作（企画の立て看板）
11 ／3 第 28 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○当日マニュアル第1版提出
○必要物品リスト提出　○物品作成計画の変更と確認
11 ／8，9　物品製作（広報の立て看板、集積場案内看板など）
11 ／10　第 29 回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○当日マニュアル第2版提出・印刷製本日時決定
○要作成・調達物品リスト発表　○物品作成計画の変更と確認
11 ／14　臨時例会
○各担当　○物品作成参加者募集　○報告書大改造計画発表
11 ／15，16　物品製作（ごみ箱、店内 POP など）
11 ／17　第 30 回例会

[1] 1回生に対する、当委員会のガイダンスである。当委員会の全体像・目指すものを把握してもらう総論と、各担当の紹介からなる。「立場について補足」というのは、11月祭における当委員会の立場を説明したものである。

１２／１　第３１回例会
○各担当　○企画担当者説明会について　○当日の反省点列挙　○事後処理
○環境対策反省会の詳細発表　○報告書の詳細の詰め
１２／２　第６回模擬店企画担当者説明会
１２／５　第3回屋内・グラウンド企画担当者説明会
１２／８　11 月祭環境対策反省会

６.11 月祭当日の流れ

当日の時系列を大雑把に記す。当日変更となった点については、実際に行ったことを記した。

(1) 前夜祭（11／20（木））曇りのち雨

１３：００ 安全センターおよび工学部1号館地下から吉田食堂へ、備品と洗い皿の運搬開始
１４：００ 洗い皿洗浄開始（約 30 分遅れ）
昼の間は、夕方までに、巡回（店頭ごみ袋取付、説明）・自転車整理を行った。
雨のため、箱撒き中止。
１８：３０ 集積場準備開始
夕方以降は、屋内ごみ箱の移動・封鎖や鉄製ごみ箱の移動、巡回を行った。
集積場閉場とともに、全体終了。

(2) 本祭初日（11／21（金））曇りのち晴れ

７：００　前夜祭のトレー洗浄準備開始
８：００　ごみ箱設置、立て看板設置、レストスペース設置開始（バックアップの人員使用）
９：００　洗い皿受付開始
９：３０　POP 設置開始
洗い皿以外のいずれの作業も昼には終了。前日の雨の影響で地面に水が多かったため中止。
１３：００ 集積場開場
昼には、巡回、分別実演、模擬店実態調査を行った。
１８：００ レストスペースの撤収、生ごみバケツ回収
集積場閉場とともに、全体終了。

(3) 本祭２日目（11／22（土））晴れ、強風

前日にサンプルをとっていなかったため、組成調査中止。
８：００　臨時雑多シフト（ごみ箱の再封鎖など）、担当ごみ箱確認びら配布（前日に担当ごみ箱の誤認が多かったため、模擬店ごとに担当ごみ箱の位置を記した地図が載っているびらを、店内のごみ箱に貼り付けた）（ともに、～９：00）
９：００　洗い皿受付、トレー洗浄、レストスペース設置、生ごみバケツ設置開始
風が強かったため、バケツ設置のシフトで、ごみ箱に重石として石を取り付けた。
石では風に対処できなかったため、ごみ箱をコの字型などに連結するシフトを臨時に作った。
風対策で人が取られたため、午前の分別実演は中止。午後は実施。
巡回は予定通り実施。
１３：００ 集積場開場
初日と同様に進み、集積場閉場とともに全体終了。

(4) 本祭３日目（11／23（日））晴れ

本来のシフト（本来の2日目と同じ）を実施。順調に進んだ。

(5) 本祭最終日（11／24（月））晴れのち雨

昼までは順調に実施。

１５：００ ごみ箱のふた閉め(雨が降ってきたため)

１６：００ レストスペースのパイプ椅子と長椅子撤収(雨が強くなったため)

夜に、屋外のごみ集実施。雨の影響で事務局の手が回らなくなったため、屋内のごみ集も実施。

集積場閉場とともに全体終了。

(6) 後片付け日（11／25（火））曇りのち晴れ

８：００　吉田食堂の清掃、組成調査、吉田食堂から安全センターへ物品の運搬開始

８：３０　集積場とグラウンドの準備開始

９：００　トレー洗浄開始

９：３０　トレー洗浄の呼びかけをする巡回開始

１０：３０ 鉄製・木製ごみ箱の復旧開始

１１：００ 大清掃の説明(事務局から人が出せなかったため、全企画に対して実施)

１２：００ 昼休み（ただし、集積場、グラウンドは一部継続、トレー洗浄は継続）

１３：００ 屋内ごみ箱の復旧、物品の運搬・受入開始（洗い皿は工学部１号館地下へ、パイプ椅子は工学部８号館へ)。集積場・グラウンドでは業者待ち開始。

物品の運搬・受入れの終了（18：00 頃）とともに全体終了。

＜基礎データ＞

模擬店企画数：142 店（a 地区：60、b地区：50、c地区：32）

グラウンド企画数：22

屋内企画数：76

講演企画数：11

自主制作演劇企画数：11

ステージ企画数：13

第２話　ごみ分別・リサイクル担当

担当：河村 有介・小林 洋介・錦木 孝介

１. 総括

文責：河村 有介

(1) 目的及び概要

ごみの再資源化・適正処理の行なわれるようなごみ回収システムの構築、ならびに11月祭関係者に実際にごみ分別作業等に参加してもらうことにより、意義を理解してもらい、日常生活におけるごみ問題に対する意識を持ってもらえるような協働体制を構築すること。

(2) 職務

上記の目的を達成するため、実際に行なったことは以下の通りである。

準備作業に類するもの

・ごみ分別案の策定・提案

・ごみ回収システムの構築（模擬店企画・一般企画）

・会場内ごみ箱の計画・作成
・生協に対する「エコ商品」の提案

当日作業に類するもの
・校舎内ごみ箱の封鎖
・会場内ごみ箱の設置
・吉田集積場の管理・運営
・発泡スチロールトレーの洗浄

(3) 他担当との関係

今年度は特に、以下の点で広報担当との共同した作業を行なったので、広報担当のページも参照していただきたい。

・「環境虎の巻」の作成
・集積場の管理・運営（誘導標識の作成）
・「エコ商品」の広報

(4) 渉外

ここでは、交渉相手ごとに列記するので、作業ごとの時系列については、各ページを参照されたい。

・ごみ回収業者

6月下旬	回収条件・費用についての問い合わせ	各業者
7月23日	ホームケルンを見学	ホームケルン
10月9日	期間中のごみ回収についての打ち合わせ（注2）	同上
10月28日	前夜祭・本祭で出されるファイヤーの灰についての問い合わせ	同上

各業者：段ボール；㈲アップル　TEL: 090(9097)4698
廃食油；㈱レボ・インターナショナル　TEL:075(693)7667
発泡スチロールトレー；㈱トカイ・トータルパッケージ　TEL:075(924)5700
割り箸；王子製紙㈱春日井工場業務部総務課　TEL:0568(85)2013
（割り箸輸送；日本通運㈱［アローボックス］TEL:075(311)5151 ）
その他（生ごみ・牛乳パック以外）；ホームケルン㈱　TEL:0774(63)7155

・生協

7月上旬	斡旋物品（発泡スチロールトレー）卸業者選定に関する要望書を提出	本部
	エコ商品に関する提案文書を提出	同上
10月10日	当委員会が提案したエコ商品に関しての回答	中央購買部
11月上旬	エコ商品使用模擬店が判明	同上
	エコ商品ＰＯＰの作成を依頼	本部
11月5日	吉田集積場前の生協キャブ移動要請の文書提出	吉田食堂
	生協管理ごみ箱の移動要請文書を提出	本部／吉田食堂
	牛乳パックの引取を要請（口頭確認）	中央食堂

・大学事務

9月8日	期間中のごみ回収業者選定に関する要望書を提出（注1）	学生部
10月9日	期間中のごみ回収についての打ち合わせ（注2）	同上
11月13日	ごみ箱封鎖に関する要望書を提出	経理部／附図／法
	ごみ箱封鎖に関する確認文書を提出	学情ＭＣ

学生部：本部事務局学生部課外教養担当
経理部：本部事務局経理部契約課契約管理掛

附図：附属図書館事務部
法：法学部事務室会計掛
学情ＭＣ：学術情報メディアセンター等事務部（南館）

・11 月祭事務局

7月14日	一般企画・模擬店企画におけるごみ回収システムに関する要望書
	一般企画申請時に配布するごみ回収システムに関する案内の提出
9月8日	期間中のごみ回収業者選定に関する要望書を提出（注1）
10月9日	期間中のごみ回収についての打ち合わせ（注2）
11月18日	校舎内におけるごみ箱非設置表示に関する確認（口頭）
	一般企画に対する当日配布ビラを提出

・各学部自治会

10月9日	校舎内ごみ箱封鎖への協力要請	文
10月30日	校舎内ごみ箱封鎖の確認文書を提出	法
10月31日	校舎内ごみ箱封鎖の確認・ごみ回収システムへの協力要請文書を提出	経済
11月5日	当日のごみ箱封鎖に関する話し合い	文
	校舎内ごみ箱封鎖の確認・ごみ回収システムへの協力要請文書を提出	同上

文：文学部学友会（文学部 11 月祭実行委員会）TEL：075(753)2722（呼）
法：法学部学生自治会
経済：経済学部同好会（経済学部 11 月祭中間実行委員会）

注1：ごみ回収業者選定に関する要望書は、例年11月祭事務局を通じて学生部に提出することになっているため、今年度も11月祭事務局の名で学生部に対して要望書を提出した。
注 2：期間中のごみ回収に関する打ち合わせは、当委員会、学生部課外教養担当、11 月祭事務局、ホームケルンの四者によって行なわれた（於：学生部課外教養担当事務室［旧石油化学系教室2階］）。

(5) 総合的な反省及び今後の展望

【ごみ回収システム】

◆ 会場内ごみ箱は基本的に、当委員会が作成した段ボール製のものを使用しているが、段ボールという材質の特性上、強風や雨に弱い。そこで環境対策反省会において事務局側から「ごみ箱レンタル」という提案があったのだが、これはこれまで悩まされ続けた問題を一挙に解決する可能性を秘めている。但しレンタル費用の面があるので、経費との相談の上、可能であるならば導入したい。

◆ 昨年度はごみ回収システムの一部とされていた「屋内ごみ箱封鎖」をごみ回収システムから分離させた。これは、「屋内ごみ箱封鎖」の作業は他の作業に比して渉外的な作業が多いためであるが、ごみ回収システム（殊に屋内一般企画における回収システム）とのシステムの融合性も必要なことから、来年度はこの作業の位置付けに関して再度検討していただきたい。

【発泡スチロールトレーとエコ商品】

◆ 今年度、生協斡旋物品のうちどんぶり容器については、すべて「エコ商品」としたが、トレー洗浄済の発泡スチロールトレーの中に大量のどんぶりが混入していた。発泡スチロールトレーは、本来卸した業者（トカイ・トータルパッケージ）が、自社が卸したものに限ってリサイクルに回すというシステムのため、大量に他社のトレーが混じっている事態が来年度も続くと、トレー洗浄したのに、回収はされないという事態も起こりかねない。来年度は、今年度のような事態にならぬよう、事前に生協斡旋物品にないものをトレー洗浄の時点で排除するか、その他のより有効的な手段を講じていただきたい。

【自治会との関係】

◆ 文学部学友会（以下、学友会）との関係については、特に慎重を期する必要がある。昨年度、当委員会が学友会を通さずに文学部事務に対してごみ箱封鎖の要請をしたことに対して抗議されたため、今年度は学友会

◆ は学友会の自主性を尊重して文学部校舎内のごみ箱封鎖に関しては全面的に学友会にお願いした。当委員会にしても作業人員を割く必要性がなくなるので、来年度もお願いするならば、早期に文書を提出する必要があろう。
◆ 法学部学生自治会に対して、例年通りごみ回収システムへの協力をお願いしているが、法学部学生自治会としては、全く企画を行なっていないので、来年度以降はお願い文書を提出する必要がないかもしれない。

2. ごみの分別

文責：小林 洋介

(1) 今年度の分別

○ 会場ごみ（7 分別）
紙ごみ、ビニール・プラスチック類、発泡スチロールトレー、割り箸、ペットボトル、缶・ビン、生ごみ

○ 模擬店企画（10 分別）
会場ごみの７分別＋廃食油、牛乳パック、段ボール

○ 屋内・グラウンド企画・各学部主催の各企画
基本的には会場ごみの7分別＋段ボール（最終日と後片付け日のみ回収）
※11月祭期間中に、屋内企画で飲食物の販売をしているところがあることが判明したため（ユニセフクラブ）牛乳パックの洗浄をお願いした。
※上記の分別で一通り指示したが、排出されないものに関しては分別を設けなくともよいとした。

(2) 決定までの流れ

業者連絡の全体は、本担当内に別に設けてあるのでそちらも参照のこと。

6 月下旬	王子製紙へ割り箸の回収基準について確認 アップルに段ボール回収の費用を調査(軽トラック一台五千円とのこと) 生協中央購買部に発泡スチロールトレー卸業者選定時期の確認。
7 月 3 日	ごみ分別の仮案決定、11 月祭事務局（以下、事務局）へ連絡
7 月 17 日	生協本部にトレー卸業者選定についての要望、非木材紙食器（「エコ商品」）の推薦の文書提出
7 月 23 日	ごみ収集・中間処理業者『ホームケルン』（以下ケルン）見学
8 月上旬	トレー卸業者が『トカイ・トータルパッケージ』(以下トカイ)に決定される。
8 月 13 日	ごみ回収システム・ごみ分別の仮案について事務局に文書提出
9 月 8 日	期間中のごみ回収業者選定に関する要望書を学生部提出
9 月中旬	環境虎の巻作成・一般企画虎の巻「ごみの取り扱いについて」のページを作成
10 月	学生部、選定業者をケルンに決定
10 月 9 日	学生部、ケルンと事務局の同席のもとで話し合い
11 月上旬	トカイに回収の詳細を確認 レボ・インターナショナル（以下、レボ）に廃油回収のお願い
11 月 5 日	生協中央食堂に牛乳パック引取を要請（口頭確認）
11 月 20 日	レボ、廃食油回収用ドラム缶を設置
11 月 25 日	牛乳パックを生協中央食堂の回収ボックスへ持ち込み レボ、廃食油回収用ドラム缶を回収
11 月 29 日	割り箸の箱詰め
12 月第 1 週	トカイ、洗浄済みトレー回収 王子製紙春日井工場へ送付

(3) 各分別の引渡し先

ケルン	紙ごみ、ビニール・プラスチック類、缶・ビン、ペットボトル、段ボール
トカイ	発泡スチロールトレー
レボ	廃食油
王子製紙	割り箸
生協	牛乳パック
生ごみ	みのり（旧称有機農業研究会）

(4) 各分別の処理方法など

① 紙ごみ→焼却処理

11月祭では紙ごみと名づけているが、業者は一般ごみとして取り扱うので焼却処理される。燃焼熱の高いプラスチック類が多量に含まれると炉が傷むので注意。ただし、ある程度の混入は逆に燃焼温度上昇に貢献するので必要とのこと。ビニール・プラスチック類の分別を設けているので我々の場合には問題のない範囲であろう。また、不燃物も混入しない方が良い。どの分別か分かりにくいものは、基本的にこの分別に入れたが、不燃物や粗大ごみにあたるものについてはケルンに連絡し、指示を仰いだ。

② ビニール・プラスチック類→サーマルリサイクル

水分、生ごみが混入するとサーマルリサイクルできないので、注意が必要。主に発電のエネルギーになる。

③ 缶・ビン→缶・ビンへ

ケルンでは、缶とビンを手で選別した後に磁石でスチール缶とアルミ缶を分けている。作業の負担を減らすため缶とビンを集積場で分けた。

④ ペットボトル→破砕後、繊維原料などに(主にカーペットになる)

手で選別のあと、ラベル・ふたとともにすべて破砕。ラベルとふただった破片は水に浮かして除去。処理費用軽減という視点から、ラベルとふたは外してもらうことにした。

⑤ 発泡スチロールトレー→マテリアルリサイクル

今年も、模擬店に協力してもらい洗浄。その後、生協卸業者のトカイにリサイクルに回していただいた。今年の問題点として、トカイの扱っていないトレーが非常に多かった。トカイが卸したトレー以上に、あるいは同程度他社のトレーが出るという状況になるとトカイだけにリサイクルルートに載せる責任を依頼するのには無理が生じてくる。次年度以降は、生協外からの購入へどう対処するかというのも一つの課題であろう。

⑥ 割り箸→再生紙

今年も王子製紙に段ボール詰めして送った。夏場であればできるだけ洗浄、そうでなくてもできれば乾燥してほしいとの条件を言われたので、11月際期間中、あるいは11月祭後広げておく時間をつくるなどの対処が考えられる。今年度は、場所の確保が難しいことや天候が不安定であったことから実施はしなかった。また、送料はアローボックスを利用して8000円であった。

⑦ 廃食油→バイオディーゼルオイル

今年は、いったん一斗缶に集めた後、レボから借用したドラム缶に入れるという形式をとった。借りることができるポリタンクの数が少なかったためである。問題点は特になかったが、油を移すのは思ったより大変な仕事であった。ドラム缶は集積場と南側トイレの間に置いた。一旦こすことが必要であり、また、水は絶対に混入しないようにという指示だった。

⑧ 生ごみ→堆肥化・土壌化

詳細は生ごみ堆肥化担当へ。

⑨ 段ボール→段ボールなどの再生紙

⑩ 牛乳パック→再生紙

今年は、集積場に洗浄場所をもうけてその後吉田食堂内で広げて乾燥するなどした結果昨年度のようにひどい腐敗臭に悩まされることもなかった。しかし、回収を生協の回収ボックスにしているのは、量の点から見

今年は、集積場に洗浄場所をもうけてその後吉田食堂内で広げて乾燥するなどした結果昨年度のようにひどい腐敗臭に悩まされることもなかった。しかし、回収を生協の回収ボックスにしているのは、量の点から見て問題がないとは言い切れない。なにかルートが確保できないか一考の余地がある。

※量が少ない乾電池や卵パックについてはこちらで回収せず、生協等で回収を行っているなど拠点回収を紹介した。

(5) 全体の反省点と今後の展望

- 業者連絡が体系化されていなかったので、ごみ分別・リサイクル担当の2人で負担を分けたときに抜けが生じ、廃食油回収についての業者確認を11月頭までしないという状態であったこと。
- 一般的に行えるような分別はほぼすべて考慮に入っているといってよいが、その目的、意義をしっかり見据えていたかどうか。
- 現在までにリサイクルへと回す方法はほぼ確立されてきたと言ってよいが、発泡トレー卸業者の問題や牛乳パック回収先の問題など方法の問題から運営上の問題に問題点が移ってきていると思われる。
- ごみ分別を増やすということはリサイクルへの道を開くという点では機能しているが、今後、排出量の削減に向けて何ができるかということを考えてすすめて行くことが望まれる。

3.ごみ回収システム

文責：小林 洋介（模擬店企画編）
河村 有介（一般企画編）

～模擬店企画編～

(1) 目的と方法

11月祭で出されるごみの大半は、企画から出されるものである。それらは、主に企画運営団体自体が出すごみと模擬店が販売した飲食物に由来するものに分けられる。前者は、企画が集積場まで直接運ぶことで回収するが、後者については来場者からごみが捨てられるという形になるので、会場にはごみ箱が必要となる。このごみ箱の管理を、各模擬店にお願いし、ごみに対して共同で責任をもってもらう。それによって、模擬店の人たちの分別への関心を高め、11月祭でごみの多さをしってもらう。

(2) 時系列

7 月 11 日　仮案決定・その後事務局へ報告（事務局模擬店配置で一応参考にしてもらうため）
9 月 22 日　本決定　（模擬店配置決定後、担当ごみ箱も決定する、今年は担当割り振りを個人的にやってしまったため例会は通していない）
環境虎の巻・担当ごみ箱一覧作成

(3) ごみ箱管理

① 各模擬店に対して、担当ごみ箱を前半2日間と後半2日間で別の分別にして割り振る。これは、分別の種類によってごみの排出量がかなり異なるので、模擬店ごとの負担平等化を図るためである。
② 本祭中は、午後2回のごみ箱チェックの時間には必ずいっぱいになっていないか確認。いっぱいになっていた場合には90リットル透明ごみ袋を交換それ以外の時間でもいっぱいになれば交換。
③ 営業終了後は、担当ごみ箱の袋を回収して集積場へ。担当ごみ箱が段ボール製の場合、テント内に回収。
注）途中キャンセルの模擬店が出た場合には、同じテントを共有している模擬店がその分を管理する。この負担を負った模擬店はトレー洗浄免除となる。両側の模擬店あるいは、同じごみ箱ステーション内での管理の割り振りも考えられたが、それらでは一模擬店の負担は軽くなるメリットがあるが、模擬店同士の監視や関係性を保つことが難しく、納得しにくくなるため、このような形に落ち着いた。事前キャンセル及び初日キャンセルの分については環対が管理。

●分別の割り振り方

ような形に落ち着いた。事前キャンセル及び初日キャンセルの分については環対が管理。

●分別の割り振り方

	A	B	C	D	E	F
21日	ビニ・プラ	缶・ビン	紙ごみ	割箸	トレー	ペット
22日	ビニ・プラ	缶・ビン	紙ごみ	割箸	トレー	ペット
23日	割箸	トレー	ペット	プラ	缶・ビン	紙ごみ
24日	割箸	トレー	ペット	プラ	缶・ビン	紙ごみ

1つのごみ箱ステーションに設けられている六分別を上記のように割り振った。生ごみについては環対が夜回収。

(4) 反省点

今年は大きな混乱もなく、無事に終ることができた。これは、ごみの分別が一般化してきた結果であろう。次年度以降も、各方面への連絡ならびに広報、巡回を通して周知させることが重要である。

～一般企画編～

(1) 目的

一般企画が排出するごみについて自己責任においてごみを回収できるようなシステムを構築することを目的とする。

(2) 概要

一般企画のごみについては、基本的に企画自体が出すものを責任を持って分別・回収してもらうシステムとなっている。このようなシステムにおいて、一般企画（殊に、屋内企画）の責任を明確化するために、校舎内に設置されているごみ箱は原則として全て封鎖した（これについては、「屋内ごみ箱封鎖」のページに詳述）。それゆえ、来場者には会場内に設置されているごみ箱を使用してもらうようにした。ただし、企画者が来場者用ごみ箱を設置すること自体は禁じているわけではないので、独自に来場者用ごみ箱を設置した場合にも、同様の分別基準にて分別・回収してもらった。

基本的システムとしては、1日の企画終了後に、分別したごみを吉田集積場に持ってくるという作業を4日間繰り返すというものである。

11 月祭期間中のごみ受付時間は、16 時～ 19 時（但し、最終日は 13 時から）とした。

(3) 時系列

7月14日	11月祭事務局（以下、事務局）に対して一般企画（注釈）ごみ回収システムに関する確認文書を提出
7月下旬	一般企画申請者に対するごみ回収システム案内を企画申請時に事務局を通じて配布
9月下旬	事務局が発行する「一般企画虎の巻」(注1)の原稿を作成
10月24日	第2回企画担当者説明会(注2)にて、ごみ回収システムを企画者に説明（屋内・グラウンド）
10月31日	経済学部同好会（経済学部11月祭中間実行委員会）に対して学部企画におけるごみ分別回収についての協力を要請（文書）
11月5日	文学部学友会（文学部11月祭実行委員会）に対して学部企画におけるごみ分別回収についての協力を要請
11月18日	事務局を通じて屋内企画に配布するごみ分別の案内を事務局に提出

（注1）　この冊子は講演企画には配布されない。

（注2）　講演企画・自主制作演劇企画からは大量のごみは排出されないとの判断から、屋内・グラウンド企画担当者説明会のみの参加とした。

(4) 反省点および今後の展望

◆　各学部主催の企画の中には、屋内企画に類する企画であっても、食品販売を行なう企画（ユニセフクラブ

◆ クラブなど）があるので、来年度以降は個別に対処するか、もしくは何らかの施策を行なう必要があろう。

◆ 屋内企画に対して配布したごみの分別方法などの案内は、本祭1日目に事務局を通じて手筈であったが、模擬店企画・グラウンド企画に本祭最終日に配布すべき後片付けビラと同時に手渡したため、屋内企画ビラも最終日に配られてしまった。事務局との意思疎通が上手くなされなかったためであるが、来年度以降は確認を怠らないでいただきたい。

◆ 事務局との環境対策反省会において、事務局から校舎内にごみ箱を設置できないかという打診があった。現状からいうと、毎年のように不法投棄が出されるのはやむを得ないという側面はあるが、さりとて来場者にとって校舎内にごみ箱が設置されていないのは、不便であるという事実も存在する。それゆえ、来年度以降、校舎内ごみ箱の設置は検討に値することであろう。

4．会場内ごみ箱作成・設置

文責：錦木 孝介

(1) 概要

ごみ箱の形状、作成方法、設置方法など、ごみ箱の作成・設置に必要な事項を決める。

(2) 目的

適切なごみ箱を作ることでごみの分別率を上げ、リサイクル・適正処理を行いやすくする。同時に来場者の環境意識の啓発を行う。

(3) 11月祭までの時系列と概要

ｉ）時系列

10/27　ごみ箱作成企画書・表示原案提出

11/3　ごみ箱設置マニュアル提出

11/4　サンプル用のトレーの収集

11/6　サンプル用のペットボトルのふた・ラベルの収集

11/15・16　段ボール製ごみ箱、竹箸・竹串入れ、表示、担当模擬店欄の作成

11/17～19　標識マット、サンプル、生ごみ標識作成

11/20（前夜祭）サンプル用のフードパックの収集

ⅱ）概要

① ごみ箱ステーション

7分別（缶・ビン、ペットボトル、ビニール・プラスチック類、紙ごみ、発泡スチロールトレー、割り箸、生ごみ）のごみ箱を設置する場所。ａ地区10箇所、ｂ地区8箇所、ｃ地区6箇所、計24箇所。

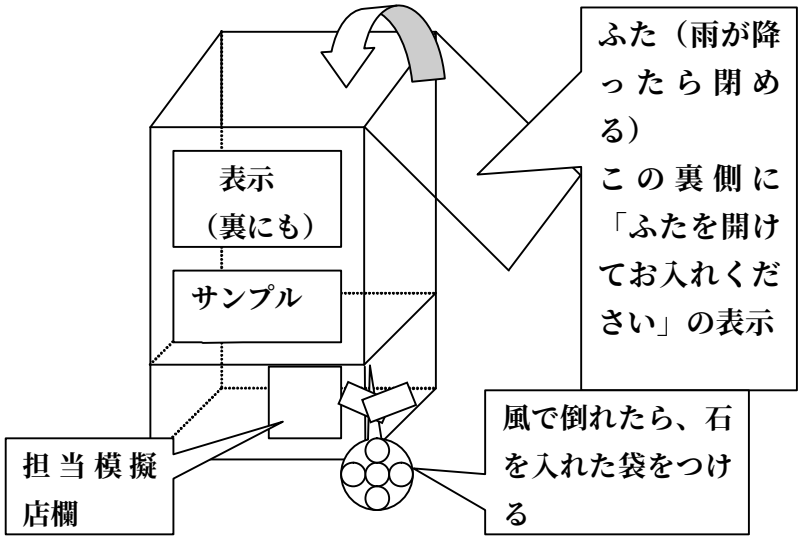
② ごみ箱

ア）段ボール製ごみ箱

個数：163個（ａ地区70個、ｂ地区47個、ｃ地区42個、予備4個）

会場内ごみ箱の大半を担うごみ箱。作成が必要。

形状を考える上で考慮したこと
・雨・風の対策
（⑦参照）
・折りたためること
（模擬店がテント内に保管するため）
・中身が見えること
（分別が分かりやすいように）
・来場者が捨てやすいこと
・ごみ袋の付けはずしが簡単なこと



作成方法:段ボールの側面の一辺を切って開き、メーカー名などの表示がない面をひっくり返して外側にし、切った辺の裏と表をガムテープでとめる。(大きい段ボールはごみ袋を取り付けられないため、仕分けをしておき、この作業の前に一部を切り除いて周径を180ｃｍにあわせた。)同時に底を90度開いて、側面とあわせてガムテープでとめ、高さを確保する。天井部を構成する4枚の段ボールを切り取り、そのうち大きさの合う二つをガムテープでとめてふたを作り、本体にガムテープで付ける。ふたに「ふたを開けてお入れください」の表示、側面に担当模擬店欄を貼り付ける。

ア) 鉄製ごみ箱
個数：23 個（ａ地区 5 個、ｂ地区 18 個）
段ボール製ごみ箱の作成数を減らすため、また、不使用ごみ箱への不法投棄を減らすために使用する。吉田南構内の屋外にある鉄製ごみ箱を移動させ、表示等を貼って使用する。本部構内屋外ごみ箱に関しては、ごみ箱封鎖の頁（Ｐ 21）を参照。

イ) 木製ごみ箱
個数：6 個（ｃ地区 6 個）
木の枠組にごみ袋を付けて、ｃ地区の発泡スチロールトレーのごみ箱として使用。

ウ) 生ごみバケツ
個数：24 個（ａ地区 10 個、ｂ地区 8 個、ｃ地区 6 個）
生ごみについては、ごみの量が少ないため高さ30㎝ほどのバケツを使用。バケツの中にビニール袋を取り付け、側面に表示を貼り、生ごみ標識の上に設置した。(生ごみ標識については⑥参照)

エ) 竹串・竹箸入れ
個数：24 個（ａ地区 10 個、ｂ地区 8 個、ｃ地区 6 個）
割り箸専用ごみ箱への竹串・竹箸の混入を防ぐため、割り箸専用ごみ箱の側面に竹串・竹箸を入れる容器をつけた。
作成方法:ふたとラベルを外したペットボトルを半分に切り、切り口を上に向けて二つ並べてガムテープで固定し、表示を貼る。ふたが付いていた方をガムテープでふさぐ。

③ 分別の種類と表示内容について

分別名の表示	分別名以外の表示内容
紙ごみ	紙トレー・串・竹串など
	※割り箸はこのごみ箱ではなく専用ごみ箱へ
ビニール・プラスチック類	透明パック・ストロー・ペットボトルのふた、ラベルなど
缶・ビン	ふたは外して「ビニール・プラスチック類」へ
ペットボトル	ふたとラベルは外して「ビニール・プラスチック類」へ
割り箸専用	串と竹箸は「紙ごみ」のごみ箱へ
	串や竹箸は材質が異なるため混ざるとリサイクルできませ
発泡スチロールトレー専用	中の食べ物は「生ごみ」のバケツへ
	手作業での洗浄後、リサイクルに廻しています。
	異物は入れないでください
生ごみ	食べ物だけ
	食べ物以外の物を入れると堆肥になりません
竹串・竹箸	模擬店の方へ　中身は紙ごみに捨ててください。
	箱は外さないでください

（竹串・竹箸の分別は補助的なもので正式な分別にはならない）

④ サンプル

分別を間違えやすく、しかも大量に出るごみについては、それが入れられるべき正しい分類のごみ箱にサンプルとして実物を貼った。

「ビニール・プラスチック類」→フードパック、ペットボトルのふた・ラベル

「発泡スチロールトレー」　→発泡スチロールトレー（白）

ビニール・プラスチック類に関しては、貼るものが多いので、一度B4の紙にフードパック、ペットボトルのふた・ラベルを透明梱包用テープで貼り付けておき、その紙を当日の朝の設置でごみ箱本体に貼り付ける。発泡スチロールトレーに関しては、ガムテープを丸めて両面テープのようにして、当日の朝ごみ箱に直接つける。つける場所はごみ箱の表示の下（表のみ）

⑤標識マット

各ステーションの場所の目印となるもの。模擬店はこれを目印として、保管していたごみ箱を翌日に設置する。マットにはステーション番号、各分別を担当する模擬店の番号、ごみ箱の配置の順序を記入した。（配置順序に関しては（4）のiii）を参照）

作成方法：A4サイズに切った段ボールに紙の表示を貼る。

⑥ 担当模擬店欄

そのごみ箱を担当する模擬店がどこなのかを明示したもの。A6サイズの紙をごみ箱の右下に貼った。表のみ。

⑦ 生ごみ標識

生ごみはごみ箱としてバケツを用いるため、表示が見にくくなるので同じ内容を書いた紙を細長く切った段ボールの手前に貼り、その奥にバケツを設置した。

⑧ 雨・風への対策

ア）意見募集（詳しい目的は代表の項Ｐ76参照）

雨・風への対策としてごみ箱の形状をどうすべきかについて、実際にごみ箱を使う模擬店からの意見を取り入れるため、第１回模擬店企画担当者説明会で用紙を配り、第２回と第３回で回収した。

そこで出た意見は、

・雨対策

投入口を横に作る、上に傘をさす、屋根をつける、ふたをつける、投入口を狭くする

・風対策

箱同士をくっつける、地面にガムテープで固定、横にレンガを置く、円錐型にする、木にくくりつける、底にブロックを入れる

などであった。

イ）今年度の対策

・雨対策

ごみ箱に開け閉めできるふたをつけ、「ごみはふたを開けてお入れください」と書いた表示を貼り、雨が降ってきたらふたを閉めてまわった。

・風対策

ごみ箱が倒れたら、石を入れた袋をつけてまわった。それでも倒れたのでごみ箱同士をガムテープでくっつけておいた。どうしても倒れるところは撤収し、担当する模擬店に保管してもらった。

(4) 当日の概要

ｉ）当日の作業

作業時間＼作業場所		ａ地区	ｂ地区	ｃ地区
20日(前夜祭)	13:00～15:00	段ボールごみ箱・生ごみバケツ・ＰＯＰなどを安全センターから吉田食堂まで運ぶ		
	前夜祭中 18:00～21:00		吉田南構内にある鉄製ごみ箱を各設置場所に移動させる	
	前夜祭後 21:00～22:00	吉田南構内にある鉄製ごみ箱を各設置場所に移動させる		
21日(本祭初日)	8:30～10:30	各ごみ箱を吉田食堂から各設置場所まで運ぶ	各ごみ箱を吉田食堂から各設置場所まで運ぶ	各ごみ箱を安全センターから各設置場所まで運ぶ
		各ごみ箱を設置し、ごみ袋、分別表示、サンプルを取り付ける		

ii）ごみ箱の設置個数

紙ごみ、ビニール・プラスチック類はごみの量が多いため、段ボールごみ箱の場合は2個で1セットとした。ただし、鉄製ごみ箱の場合はその2種類についても1個しか置かなかった。その他については、1分別につき 1 個。

iii）ごみ箱の配置順序

左から、缶ビン、ペットボトル、ビニール・プラスチック類、紙ごみ、発泡スチロールトレー、割り箸、生ごみ。この順序は標識マットに記入した。

(5) 反省と展望

＜ごみ箱の形状＞

・模擬店がテント内で保管できるよう、ごみ箱は折りたためるようにしたが、立てた状態で保管している模擬店が多かったので、折りたためなくてもよいだろう。

・ごみ箱の周径は袋をかぶせやすいように、もう少し小さめにしたほうがよい。

・表示は前後に1枚ずつ貼ったが、ｂ地区など壁に接しておく場合は、片方だけでよい。模擬店がその方を表にしてくれるかどうかは分からないが。

・ごみをふたの上から入れられた。

＜雨・風対策＞

・雨対策としてふたをつけたが、製作時間がかかるし、ふたを閉めるシフトも必要になる。しかも雨が結構降ったので、ふたが水を吸い、ふたとして機能しなくなっていた。

・風対策としては、実際に倒れたら石を入れた袋をつける程度しかできなかった。風の強い日が一日あり、すべての地区で倒れた。ごみ箱を固めて置き、連結したら、何とかもった。それ以外の日は大丈夫だった。

＜設置個数＞

・紙ごみ、ビニール・プラスチック類は鉄製ごみ箱の場合は1個しか置かないが、鉄製は段ボール製のごみ箱と大きさが変わらないので、2個置いたほうがよい。

＜担当模擬店欄＞

＜生ごみ標識＞
・風で飛んだ。バケツ回収後に飛んだと思われるので、一緒に回収するか、重しを置いておくべきである。
・生ごみ標識に水のりで貼り付けた表示が、雨ではがれてしまった。ガムテープで貼る方がよい。
＜標識マット＞
・標識マットをもっと目立たせた方がよい。ステーション場所の分からない模擬店が何店かあった。
＜サンプル＞
・フードパックは、前夜祭にごみとして出たものを洗って使用したが、できるなら他の手段でもっと早めに用意しておいたほうがよい。昨年度は大阪大学の学園祭（11月初め）に行って、排出されたフードパック・トレーをもらってきたらしい。（ちなみに今年度は、トレーはスーパーから、ペットボトルは昨年度同様、生協からもらった）
・サンプルの効果については不明。
＜鉄製移動＞
・担当模擬店欄はシフト前に記入しておくべき。
・移動に台車を使ったが、使わなくても大丈夫。
・ａ地区では、前夜祭が終わってから移動を行ったが、移動先がグラウンド外だったので、前夜祭中でも自転車をどければ移動できそうだった。
・ごみが入れられていた。
・軍手とごみ袋は必要。
・表示はガムテープで貼ったが、雨に濡れて付きにくかった。
＜ごみ箱撤き＞
・ｂ・ｃ地区については、本来、前夜祭の日の18:00～21:00にごみ箱を各設置場所に置いておき（「ごみ箱撤き」）、翌日の朝に設置してまわる（「ごみ箱設置」）。しかし、雨が降ったため、本祭当日の朝に設置と同時に行った。
＜ごみ箱設置＞
・標識マットはガムテープでは付かない(特にａ地区)。
・ガムテープは余分に用意すべき。もしくは、設置後にガムテープをつける。
・予め担当模擬店欄を記入し、仕分けしておいてよかった。設置と同時にするのは時間がかかる。
・20番のステーションは駐車場前で設置できなかったので、道の反対側に移動したが、自転車に囲まれてごみが入ってなかったので、さらに附属図書館の前に移動した。
＜ごみ箱封鎖＞
・ごみ箱地図に未記入のものがあった。
・ごみ袋が必要。
＜バケツ設置＞
・先に袋をつけてから運ぶとよい。
・ごみ袋としてスーパーの袋を使ったが、1週間前から集め始めたのは遅かった。大きめの袋が必要だが、小さめのビニールでもなんとか大丈夫。
＜その他＞
・鉄製ごみ箱が6個消えたので段ボール製ごみ箱で代用した。どこかの企画が使っていたようだ。
・生ごみバケツは生ごみが見えて見苦しいため、ふたなどをつけたほうがよいという意見が事務局から出た。
・当日キャンセル模擬店の担当するごみ箱は環対で管理したが、設置し忘れがあった。
・ごみ箱のレンタルを検討してはどうかという意見が環境対策反省会で出た。

5.屋内ごみ箱封鎖

文責：河村 有介

(1) 目的

屋内ごみ箱を事前に封鎖することにより、分別区分の異なる屋内ごみ箱への11月祭から排出されるごみが捨てられることを防止するとともに、屋内一般企画の方々の排出者責任を明確化すること。

(2) 概要

職務内容に関しては、各ごみ箱を管理する生協や事務に確認文書を提出し、また当日の屋内企画を管理することになる各自治会にごみ箱封鎖（＋ごみ分別）への協力要請を行なうという事前作業と、実際にごみ箱の封鎖・移動・復旧を行なうという当日作業に分かれる。

(3) 当日までのお仕事

10月9日	文学部学友会（文学部11月祭実行委員会）に対して、当日のごみ箱封鎖への協力を要請（文書）[1]
10月下旬	封鎖すべきごみ箱の調査（本部構内・吉田南構内）
10月30日	法学部学生自治会に対して、当日のごみ箱封鎖に関して確認（文書）
10月31日	て確認（文書）
11月5日	文学部学友会に対して、当日のごみ箱封鎖に関して話し合いを実施・協力を確認
同 日	生協本部に生協管理ごみ箱（注1）の封鎖を要請（文書）
同 日	生協吉田ショップに対して、ショップ正面のごみ箱の営業時間外の撤収を要請（文書）
11月13日	各事務（注2）にごみ箱封鎖に関しての文書を提出

注1:生協本部が管理するごみ箱　正門脇インフォメーションセンター横
吉田食堂前自動販売機脇
学術情報メディアセンター南館前

注2：各事務　本部構内屋外…経理部契約課契約管理掛
附属図書館前…附属図書館事務部
法経本館…法学部会計掛
吉田南構内屋内…高等教育研究開発推進機構施設・管理掛
メディアセンター前…学術情報メディアセンター等事務部（南館）[2]

(4) 当日のお仕事

～屋内ごみ箱封鎖（20 日　18:30 ～ 20:30）～

作業手順（4 名：2 名 1 組× 2）

- 月組（担当：本部構内屋外ごみ箱・法経本館・総人 1 号館・全学共通教育棟）
- 華組（総人Ａ号館・Ｄ号館・Ｅ号館）

ごみ箱を移動させることができるか否かの別に従って、以下のような作業を実施した。

移動可能なごみ箱：ごみ箱内に入っているごみを回収し、1階から3階のごみ箱をすべて最上階の階段裏など、人目のつかないところに移動させた。

移動不可能なごみ箱：入口をガムテープでとめ、その上に「使用禁止」表示を貼付した。

---

[1] 今年度は、文学部校舎内のごみ箱の封鎖などに関しては、文学部学友会が実施することになったので、当委員会の作業はごみ箱「使用禁止」表示の提供などにとどまった。

[2] メディアセンター前ごみ箱に関しては、メディアセンターからの要望によって生協が設置したごみ箱であるため、封鎖の要請を生協本部に出したという報告文書をメディアセンター側に提出した。

～屋内ごみ箱復旧（25 日　13:00～15:00）～

作業手順

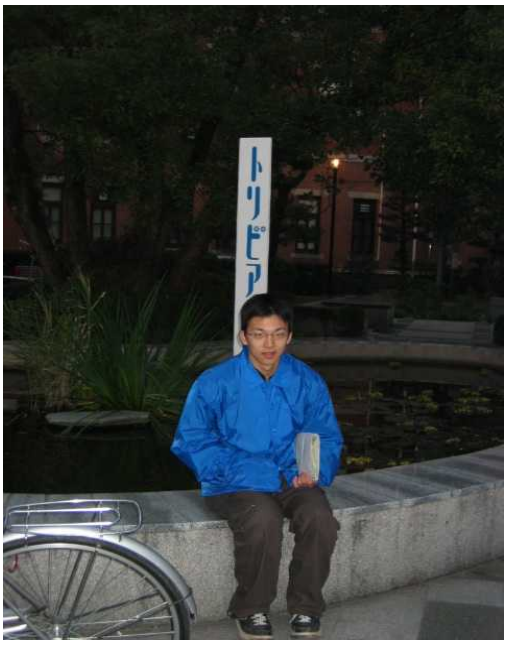
ごみ箱が移動させることができるか否かの別に従って、以下のような作業を実施した。

移動可能なごみ箱：移動させたごみ箱を元の位置に戻し、原状回復させた。

移動不可能なごみ箱：貼付していた「使用禁止」表示をはがし、通常通り使用できるようにした。

(5) 反省および今後の展望

- 附属図書館への文書提出に関して、経理部に先に文書を提出したところ、その内容が速やかに附属図書館側に伝えられていた。それゆえ、来年度以降は名宛人を経理部・附属図書館にして、経理部を通じて附属図書館に通達されるようにしても構わないと思う。
- 附属図書館前ごみ箱は、当日封鎖作業を実施する前に、既に事務によって封鎖されていた。また、生協本部の管理するごみ箱も既に撤去されていた。それゆえ、来年度以降は当日の封鎖作業自体が軽減されるかもしれない。
- 総合人間学部Ａ号館から、45リットルごみ袋が4袋捨てられているということがあった。模擬店由来のごみの場合、前夜祭開始から封鎖の時刻までのごみをごみ箱に捨てられないようにするというのは不可能である。それゆえ来年度は、必要物品にごみ袋を追加し、ある程度のごみが排出されることを前提として作業するようにお勧めする。
- 封鎖作業の際にクラフトテープを用いて実施すると、復旧の際に粘着面がごみ箱に残る恐れがあるので、来年度以降は必要物品に「布テープ」を明示すべきであろう。
- 封鎖ごみ箱に関しては、封鎖を藁半紙1枚のみで行なおうとするのは、愚策であった。実際、数箇所のごみ箱において、封鎖が破られていた。それゆえ、途中で段ボールによる封鎖に切り替えると効果があったようである。来年度以降は、手間がかかっても段ボールを利用して封鎖することをお勧めする。
- 封鎖作業の際に使用していた「屋内ごみ箱地図」に誤りがあった。実地調査・地図作成の時の単純ミスであったと思うので、配慮が足らなかった。



6.エコ商品

文責：河村　有介

(1) 目的

発泡スチロールトレーには汚れが著しいもの、絶対量が多いため人員的な問題で洗浄できないものなど、リサイクルに回せないものが少なからず存在する。また、資源的な観点でも枯渇性資源たる石油資源から更新性資源への転換なども視野に含め、より環境負荷の少ない容器の導入を図る必要がある。このような現状を踏まえて、環境負荷の少ない容器（エコ商品）の導入並びに利用の促進を行なうことを目的とする。

(2) 概要

京都大学生活協同組合（以下、生協）に対する環境負荷の少ない容器類の提案、11月祭期間中にエコ商品を利用する模擬店の広報、それに伴うエコ商品導入・利用の促進を行なうことを主たる職務とする。

時系列にすると、以下のようになる。

7月17日	生協に対してエコ商品の提案
	おからカトラリー（スプーン・フォーク）
	パルプモールドパッケージ（丸小鉢・どんぶり容器）
10月10日	当委員会が提案したエコ商品に関して生協との話し合い（於：花谷会館）
	おからカトラリー：価格が見合わない（高価格）ため、不可
	⇒代替商品として木製カトラリーを斡旋物品に入れることで合意
	パルプモールドパッケージ：どんぶり容器を斡旋物品に入れることで合意
10月13日	【例会】エコ商品使用模擬店の広報方法の検討
	⇒立て看板による使用模擬店の周知を図ることに
10月21日	第3回企画担当者説明会において、エコ商品の紹介
11月上旬	エコ商品使用模擬店（団体名・模擬店名のみ）が判明
	木製カトラリー：2店舗
	パルプモールド丼：4店舗
	紙コップ：1店舗 [3]
	生協本部（井崎さん）にエコ商品ＰＯＰの作成を依頼
	広報用立て看板の作成
11月21日	エコ商品使用模擬店へＰＯＰを配布（シフト名：「堆肥化説明」）

(3) 反省・今後の展望

- 広報の方法が不十分ではないかという指摘を生協から受けたが、今年度は立て看板・ＰＯＰによる広報のみとした。これは、11月祭事務局としては特定模擬店の優遇は、模擬店間の公平性の観点から望ましからざるものとされていたこと、また当委員会として広報手段に限りがあることが理由として挙げられる。しかしながら、広報は「エコ商品」企画の生命線というべきものであるため、来年度以降も広報の方法の検討は怠らないでいただきたい[4]。
- 企画担当者説明会における模擬店への説明で以下のような不備があったので、来年度以降も「エコ商品」企画を継続するならば、事前に問題となることの洗い出しが必要であろう。

ｉ）当委員会の「エコ商品」紹介が、生協の斡旋物品紹介と1週間あいてしまった点
　　→「エコ商品」と斡旋物品のことが、一連の事実として企画者側に正確に伝わらなかった。

ⅱ）「エコ商品」の紹介は口頭でのみ行なった点
　　→「エコ商品」の特典などが企画者の印象に残りにくい。

7. 集積場運営

文責：河村 有介

(1) 目的

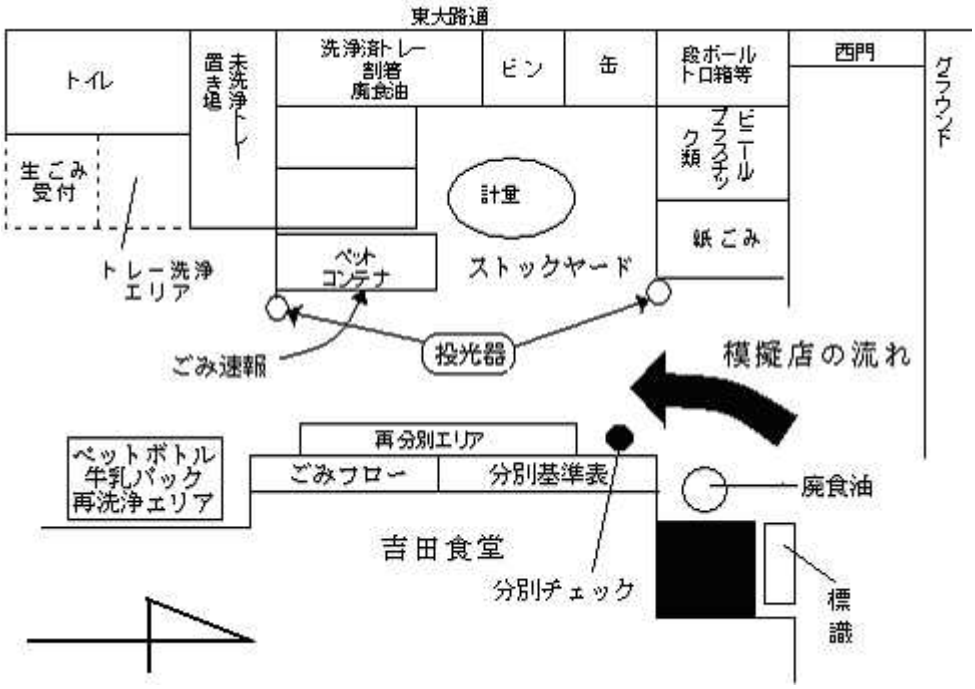
11月祭期間中に排出されるすべてのごみが集まる集積場を円滑に運営することで、資源ごみの回収や適正処理などの活動を容易にするとともに、集積場における活動を各企画者と共同して行なうことで、ごみ問題への意識を啓発すること、並びにごみの総量を把握し、次年度以降の資料とすること。

(2) 集積場配置地図

→次ページ

[3] この商品は、模擬店からの特別注文商品ではあるが、ケナフ製のため「エコ商品」の趣旨からして、当委員会推奨の商品と変わりはないため、「エコ商品」の対象とした。

[4] 昨年度は、エコ商品使用模擬店に対して発泡スチロールトレーの洗浄を1日免除という特典を与えたが、他の容器を使用する模擬店や容器未使用模擬店との間の公平性の観点から、今年度は中止した。



(3) 時系列

～11 月祭まで～

10月20日	【例会】集積場の当日運営についての概要を示す
10月27日	【例会】集積場における分別基準を示す
11月上旬	必要物品の準備
	集積場誘導表示の作成

～11 月祭当日（11 月 20 日～25 日）～

作業時間

●前夜祭　　18:00 ～23:00

●本祭　昼の部　　13:00 ～16:00

夜の部（1 ～3 日目）　16:00 ～21:00

〃（4日目）　16:00 ～23:00

●後片付け日　　8:30～12:00

～11 月祭終了後～

11 月下旬～12 月上旬　集積場使用物品の洗浄・保存

(4) 11月祭期間中の作業内容

＜前夜祭（18:00 ～23:00）＞

今年度から、前夜祭で出されたごみに関しては、店内10分別、店頭6分別とされた。また、前夜祭で出された発泡スチロールトレーは、本祭初日の朝に前夜祭の模擬店企画者によって洗浄されることとなった。詳細に関しては、前夜祭の章を参照されたい。

基本的には、本祭夜の部と同様の作業を行なうので、後述の「本祭夜の部」を参照されたい。

本祭夜の部と異なる点は以下の点である。

◆ ストックヤード表示の設置を行なう必要がある点。
　クラフトテープを使用して、ストックヤードの分別表示上に紙製の分別表示を貼付する。

◆ 集積場広報（分別基準表、ごみ処理フロー）・再分別エリア表示・集積場誘導表示の設置が必要である点。
　布テープを使用して、地図上に示されている位置に、それぞれのものを貼付する。

◆ トレー洗浄は行なわないので、「分別チェック」において、発泡スチロールトレーはすべて未洗浄トレー置き

◆ トレー洗浄は行なわないので、「分別チェック」において、発泡スチロールトレーはすべて未洗浄トレー置き場に誘導し、「トレー洗浄補助」をおく必要がない点。
◆ 前夜祭で出た段ボールは、ストックヤードに誘導する点。

結果及び反省点

- 集積場設営が19時になっても完了していなかったため、設営とごみの集積のピークとが重なってしまった。もう少し集積場設営の時間を早めてもよいのではなかろうか。
- 再分別エリア表示については、事前に貼り方を正確には定めていなかったため、貼る順番をめぐって現場で混乱が生じた。些事と思われることでもきっちり定めておくことは必要である。
- 上回生が少なく、1回生の指導が十分にできなかった。1回生には、分別基準などは事前に把握してもらうにしても、集積場に入ること自体は初めてなので、上回生が指導できるように初日は一層上回生を多めにシフトに入れるべきではなかろうか。(スタッフ管理との検討が必要)

＜本祭：昼の部（13:00 ～ 16:00）＞

作業内容	説 明
ストックヤード設営	投光器（3台）の設置
再分別エリアの設置	再分別エリア表示・ごみ袋の取り付け
	※7分別×3セット＋生ごみ（1）＋牛乳パック（1）
	※缶とビンとは、別分別になる。
ペットボトル・	必要物品の準備
牛乳パック再洗浄エリア設置	ペットボトル・牛乳パック再洗浄用のバケツ・水の準備
廃食油セットの設置	一斗缶・ざるの設置
	※集積場シフトの責任者に入る者は、シフトに入る前（13時前）までに、留学生センター前に廃食油セットを展開させておく。
計量の準備	計量に必要な物品の準備
ごみ受入・計量	ごみを持ってきた人に対する分別チェック・再分別補助
	ごみ総量の計量

※ごみ速報の設置（本祭 1 日目）
前夜祭のごみ総量の計算が終了した時点で、ごみ速報をペットボトルコンテナに貼り付ける。
→今年度は調査担当が 7 時～ 8 時に計算し、その後、代表によって作成・貼付していた。

＜本祭：夜の部（16:00 ～）＞

職名（括弧内の数:必要人員）	職務の内容
交通整理（1）	ごみを持ってきた人の整理（円錐コーン・紐の使用）
	集積場前を通行する車両等の誘導（拡声器の使用）
分別チェック（2～3）	持ってきたごみの判定
	合格者・不合格者への説明・誘導
ストックヤード整理・計量(2)	合格ごみの誘導・ストックヤード内のごみの整理
	ごみ総量の計量
再分別補助(3～5)	不合格ごみを持ってきた人が行なう再分別の補助
	不法投棄ごみ（ごみ集で回収されたもの）の分別
生ごみ受付(2～3)	堆肥化に適格な生ごみの判断・分別
	※必要に応じて有機農業研究会の指示に従う。
トレー洗浄補助(1)	リサイクル適格トレーの選別
	店内トレーを持ってきた模擬店の洗浄説明・補助
	トレーのすすぎ作業の実施
ペットボトル	不合格ペットボトル・牛乳パックの再洗浄説明・補助
牛乳パック再洗浄補助(1)	※牛乳パックは、集積場終了後に吉田食堂にて乾燥させる。

※その他、集積場の総括責任者（1名）を置く。
職務範囲：スタッフへの仕事の説明及び指示・ごみを置いていこうとする者に対する監視
合格者のごみの誘導・集積場を北進してきた人たちに対する交通誘導

結果及び反省点

- 昼間のトレー洗浄の撤収が完了していないため、昼の集積場設営が遅れたことがあった。トレー洗浄シフトについては、模擬店による洗浄作業が終了し次第、可及的速やかに撤収するようにしたい。
- 「分別チェック」に関して、スタッフへの事前説明が行き届かなかったため、各々分別基準が異なるということがあった。紙ごみ、ビニール・プラスチック類は、分別基準がさほど厳格でないため、やむを得ない側面はあるが、殊にペットボトル・牛乳パックのように分別基準が明確に定められている分別において、基準が異なるという事態は避けるべきであった。来年度以降は集積場シフトに入る人に対しては、事前に本部にて分別基準に関する説明(プリントしたもの)を配布して置くのがよいのではなかろうか。また、できるだけ「分別チェック」には、分別基準を知るコアスタッフが主導権をとる形で入り、コアスタッフが当日スタッフに対しても分別基準を説明できるようにするのも手ではあろう。また、その前提として、コアスタッフには分別基準を事前に把握してもらえるような策を講じる必要がある。例としては、今年度暫定的に行なった、分別基準についての話し合いをより積極的な形で行なうことなどが考えられよう。
- 「生ごみ受付」に関して、今年度は大半の仕事を有機農研にやってもらえたので、複数名のスタッフを置く必要がなかったのではなかろうか。ただし、有機農研と当委員会との間で、生ごみ計量方法に関しての意見の相違が見られた。当委員会としては、生ごみも全量計量するつもりであったが、有機農研は、部分計量を主張したことが発端であった。それゆえ、来年度は生ごみ計量に関して生ごみ堆肥化担当を通じた有機農研との確認の必要があろう。
- 再分別エリアにおいて、ごみの置き去りが発生したが、責任者もしくは「再分別補助」による再分別が終了した人に対する適切な説明を行なうことで対処できるのではないか。また悪質なものに対しては、責任者による監視・注意が必要である。
- 「トレー洗浄補助」「ペットボトル・牛乳パック再洗浄補助」に関しては、恒常的に置く必要がないので、「再分別補助」の片手間にやってもらうようにスタッフに指示すべきであった。

＜後片付け日（8:30～11:00）＞　⇒後片付け日の章（P33）を参照

(5) 集積場運営全般に関する反省

- 今年度は吉田寮学生集会所内のサークルがごみを持ってくる自体があった。しかしながら、学生集会所内の各サークルにまで11月祭に関係のないごみ受入の原則拒否を周知させるのは、困難なことと考えられるため、来年度以降も集積場に持ってきた人に対して、個別に説明して、引き取りを願うしかなかろう。
- 集積場設営の際、ストックヤードに前日までのごみが大量に残されたままであった。これは、事前に施設・管理掛に対してストックヤードのごみを前日までに全量回収する要請をし損ねたためであった。原因は担当の単純ミスであったので、来年度以降は十分に気をつけていただきたい。

8.発泡スチロールトレー洗浄

文責：小林 洋介

(1) 作業目的

発泡スチロール製トレーは、11月祭において多量に使われる容器類である。したがって、洗い皿を貸し出して排出量の削減に努める傍ら、排出されたトレーについてはリサイクルへ廻して環境負荷の低減に努めねばならない。しかし、業者に回収してもらう前にはこちらで洗浄処理を行う必要があるため、11月祭で排出されたごみに関しては、各模擬店が共同で責任をとるべきであるとの考えから協力してもらい、回収量のうちできるだけ多くを洗浄できるように円滑な運営を目指した。また、この作業を通じて発泡トレーリサイクルについて少しでも知ってもらい、またリサイクル前に排出者側で洗浄することがいかなるときにも必要であることのアピールになればということも考えた。

(2) 実施日時及び場所

・日程

学園祭本祭 2 日目～4 日目（最終日）と後片付け日

・時間

a 地区　10:00 ～ 10:25　と　10:40 ～ 11:05
b 地区　11:20 ～ 11:45
c 地区　12:00 ～ 12:25

・場所

集積場南トイレ前

(3) NF までの準備（時系列）

～10 月　業者連絡など。詳細は総括を参照。
10 月 20 日　発泡トレー洗浄企画書提出
11 月 3 日　トレー洗浄当日マニュアル第一版提出
11 月 10 日　同第二版（最終版）提出
NF1 週前　必要物品調達、リサイクル処理の意義と作業手順説明書作成（手直し、プリントアウト）出席確認表作成、洗浄場所南水道にホースがあるか確認（今年はなかったので施設管理課にお願いして借用）、バケツの洗浄
NF 後　事務局へ欠席模擬店の報告

(4) 作業の概要

① 洗浄場所の準備

- 集積場前に受付をつくり、棚に手袋スポンジを置く。また、受付標POPを付ける。
- リサイクル処理の意義と作業手順説明書を集積場の扉に貼る。
- 洗浄用バケツに水を入れて並べ、両脇にひっくり返したバケツを配置し、椅子とする。
- すすぎ用の水槽に水を入れ、設置する。
- 洗浄済みトレーを並べて水を切るためのブルーシートを設置する。
- 回収されたトレーのうち洗浄不可能なものを取り除き、各模擬店にやってもらう分量に分ける。※汚れがひどいものは紙ごみに分別した。

② 洗浄作業

- 模擬店配置の地区ごとに時間を割り振って（a地区は多いので二つに分けた）一人以上来てもらった。11月祭で排出されたごみは、祭りを形成している模擬店が共同で管理する、という考え方から、発泡トレー以外の使い捨て容器を使っている模擬店に関しては洗浄作業をしてもらった。
- 洗浄時間中のスタッフ作業割り振りは、受付兼責任者、すすぎ、未洗浄トレー仕分け、バケツの水交換に各一人ずつ。

＜受付担当＞

＜受付担当＞

来た模擬店を出席確認表にチェックしていき作業の説明を行う。その後ゴム手袋とスポンジをわたして作業に入ってもらう。バケツの数が足りないとき、大幅に遅刻してきた模擬店があったときはすすぎにはいってもらう。受付担当者が責任者を兼ねるので、全体の様子をみて、必要に応じて指示を出す。

＜すすぎ担当＞

各模擬店の洗い終わったトレーを回収し、すすぐ。その後トレーを大まかに大きさ、形ごとに分けてブルーシートにおく。

＜水交換＞

バケツの水が汚れすぎていないか見て回る。この人が水を換えるのは作業中のみで、作業が終ったら洗浄作業をした人にバケツの水を捨ててもらう。バケツをいくつかストックしておくとよいだろう。手が空いたら仕分けやすすぎを手伝う。

＜仕分けの人＞

準備の時の作業を継続し、洗浄不可能なものを取り除き、分量に分ける。

③ 洗浄場所の片付け

- 洗浄済みトレーは袋にできる限り多く入るよう整理してつめて集積場内の扉の中に保管する。
- 未洗浄のトレーをまとめ、下の置き場に片付ける。（集積場とトイレの間）

(5) 反省・報告

	模擬店出席率			
	22日	23日	24日	25日
10：00～10：25	100	108	100	57
10：40～11：05	100	79	62	62
11：20～11：45	86	86	68	76
12：00～12：25	56	56	69	63

出席率は上記のようになった。算出方法は、（出席した模擬店数）÷（各地区洗い皿以外の模擬店数）である。また、今年洗浄できた発泡トレーは約 15000 枚で、排出されたトレーが全部で約 54000 枚であるので、約 28％の洗浄率である。

- 洗い皿模擬店が洗浄にも来たために 23 日午前が 100％を超えている。作業 2 日目の出席率が基本的には下がるので帰るときに明日もおねがいしますと一声かけたほうがよいかもしれない。また、洗い皿模擬店は免除ということをしっかり伝達すべきである。
- ｃ地区の出席率が全般に低いのは遠いためか時間が悪いからか分からないので次年度なんらかの調査をしてみるとよいかもしれない。
- 洗浄率の問題、ｃ地区の平等性の問題、また、午後にずれ込んでも集積場がそれほど多忙ではない点を考慮すると時間については再考の余地があるだろう。
- 昨年度に比べると出席率はおおむね上昇している。これは、巡回トレーの効果が大きい。

（トレー洗浄時間の前に、巡回をして連絡した。詳しくは広報担当の頁を参照）

(6) 次年度へむけて

- 未だ洗浄率が半分にも満たないので、せっかく分別をしてもあまりリサイクルに廻せていない。したがってさらなる改善が求められる。
- 各模擬店の分量をきめるのをやめて、完全時間制にしてもよいかもしれない。分量があるからといってそれほど必死になるという様子は見られないためである。
- 洗浄時間の拡大も含めて、もっと洗浄率を向上させる方策が必要。負担増もやむをえないのでは。模擬店が嫌がるのは大変であるということより、むしろ衛生面である。
- 責任者兼受付をすると忙しかったので、周りを見渡せるバケツ交換などの方がよい。受付は一対一で

一で話をする時間が多く、難しい。

・　引き取ってくださる業者の方のためにも、洗浄済みトレーはしっかり重ねて密につめる。ただ、その作業は余裕がなければ後日にまわしてもよいだろう。

第 3 話　前夜祭担当

文責：嶋 宏紀

1.前夜祭環境対策の目的と概要

本祭とは異なり、

・　夜間に行われる

・　応援団主催（*1）

という前夜祭においても、その勝手の違いを吸収し、本祭並みの環境負荷低減を行うことを今年度の目的とした（より分別方式を本祭に近づけるため、今年度は発泡スチロールトレーの分別回収を新しく導入した）。また、

・　本祭準備と平行して行われる

ために、本祭における環境対策運営に負担を掛けないことも重要である。具体的活動の概要は以下の通り。

・　応援団との意思疎通　…①

・　対模擬店説明会　　…②

・　前夜祭における活動　…③

a）集積場周辺の交通整理

b）模擬店巡回（ごみ袋の設置、模擬店への指導）

c）集積場運営（→ごみ分別・リサイクル担当のページ（P9）参照）

d）発泡スチロールトレーの洗浄（本祭1日目）

(*1)祭りの運営者である応援団にも環境対策の一翼を担ってもらうということで、応援団に“応援”を要請できる。借り出した人員等は4.参照）

2.前夜祭分別回収システムの概要と前年度からの変更点

(1)以下では、本祭と前夜祭とで異なる回収システムと、前年度と今年度との相違点について示す。まずは前夜祭の回収システムについて概要を述べる。

・　**分別数**

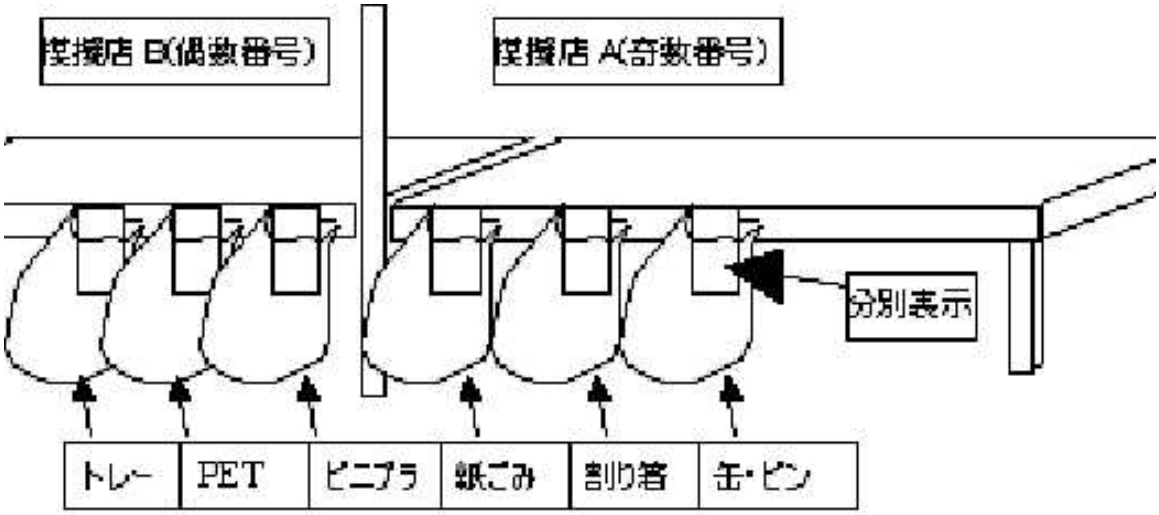
店頭は「ビニール・プラスチック類」、「紙ごみ」、「ペットボトル」、「割ばし」、「缶・ビン」、「発泡スチロールトレー」の6分別、店内はこれらに「生ごみ」、「牛乳パック」、「段ボール」、「廃食油」を加えた10分別である。

・　**ごみ袋の設置**

ごみ袋は、店頭設置のものと店内設置のものに分かれる。会場ごみ箱は設置しない。

・　**店頭ごみ袋**

店頭ごみ袋（90リットル透明）は、応援団の用意のもと、次図のように設置する（分別表示はA4に大きく文字を刷ったもので、環対の準備品）。各模擬店の担当ごみ袋は、各3袋ずつで、1つのテント（2模擬店分）に6分別全てが存在するようにする。基本的にはテント中央から両脇に3つずつ・6つ並べて設置するが、火元に近い場合は位置をずらす。また、店頭に机を設置しない模擬店は、テントの柱に取り付ける。（いずれにしても店頭設置が原則である）



- **店内ごみ袋**
  各模擬店で用意してもらう。45リットルの大きさで透明のものを推奨。
- **集積場の運営**
  タイムスケジュールは4.参照。運営の内容についてはごみ分別・リサイクル担当のページ参照。

(2)次に今年度の新たな試みについてである。

前夜祭における分別システムは前年度までである程度固まりつつあり、ほとんどの部分で前年度のものを継承したが、前述の通り、昨年度までは「ビニール・プラスチック類」として回収していた発泡スチロールトレーを別回収とし、洗浄も行うことにした。ただし排出量等について情報がなかったために、洗浄については、

① 応援団から3名を借り出して行う
② 各模擬店から1名ずつ2部に分けて借り出す

等案をいくつか出した。2の方は、量が不明である以上、もし排出量が少なかった場合に、借り出しておいて人手を余らせてしまうことになっては困るということで一時期ためらわれた。が、説明会前までには1と2の併用で行うことが決定した。実際の運営については4.を、反省点に関しては5.を参照されたい。

また、それ以外に、店内分別に「牛乳パック」を導入している。

3.前夜祭前日までの活動(上記①と②)

上にも記した通り、前夜祭においては環対スタッフ以外に、応援団員をメンバーに加えることができる。また、②模擬店に対する説明会(本祭の企画担当者説明会にあたる)も当然応援団の主催で行われるのだから、①応援団との意思疎通が重要である。

以下にスケジュールの概要を示す。

9月中旬～	応援団担当者と連絡を取り、分別システムの概略を伝達し、借り出す人員を大枠で決定。細部は随時決定。(借り出す人員は4.参照)
10月初旬～	説明会で模擬店に配布する資料を作成。トレー洗浄の方針を決定。
10月5日	【例会】今年度の方針(→1.)と今後のタイムスケジュールを発表。
10月20日	②模擬店に対する説明会　(1か月前に1回しか開催されないということで、専用のレジュメを配布し、かなり多めの説明を加えた)
10月末	模擬店数の確定後、必要ごみ袋数を応援団に伝達。(店頭ごみ袋)
11月初旬～	当日模擬店配布資料(分別の概略を示したもの)、店頭ごみ袋の分別表示を作成
11月3日	【例会】前夜祭各シフトについてコアスタッフに説明。(→4.)
11月10日	【例会】前夜祭当日朝駐輪規制ロープ張りについて。(→4.、5.)
11月17日	応援団員に対して分別についての説明会(当日模擬店配布資料と同様のものを配布して説明した)

11 月 17 日　応援団員に対して分別についての説明会（当日模擬店配布資料と同様のものを配布して説明した）

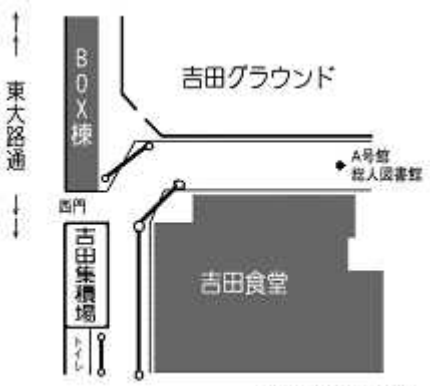
4. 前夜祭当日・翌日の活動（上記③）

以下に前夜祭当日と翌日のシフトごとのタイムスケジュール“案”を示す。これは、前夜祭前に例会発表したもので、実際には若干の予定変更があった。それについては更に下に示す。（模擬店開店時間は16:45 ～ 20:30、撤収は 21;00）

- ロープ張りシフト　駐輪規制のため、当日朝に集積場周辺のロープ張りを行う。(*2)
- 自転車整理シフト
  14:45 ～ 16:15　応援団から 3 名が整理、環対コア 1 名がトラメガで交通整理。
  16:15 ～ 19:00　NF 事務局が整理。環対コア 1 名がお手伝い。(*3)
- 巡回シフト
  14:45 ～ 16:15　応援団 3 名、環対コア 3 名を 3 チーム（応援団 1 名＋環対 1 名）に分け、各チーム20店ずつ巡回しつつ、店頭ごみ袋設置と当日資料の配布・説明を行う。
  20:00 と 20:30　トラメガを持ってごみ回収の呼びかけ。（環対コア各1名ずつ）
  21:00　ごみ未回収模擬店にピンポイントで呼びかけ。（環対コア1名）

- トレー洗浄シフト（翌日）
  7:00 ～ 8:30　担当長＋応援団員 3 名で。模擬店番号が奇数の模擬店には 7:30 から、偶数の模擬店には8:00から1名ずつ協力を願って、それぞれ25分を目安に洗浄してもらう。
  準備、運営の要領は、出席を取らない以外は本祭トレー洗浄と同様。

(*2) ロープは次図の位置に三角コーン（不足分はポリタンク）を用いて設置。



吉田南構内図

(*3) 応援団員を借り出せない時間帯について、NF事務局との代表（による）折衝で、事務局と合同で自転車整理を行うことが決定した。

実際の活動

- 自転車整理シフト（14:45 ～ 16:15）
  吉田集積場と吉田食堂の間の整理を、交通整理 2 名、自転車移動 2 名で行った。
- 巡回シフト（14:45 ～ 17:00 時間超過）
  前日に急遽、応援団は応援団3人で組んでごみ袋の設置を専任で担当することが決定した（この方が効率的ではある）。環対は 3 チームに分かれ、資料配布・説明を専任で行った。実際には応援団員は 2 人しか来ず、また中途退出（15：45）してしまったので、約半数の模擬店は、環対でごみ袋設置を行った。（→5. も参照）
- トレー洗浄シフト（7:00 ～ 9:00 時間超過）
  準備時間が30分では足りず、模擬店が来るようになってからも仕分け、バケツの水汲み等を行った。また、

また、人数に余裕があったので、仕分け・すすぎにも、模擬店からの人員を割り当てた。（→ 5.も参照）

5.反省・今後の展望

全体の流れにおいては、こちらの事前の意図を一定満たすだけの成果が得られたと考えられる。よって、来年度以降の環境対策活動のために、個別の反省点・改善点に絞って以下に列挙したい。

分別について

- アルミホイルの分別について、前夜祭では「ビニール・プラスチック類」、本祭では「紙ごみ」と分かれることになってしまった。混乱を避けるために本祭の方に統一すべきであった。

企画・運営関係

- 対模擬店の説明会が1か月前に1度しか行われなかったため、分別内容や意義の周知のために、説明会では、少々くどいかなと思われるレベルまで説明をした。来年度以降は、説明会の時期をより前夜祭に近づけるよう応援団に働きかける、模擬店関係者全員への周知を徹底して呼びかける、など、より説明会の効果があがるようにしていきたい。
- 当日朝の駐輪規制ロープ張りは、自転車整理の効果はかなり薄かった。来年度以降も行うのであれば、より目にとまりやすい駐輪禁止表示の開発など、抜本的改革が必要だろう。
- 14:45 ～ 16:15 の自転車整理は、実際には交通整理 2 名、自転車移動 2 名で、集積場前の南北の道の整理を行った。この程度で精一杯であったとの反省が出た。
- 今年度の自転車整理は、応援団から借り出す人員が不足したために、やむをえず一部NF事務局と合同で行った。このことに関しては、より安定し、一貫したシステム構築のために、応援団、事務局、環対の3者で話し合うことが必要である。
- 自転車整理の際に、事前通告を行わず自転車を移動したために、その持ち主からかなり不満が出た。事前に移動の方針を定めてどこの自転車がどこまで移動させられたのか、シフト担当者全員が把握すること、また、移動状況を案内する人や掲示を用意することで、来場者の不満は軽減できると考える。

模擬店、巡回関係

- 店内ごみ袋（45リットルで透明のものを推奨）を、応援団の方で斡旋してもらうと、不透明ごみ袋をより減らすことができ、集積場運営の効率化につながる。（本年度は間に合わなかった。夏休み中に折衝を持つべき）
- 4.に記したように、巡回シフトで応援団員が中途退出したため、店頭ごみ袋設置が遅れ、私設ごみ袋（ほとんど未分別）が増えた。人員交渉については確実に行うことが望まれる。
- 店内ごみを店頭ごみ袋に入れている模擬店があった。店内にあって店頭にない分別がおろそかになるおそれもあるので、そのようなことがないよう、説明会や巡回での周知徹底が必要である。
- 分別表示は簡便でよいし、充分に機能する。
- トレー洗浄に関しては、応援団の呼びかけの効果か、出席を取らないにも関わらず予想以上に出席率が高く（60 模擬店から 20 人ずつ 2 回で 40 人程度）、排出量の約半数を洗浄できた。（ちなみに、前日の巡回時にはトレー洗浄を知らない模擬店も散見した）

第 4 話　後片付け日担当

文責：古賀　啓一

1. 目的

11月祭4日間が終了し、その翌日、構内を元の状態に戻すためにすべての企画からのごみがこの日に出尽くす。その量は膨大なものになり、また、後片付け日に行われる大清掃の指揮を11月祭事務局（以下、事務局）が執るため、適切な分別回収を行うためには私たちが十分な用意をする必要がある。

2. 内容

主に行った作業は以下にあげるとおりである。

(1) ケルンへのごみ回収のお願い

ごみの分別種類と予想される回収量をケルンに伝える。今年度の場合は分別が「ビニール・プラスチック類」「紙ごみ」「缶・ビン」「ペットボトル」「発泡スチロールトレー」「段ボール」「割り箸」「廃食油」「生ごみ」「牛乳パック」の10種類であり、このうちケルンに回収してもらう「ビニール・プラスチック類」「紙ごみ」「缶・ビン」「ペットボトル」「段ボール」の6種類についてそのおおよその量を伝えるとともに回収をお願いした。その際ごみ分別・リサイクル担当がケルンに毎日の回収をお願いするときに一緒に伝えてもらった。おおよその量に関しては総量調査を参照のこと。

(2) 大清掃関連

企画を片付ける際のごみの分別回収とは別に、本部構内、吉田南構内、校舎内の清掃を事務局が主導で模擬店が行う。その際の分別数や回収方法について環境対策委員会が指示をするとともにそのシステムについて事務局と早い段階から確認を取り合った。具体的にはこちら側からどれくらいの人員を大清掃の指示に出すか、企画に割り振る場所はどこでどのごみを回収してもらうのか、といったこと。企画側には「模擬店企画虎の巻」を通して伝えられる。

今年度と昨年度に大きな違いはなかったが、後片付け日は例年環境対策委員会側に人員が足りなくなる傾向があるのでグラウンド中央部と本部構内附属図書館前の2箇所に2人を出すことになった。また例年の参加率の低さに対処するために後片付け日の説明プリントを作り、事務局に最終日に配布してもらった。今年度は事務局側のトラブルにより大清掃の指示に環境対策委員から当初の予定より多くの人員を出さなければならなくなった（反省参照）。

(3) ごみ回収場所、再分別方法等

集積場だけで対処するには量が多すぎるので、特に量が多いと予想される「ビニール・プラスチック類」「紙ごみ」「段ボール」に関してはグラウンドで回収した。再分別基準に本祭期間中との違いは作らなかった。グラウンドと集積場の両方に再分別エリアを設けた。鉄板や看板等も出るので小さくできるものは小さくしてごみ袋に入れてもらう。回収できるか分からなくなったときはケルンに直接電話で確認を入れた。

3. 時系列

当日まで

9月下旬	ケルンにごみの分別数について連絡（分リサ担当に依頼）
9月25日	大清掃について事務局との確認
11月3日	当日マニュアルを作成
11月20日	最終日配布プリントの作成

当日（詳細は当日マニュアル参照）

8:30～9:00	ごみ受け入れ準備	グラウンドと集積場で再分別エリアと回収場所を設置する。
9:00～12:00	ごみ受け入れ	グラウンドと集積場でごみの回収と再分別を行う。作業内容は本祭期間中と違いはない。
9:30～10:30	巡回	集積場の回収時間を宣伝するとともに不法投棄の有無を確認する。
11:00～11:30	大清説明	ごみ袋の配布と回収するごみの説明、担当区域を割り振る。
13:00～17:00	業者待ち	ケルンが回収に来るのを待つ。

※　12:00 ～ 13:00 に総量調査がある（調査担当参照）

※　実際のごみ受け入れは業者が来るまで断続的に続けられた

4. 反省点

(1) 清掃時の説明について

今年度は企画の大清掃の参加率を増やすために本祭最終日に後片付け日のごみ回収についての説明プリントを配布して注意を呼び起こした。だが参加率に大きな変化はなく、特にグラウンド企画はほとんど参加しなかった。このことにより担当ごみや回収区域の割り振りを大掃除説明者の任意で割り振ってもらうことにした。今後も、来た模擬店から順に割り振る方式を取ったほうがうまく割り振れるだろう。また参加率を上げる方法も今後の大きな課題として残った。

(2) ごみ受け入れについて

午前中に時間を設定していたが、結局時間を過ぎてもちらほらごみを持ってくる企画が後を絶たなかった。これには回収業者が来るまでは再分別をしてもらい、業者がごみを回収した後については関知しない（吉田集積場に入れてもらう）ことで対応した。

(3) 今年度の大清掃時のトラブルについて

事前の打ち合わせでは大清掃時の説明については事務局側がその大半を行うことになっていたが、本祭中の天気の悪化を含むトラブルにより当日急遽人員が出せなくなってしまった。今回はこちらが何とか人を出せたが、本来の事務局の責任としては大清掃も祭りの運営に含め、確実に人員を出してもらいたかった。次年度はこの点についてよく話し合ってもらいたい。

5. 次年度への展望

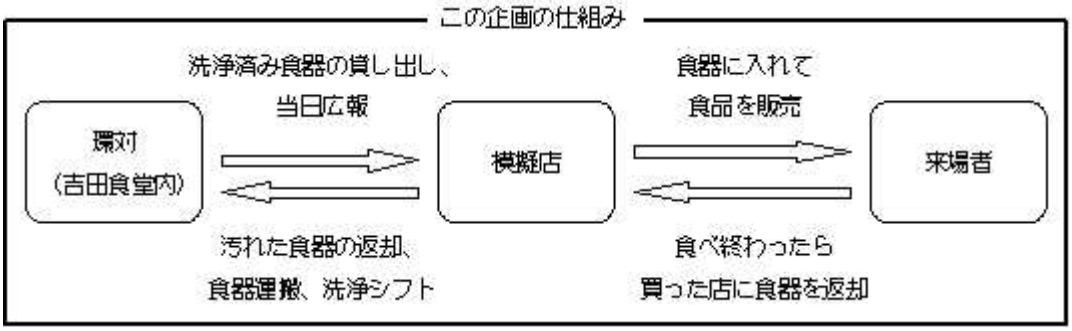
この担当になったからには大掃除の企画の参加率を増加させたい。今年度の対策では不十分だったのかもしれない。分別率に関しては本祭期間中の経験もあってかなりの上昇が見られるので問題は少ない。あと、これは全体的にもいえることだが、特に最終日である後片付け日ではごみをもってきてくれた企画に対する感謝の気持ちをもって接する必要があると思う。細かいところでの気配りは双方にとって与える印象という意味でも重要だし、再分別といった作業での効率と正確さに影響があるだろう。本当の意味で最後をうまく終わらせるために反省点と今年度気がつかなかったことも含めて対策を練ってほしい。

第 5 話　洗い皿担当

担当:福井 くにこ・遠藤 章弘
文責:福井 くにこ

1.洗い皿企画とは

洗い皿企画は、環対・模擬店・来場者が協力して、模擬店の食品販売において、洗い皿・洗い箸（プラスチック、竹製）を繰り返し使おうという企画である。ＮＦ前に参加模擬店の募集と広報活動を行い、ＮＦ中は以下のような仕組みで運営を行った。



なお、食器洗浄には吉田食堂の洗浄機を使わせてもらい、模擬店がシフトを組んで行う。皿の洗浄費と皿・箸の紛失補償費は模擬店に支払ってもらい、洗浄費は吉田食堂に納める。

2. 目的

- 洗って何度も使える皿・箸（洗い皿・洗い箸）を使うことによって、使い捨て容器の使用量を減らし、ごみの減量を目指す。
- 模擬店の人たちには洗い皿を使った模擬店運営を通じて、また来場者には洗い皿の利用や各種広報を通じて、ごみの発生抑制の大切さを理解してもらい、環境負荷軽減の意識を持ってもらう。

3. 全体の時系列

募集・広報	当日システム運営
5.26 例会 2003 年度洗い皿計画作成	
6.02 例会 ①申し込み時期の決定 ②模擬店へのアピールポイント、時期・方法の検討	6.02 例会 箸の扱いの決定
6.10 洗い皿サンプル作成	
6.16 例会 ①卓上メモの内容、展開時期・個数の検討 ②預かり金、キャンセルの罰則規定の決定	
6.16、6.19 ＮＦ企画説明会にて洗い皿の説明	
6.20 卓上メモ設置のお願い→生協学生委員会	
7.01 洗浄機使用・立て看設置のお願い（口頭）→吉田食堂	
7.05 立て看修正	
7.07 ～ 7 月末 立て看設置期間	
7.14 ～ 9.12 卓メモ設置期間	7.15 吉田食堂使用依頼（代表の文書）
7.22 ～ 7.25 企画申請期間（1 次募集）	7.25 皿数え
	7.28 例会 希望皿が重なった場合の対応の検討
9.08 ～ 9.12 企画申請期間（1 次募集）	

10.07　第１回模擬店企画担当者説明会
（企担Ⅰ）…2 次募集の開始

10.09　パン箱借用のお願い（口頭）
→吉田ショップ

10.13　例会　箸入れ PET
ボトル収集開始

10.14　企担Ⅱ…2 次募集〆切、皿決定、
預かり金領収

10.21　企担Ⅲ…最終募集の開始

10.26　重複皿の印し付け

10.27　例会　当日の流れの確認

10.28　企担Ⅳ…ポスター作成依頼

10.31　最終募集〆切

11.11　企担Ⅴ…洗浄シフト発表、当日の作業説明、ポスター回収

11.12　ＰＯＰ作成

11.12　パン箱借用のお願い（文書）、
洗浄機使用時間の最終確認
（代表の文書）

11.18　皿のピックアップ、箸入れ作成

11.19　台帳作成

※11.20～11.25　ＮＦ

12.02　企担Ⅵ…預かり金の返却

12.02　協力のお礼、洗浄費納入
（代表の文書）→吉田食堂

4.募集、広報について

(1) 作成書類

①洗い皿紹介レジュメ　②卓上メモ設置のお願い　③1次募集説明レジュメ　④2次募集説明レジュメ　⑤洗い皿希望調査票　⑥最終募集説明･申込みレジュメ　⑦ポスター作成依頼レジュメ　⑧当日作業説明レジュメ

(2) 募集の仕組み

- 模擬店企画申請時に、事務局の申請用紙の洗い皿希望欄に印をつけた模擬店を1次募集とする。
- 定員以上の模擬店が申し込んだり、希望食器が重なってしまったりした場合の抽選に落ちた模擬店に対して迷惑になるので、キャンセルは原則禁止。
- 企担Ⅱで2次募集の申し込み受け付けと、1次・2次募集の使用食器希望調査・決定、預かり金領収を同時に行う（説明会開始前に⑤を回収、終了後に決定した食器を連絡、預かり金領収）。この領収以降、キャンセルした場合に違約金2,500円がかかる。
- 企担Ⅲから10月末まで、最終募集の申し込みを⑥の提出または電話で受け付ける。
- 企担Ⅴで⑧を参加模擬店に配布し、NF中に模擬店がする作業を説明した。⑧には洗浄シフトを記載し、この日以降にキャンセルした場合は違約金に加えてシフトにも参加してもらうこととした。
- 企担Ⅵで、預かり金から洗浄費（皿１枚あたり３円）、紛失補償費（皿１枚 100 円、箸１膳 10 円）、違約金（キャンセルの場合は洗浄費・補償費を取らず2,500円のみ）を差し引いて返却した。

(3) 広報活動

参加模擬店募集

- NF企画説明会で①を配布し、洗い皿の簡単な説明を行った。
- 生協学生委員会に卓上メモ枠を借りて（②を提出）、北部・中央・ルネ・吉田・南部の各食堂に置かせてもらった。

- 吉田食堂前に立て看板を設置した。企画申請の始まる前は、洗い皿サンプルも立てかけた。
- 企画申請時、事務局に③を配布してもらった。また、事務局の申請受付にサンプルを置いてもらった。
- 企担Ⅰで④、⑤を配布し、洗い皿の紹介と2次募集の説明を行った。
- 企担Ⅲで⑥を配布し、最終募集の説明を行った。
- NF 企画説明会、企担Ⅰ～Ⅳには洗い皿サンプルを持参した。

当日広報

- 企担Ⅳで⑦を配布し、レストスペース立て看（企画担当のページを参照）のためのポスターを、事前に各参加模擬店に作ってもらった。
- 洗い皿 POP（洗い皿使用を示す吊り標識）を21日の朝各模擬店に配布し、店頭に設置してもらった。POP は 24 日に回収した。
- 洗い皿アピール看板、環境企画参加模擬店地図（広報担当のページを参照）

(4) 結果と反省

1 次募集での申し込みが 11 店、事前キャンセルが 1 店、当日キャンセルが 3 店で、実質 7 店がのべ 3853 枚、1347 膳の食器を使用、紛失数は 29 枚と 3.5 膳だった。

今年から、食品販売における使い捨て容器の併用は、使い捨て容器削減という趣旨に沿わないため、キャンセルと見なす事にした。当日キャンセルの3店には、このことをしっかり理解してもらえていなかったようだ。特にそのうちの1店については、模擬店の事前の質問に対してこちらが不用意な受け答えをしてしまったため、洗浄シフトにだけ入ってもらうことにして、違約金は取らなかった。③をもっと丁寧に作り、企担でもきっちり説明すべきだった。しかし、1次申請の時点で模擬店が得られるのは1枚の書類の情報だけだ。細かい決まりなどは、書類を読んだだけでは伝わりにくい。さらに、キャンセルできないということが敷居の高さにつながっているようなので、「キャンセル原則禁止」の是非を、もう一度検討すべきだろう。

前期から企画申請期間にかけて、参加模擬店募集とともに、〔2〕の二番目の目的を達成するべく、来場者となる学内の学生に洗い皿の存在を知ってもらう目的で、卓上メモと立て看の設置、サンプルの展示をしてみた。卓上メモは多くの人の目に触れ、効果があったのではないかと思う。ただ、前期だけだとどうしても印象が薄いので、余力があれば後期の来場者向け広報を考えてみてはどうか。洗い皿の名前がもっと学内に浸透すれば、参加模擬店のメリットにもなると思う。

企画申請期間中、事務局の申請受付に洗い皿について多くの質問が寄せられていたようだ。この時期は環対内でも洗い皿のシステムを把握しているスタッフが少ない。環対スタッフを申請受付に常駐させることはなかなか難しいと思うが、来年からはスタッフが説明に赴くか、事務局向けに説明マニュアルを準備するなど、質問に対応する方法を考えるとよい。

5.当日システム運営について

(1) 作成書類

①パン箱借用のお願い　　②洗い皿台帳

（吉田食堂への提出文書には、代表が本部用とまとめて作成したものがある。代表のページ参照）

(2) 食器の管理・貸し出し

・　NF直前に、使う食器をピックアップ、予備皿と分けてまとめておく（工学部一号館地下）

※ NF中の作業計画（詳しくは、当日マニュアルと当日作業説明レジュメを参照）

・　前夜祭　11.20　　スタッフ4人

13：00～　　食器の運搬（工学部一号館地下→吉田食堂）

13：30～　　食器の事前洗浄、食器並べ（模擬店ごとに並べる）

18:00　　終了予定時刻

・　本祭　11.21～23　　スタッフ3人

9：00～　　受付（食器の貸し出し、交換、受け取り）、食器運び

13:00～　　洗浄シフト開始

18：00　　洗浄シフト終了、枚数確認、翌日の準備

18:30　　終了予定時刻

・　本祭（最終日）　11.24　　スタッフ3人

9：00～　　受付（食器の貸し出し、交換、受け取り）、食器運び

13:00～　　洗浄シフト開始

20：30～　　洗浄シフト終了、枚数確認、梱包

21:30　　終了予定時刻

・　後片付け日　11.25

9 ：00 ～　　食器の運搬（吉田食堂→工学部一号館地下）

(3) 洗浄シフト

吉田食堂の方2人に手伝っていただき、その方々の指示で皿の洗浄をしてもらった。皿を拭き、並べて積む作業はスタッフが指示して、適宜手伝いながら行ってもらった。

	21日（金）	22日（土）	23日（日）		24日（月）
13：00～14：15	物理探査工学研究室（2）	工学部1回生11組（3）	Mak！（3）	13：00～14：25	農学部1回応用生命科学科（3）
14：15～15：30	MADE　IN　農学部（3）	Mak！（3）	H2（3）	14：30～15：55	農学部森林科学科1回生（3）
15：30～16：45	京大フィールドホッケー部（3）	食物や（3）	おしるこ たがため（3）	16：00～17：25	物理探査工学研究室（3）
16：45～18：00	工学部1回生11組（3）	H2（3）	農学部森林科学科1回生(2）、農学部1回応用生命科学科(2)	17：30～18：55	MADE IN 農学部(2)、おしるこ たがため(2)
				19：00～20：25	京大フィールドホッケー部(2)、食物や(2)

(4) 結果と反省

今年は皿の回転が予想以上に速く、途中3店で予備皿を追加した。当日までに使用皿と予備皿をまとめ、前夜祭で両方運んでおくのは大切である。また、午前中に結構な数の皿が溜まってしまうので、スタッフの手伝いで生協の方に 12：30 から洗浄していただいた。

ラップと、皿の汚れを拭う紙（トイレットペーパーを使ったが新聞紙の方がよい）が足りなくなって途中で用意したり、パン箱の下に敷くはずだったダンボールが、受付横から机の上に置く場所を変えたため必要なかったりした。また、必要スタッフ数の報告の締め切りを過ぎてから急に変更をお願いすることになってしまった。必要物品、必要スタッフや作業の所要時間ももっと早めに考えておくべきだっただろう。

同じ種類の皿を複数店が共有すると、紛失時にどの模擬店の責任になるのか分からないため、希望が重なった汁椀赤にスプレーで印をつけてみた。受付の2重チェック計数が功を奏したのか、最終的には台帳通りの数になったが、途中誤って2種類の汁椀を混ぜてしまうことがあった。また、スプレーといえども何回も洗っているうちに薄くなってきていたので、来年は常に注意するか、他の方法を考えた方がいいかもしれない。

洗い皿を吉田食堂に持って来ずに、自分たちで洗って使っている店があるのを巡回で発見し、注意してやめさせた。作業の説明時に、食堂以外で洗うという事態を想定していなかったため、特に禁止事項として強調はしなかった。衛生上大変問題があるので、来年以降は注意してほしい。

洗い皿シフトは長時間で、途中責任者が替わるが、前後の責任者ときちんと連絡を取るようにするべきだった。思わぬ所で行き違いが起きるし、責任者が気を付けておけばよい細かい注意点があるので、詳しい責任者用マニュアルのようなものが必要であろう。

厚意で手伝ってくださる生協の方々には、作業中に差し入れをする、NF終了後手土産を持ってお礼にうかがうなど、感謝と礼儀をもって接することが大事だ。洗浄シフトや食器運搬をしている模擬店にもこまめに声をかけ、洗浄シフト中に差し入れをするように気を配ったつもりだ。これからも洗い皿に関わる人すべてが気持ち良く作業できるように心がけてほしい。

この企画は、洗い皿使用数が減らしたごみの数にほぼ比例するという、結果がダイレクトに見える企画だ。しかし、費用が若干安くなったりイメージが良くなったりというメリットに比べて、模擬店の作業負担や買った店に食器を返す面倒さなど、デメリットも多く、模擬店に対して魅力が薄いという問題がある。これからも上に挙げたような目的を持って洗い皿企画を続けていくためには、洗い皿の知名度を上げること、模擬店が魅力を感じられるようなシステムを作ることが必要だと思う。

6.洗い皿模擬店アンケートについて

文責：遠藤　章弘

(1) 実施目的

洗い皿を実際に使用した模擬店側から洗い皿企画に対する意見を求め、来年度以降の洗い皿企画の参考にする。

(2) 実施方法

最終日、模擬店の方が最後に洗い皿を返却したときにその場で記入してもらった。

(3) 結果（有効回答数：8（8 模擬店中））

【1】洗い皿を希望した理由は何ですか。（複数回答可）

a）ごみを減らすことができるから……6
b）コストが低くなりそうだから……5
c）見栄えが良いから……4
d）来場者に受けが良さそうだから……2
e）発泡スチロールトレーの洗浄シフトに入らなくていいから……0
f）宣伝してもらえるから……0

ｆ）宣伝してもらえるから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0
ｇ）その他・・0

【2】募集について
【2-1】募集の仕方や流れについて、問題点など、何か感じたことがあればお書きください。
・「もう少しはっきりと宣伝してほしい」
・「メリット・デメリットがあまりはっきりしていなかった。最初にそれをまとめたプリントを配布すればいいと思う」
・「去年の実績などを公表してほしい」

【2-3】模擬店企画担当者説明会での当委員会の説明はどうでしたか。
ａ）分かりやすい・・・・・・・・・・・・・1
ｂ）普通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
ｃ）分かりにくい・・・・・・・・・・・・・0
（無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1）
【2-4】2-3でｃ）と答えられた方はその理由を、またそれ以外の方でも何か感じたことがあればお書きください。
・無回答

【3】洗い皿を使用して
【3-1】お客さんの反応はどうでしたか。
・「反応はよかった。しかし、メニューによって適不適があると思う」
・「持ち運びたいので嫌がる人がいた」
・「返却するのかどうかがわからず、多少混乱している人がいた」
・「面倒そうなのが半分、ちゃんとした容器で食べられて良いというのが半分」

【3-2】皿の管理・洗浄・運搬について、何か感じたことがあればお書きください。
・「スムーズだと思う」
・「衛生状態には徹底しているようで良い」
・「模擬店の場所から遠い」
・「運搬シートが上にほしかった」

【3-3】洗浄シフトについて、何か感じたことがあればお書きください。
・「1回1時間半は長い」
・「誰もやりたがらないので苦労した。もうちょっと短くなれば」

【3-4】他に、洗い皿を使用して感じたメリット・デメリットなどがあればお書きください。

メリット
・「コストが低くなる」
・「ごみを考えることが少なくてすんだ」
・「皿の注文が省略できて楽だった」

デメリット
・「時たま皿が紛失する」
・「皿の交換が大変」

【4】その他、ご意見・アドバイスなどあればご自由にお書きください。
・「店の方で洗い皿について説明するのには限界があるので、もう少し看板などでアピールしてほしい。」
・「洗い皿を使うことのメリットを増やせば使う模擬店は増えると思う」

・「回収ボックスの案を詰められないだろうか」
・「来年も利用したいと思う」

(4) 反省と考察

昨年と同様のアンケート方法をとった。昨年に続き全模擬店からアンケートを回収することができたので、今後もこの方法で問題はないと思われる。

【1】で、半数以上の模擬店がａ)を選んでいることから、比較的環境意識の高い模擬店が集まったといえるだろう。

【2-1】に「もっとはっきり宣伝してほしい」とあるが、これは「メリット・デメリットがあまりはっきりしていない」という指摘と同様のことを言っていると思われる。ただ、「それ(＝メリット・デメリット)をまとめたプリントを配布すればいい」というのは、洗い皿企画参加者最終募集時に配布しているので、模擬店側の勘違いかあるいは模擬店内での連絡の不行き届きであろう。「去年の実績の公表」というのはやってみてもよいかもしれない。

【3-1】をみると、やはり面倒と思うお客が少なからずいるようである。【4】に出ている回収ボックスの設置など、何かしら対策を立てたほうがいいかもしれない。返却するのかがわからないというお客がいるというのは、たしかにこちらの説明不足である。洗い皿使用模擬店に吊るしているPOPにその旨を記入しておくなどして、来年度はもう少しわかりやすくした方が良い。【3-2】について。衛生の徹底などを理解していただいているのはありがたい。模擬店の場所から遠いというのは、毎年言われていることだが、多少は致し方ないと思う。洗い皿の運搬の流れなどは、もっときちんと説明しておくべきだった。【3-3】の洗浄シフトは、現在は一時間半で各模擬店が2回ずつ入っているのだが、長いと思われているようなので、一回分の時間を短くして3回シフトに入ってもらうほうが不満は少ないのかもしれない。

【4】について。「来年も利用したい」、こう思ってくれる模擬店を今後も増やしていけるよう努力・改善したい。

第 6 話　生ごみ堆肥化

文責：阿部翔太

1. 概要

生ごみ堆肥化部門では、11月祭で排出される生ごみを有効活用すべく、主に①生ごみ堆肥化の実現、②生ごみ堆肥化企画の実施にかかわる活動を行った。

2. 時系列

今年度の活動の時系列です。

6.20　みのり(旧称有機農業研究会)と話し合い
堆肥化に協力してくれるが、土地はないことを確認。土地探し、もしくは業者探しが始まった。

7 月　土地探し、業者探しをほとんど行わぬまま時を過ごした。

7.21　農学部の先生で堆肥化スペースを貸してくれる先生を探していただくよう、例会にてお願いした。安セ裏での堆肥化を学生部と交渉するための文書を作成することにした。

8.02　安セ裏の堆肥化は学生部に申し出ることなく行うことにした。

9 月末　企画担当者説明会での生ごみ堆肥化参加模擬店の募集のため、希望調査票を作成

10.01　みのりの水曜日の例会中に時間を取らせていただき、今年度の堆肥化について話し合った。堆肥化に回せない分について、紙ごみにして焼却処分でなく、みのりが使用する吉田南キャンパスの畑に埋めるという案が出された。

安全センター裏での堆肥化に際しては、悪臭が出ないと思われる方策を検討。それに当たってみのりが購入する物品補助として環境対策委員会から3000円を出し、ブルーシートを環境対策委員会からみのりに貸すという案が出された。

10.06　えこみっと例会で、上の案を承認。

10.13 ～　米屋さんに連絡を取り、米ぬかを譲っていただけることになった。
　　堆肥化ＰＯＰについて、昨年作成の物を再度使用することにした。
10.14　第２回企画担当者説明会にて、生ごみ堆肥化参加模擬店希望調査票を配布、説明
10.19　生ごみ堆肥化参加模擬店へのアンケートのことを今まで忘れていたことが発覚
10.23 ～　米ぬか集め（おおむね毎週木曜日）。ビール箱借用も行った。
10.28　第４回企画担当者説明会にて、生ごみ堆肥化参加模擬店を追加募集。

11 月　「生ごみ堆肥化の手引き」を作成。
　　ブルーシートについて、自分が所有していたものをみのりに譲ることにした。
11.03　米ぬかをすくうためのカップ用に、牛乳パックを持ってきてくれるよう例会に出した。
11.07　4円コピー屋にて堆肥化ＰＯＰ13枚をコピー。
11.11　第5回企画担当者説明会にて、生ごみ堆肥化参加模擬店への説明を行った。
11 月祭直前　昨年の堆肥化ＰＯＰの所在がわかり、昨年のもの8枚を、引き続き使用することにした。堆肥化ＰＯＰを作成した。
　　生ごみ堆肥化参加模擬店の代表者に電話で連絡を取った。

11 月祭中の活動
21 日　朝 10：00 ごろから 2 名で、リヤカーを用い、13 の生ごみ堆肥化参加模擬店に
　　・堆肥化の手引き　・米ぬか　・カップ　・堆肥化ＰＯＰ
　　を配布した。また、生ごみ堆肥化参加模擬店がする作業について説明をした。
24 日　朝 10：00 から 11：00 の間に各参加模擬店を回って 1 枚ずつアンケート用紙を配布した。
　　同12：00から13：00の間に各参加模擬店を回って回収した。

11 月祭後
　後片付け、事後処理。
　堆肥化がスタート。生ごみ堆肥化に際して、手伝ってほしいことがあればえこみっとの例会で人を募集するつもりである。

語句説明
・生ごみ堆肥化参加模擬店　：11月祭中に、自分のところから出た生ごみについて、米ぬかを混ぜる作業（水分調節）をしていただく模擬店。今年度の生ごみ堆肥化企画はこれの募集である。
・堆肥化ＰＯＰ　：11月祭の来場者に、この店は生ごみ堆肥化に参加している、ということを示す目印。参加模擬店に、店頭につるしていただいた。
・みのり　：有機農業を研究する一環として生ごみ堆肥化を行ってくれているサークル。

2. 反省、展望

(1) 11月祭まで

　最大の反省点は、生ごみ堆肥化の場所確保に早くから取り組むべきだった、ということだ。生ごみ堆肥化を行うとなると悪臭問題は避けて通れないため、場所探しは例年難航するのである。場所確保のためには、たとえばえこみっとやみのりの例会で皆に場所探しに協力をお願いする、土地を使用する教官などにお願いしに行く、学外の土地を探す（高野中学校様に場所をとらせていただいたこともあるという）などが考えられる。生ごみ処理を外部に委託するか否かを含めて、早期に活動体制を整えることが重要である。場合によってはほかの処理方法も検討すべきであろう。

　今年度も、昨年度と同じ米穀店に米ぬかを譲っていただいた。今年は10月半ばから動き始め、20袋集

めたが、次年度全量堆肥化を目指すならば、もう少し早めに動き出すことが必要である。その場合は35袋くらいは経験的に必要であるらしい。

(2) 11 月祭中

今年度は土地が確保できず、一部を堆肥化し、残りはみのりが畑に埋めるという方法を取った。そのため、集積場にて生ごみを、堆肥化用とその他に選別する作業をみのりの方にしていただいた。11月祭当日には、これに関して大きな混乱はなかったと思う。

生ごみの量の調査体制については、今年度はずさんであった。初日は計量せず、以後も米ぬかの混ざったものとそうでないものを同じように計って記録としたこと、計量器で計りきれないものについてメーターが振り切れて止まったところを以って記録としたことは、データの正確さの点で問題であったと思う。来年度は、みのりと生ごみの計量についても事前によく打ち合わせすることが必要である。とくに、どの段階で計るかを明確にしておくべきであった。また、今までの計量器で計りきれない量の生ごみが入った袋についても正確に計量するなら器具を新調する必要があるかもしれない。

(3) 生ごみ堆肥化参加模擬店について

今年度も生ごみ堆肥化参加模擬店を募集した。これは、自分の店で出る生ごみに、米ぬかを混ぜるところまでやってから、集積場に持ってきてもらうというものである。今年度は、企画担当者説明会にて生ごみ堆肥化参加模擬店を集めて説明を行うことに失敗したため、11月祭初日に店頭で説明をしなければならなかった。具体的には、11 月祭前最後の説明会で 1 度、生ごみ堆肥化参加模擬店の方は終了後教室の後ろに集まってくださいと呼びかけたが、1店しか残ってくれなかった。これについては終了間際にもう一度呼びかけする、説明会前に生ごみ堆肥化参加模擬店の方に終了後集まるよう知らせておくなどすべきであったと思う。

当日の店頭では必要最低限のことしか説明できなかったため、環境意識を高めるという観点から考えると今年度はよくなかったと思う。環境意識を高める、という点では、参加してくれた模擬店に生ごみにまつわる現状をまとめた冊子をお礼として配布するというのもいいかもしれない。

アンケート結果を考えると、来年も生ごみ堆肥化参加模擬店を募集すればそれなりに模擬店が集まるだろう。けれども、具体的には考え付かないが、もしもより参加者の環境意識に訴えかける企画があればやってみるとよいと思う。

(4) 生ごみ堆肥化参加模擬店へのアンケート結果

はじめに

このアンケートは、生ごみ堆肥化参加模擬店全13店舗に対して行ったものですが、解答用紙の保管過程でその1枚を紛失したため、集計は12店舗分になっています。この場を借りてお詫びします。

①～④は選択肢方式、⑤，⑥は記述になっています。

1.なぜこの企画に参加しようと思ったのですか？

① 面白そうだから　1
② 生ごみ有効活用のため　8
③ なんとなく　2
④ その他　1　:農Gの練習を回避するため

生ごみの有効利用についての関心の高さがうかがえる。

2.米ぬかを混ぜる作業について、どう思いましたか？

① 面倒だった　5
② 面倒ではなかった　6
無回答　1

作業の大変さは生ごみの量にもよると思われる。

作業の大変さは生ごみの量にもよると思われる。

3.模擬店企画担当者説明会での、この企画の説明はいかがでしたか？
① 分かりやすかった　9
② わかりにくかった　3
③ どちらでもない　0
④ その他　0
企画担当者説明会における環境対策委員会の説明はおおむね分かりやすかったらしい。

4.京都市では現在生ごみを処理する工場が作られています。十一月祭の生ごみ処理を見直すことについてどう考えますか？
① 11月祭の生ごみも堆肥化工場に委託すべきだ　3
② 学生が堆肥化をする現在のシステムを維持すべきだ　8
③ その他　1:土に埋めて処分するのがよい
現在の、学生による堆肥化を続けるべきだ、という声が多かったのは意外であった。

5.来年度もこの企画に参加しようと思いますか？
① 思う　9
② 思わない　3

5－1.「思う」と答えた方にお尋ねします。なぜ、そのように思うのですか？
・生ごみの有効利用のため（2模擬店）
・地球に優しいことをしたい、環境のため（2模擬店）
・理由はとくになし（2模擬店）
・今年に同じ
・とくに面倒ではないから
・環境によいのでこのくらいは負担すべき

5－2.「思わない」と答えた方にお尋ねします。なぜ、そのように思うのですか？
・自分の模擬店から生ごみがあまり出ないから（2模擬店）
・少し面倒

6.その他、この企画についての意見がございましたら、お書きください。
回答1件　：米ぬかが重たい

生ごみ堆肥化参加模擬店になるだけあって、環境問題への関心の高さが伺えるが、なんとなく参加する模擬店もあり、この結果が一般の人々の環境問題への意識をある程度反映しているといえるのではないだろうか。

(5) 広報について

今年度は堆肥化担当のほうからはあまり広報に意見を出さなかった。生ごみ堆肥化参加模擬店の広報については、ＰＯＰと看板を用いた。来年度新しいデザインのＰＯＰを作るのもよいであろう。

(6) まとめ

今年度は、あらゆる点で私の取り組みの遅さに起因する問題を生じさせてしまったように思う。後でやろう、などと考えているとうまくいかないということを学ばされた1年であった。

協力してくれた団体
・みのり（旧称有機農業研究会）
・稲田米穀店
・中川米穀店
・吉田米穀店
・中谷酒店

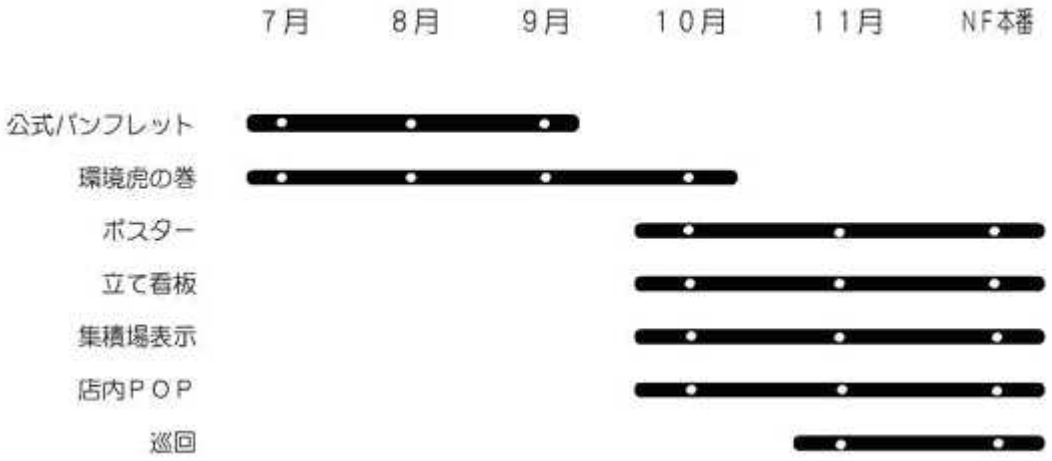
第 7 話　広報担当

担当：佐藤　亘・矢野　順也
文責：佐藤　亘

11 月祭環境対策委員会（以下、環対）は、11 月祭の環境負荷を減らすべく、11 月祭のごみ処理システムの構築と運営を主として、様々な環境対策活動を行っている。広報は、環対の行う様々な活動を一般学生、来場者ならびに11月祭企画者へ広く知らしめること、また社会を取り巻く環境問題に対する啓発を行うこと、を主な活動としているが、実際には『巡回』や『店内ＰＯＰ』、あるいは『環境虎の巻』などのように狭義の広報活動とは異なる活動も行っており、より広い意味での広報活動を行うと考えてもらえばよいと思う。

今年度の広報は、『環対という団体を印象付けること』、『模擬店や来場者の視点を考えた広報物を作ること』を大きな目標にし、活動を行ってきた。その理由として、環対の活動は11月祭各企画者と来場者の方々の協力の上に成り立っており、これらの人達の視点に立って活動を行う必要がある、ということが挙げられる。そのため、昨年度までにはなかった『環対ロゴマークの作成』や『集積場表示の作成』など幾つか新しい試みを行った。

他の担当とは異なり、広報の活動時期は様々であるので、まずはじめに各活動とその活動時期を下の一覧に示した。おのおのの活動に関しては、活動ごとに章を設けているのでそちらを参照していただきたい。



1.今年度の活動を始めるにあたって

上に述べた方針に従って活動を始める前に、今年度の広報担当者として行う必要があると感じたことを幾つか行ったので、それを簡単に記しておく。

＊環境対策委員会のイメージ

スタッフにとって環対とはどんな団体か。どういう団体に見られたいか。あるいは見せたいか。ということを例会で調査してみた。

＊環対ロゴマークの選定

環対をより効果的に広報するために統一ロゴマークを決めた。決定方式はコンペであり、3パターンがエントリーし、メンバーによる投票により1つに決定した。以後、各種配布物や広報物にそのロゴマークを使用した。

2.NF公式パンフレット

(1) 内容：11月祭の公式パンフレットのひとページとして読者に環境対策活動についてアピールする

(2) 目的：11月祭での活動をパンフレットに載せることで、多くの読者に11月祭の環境対策活動を知ってもらえるし、また来場者主体で考えるならば、このような環境対策活動について説明する義務があるとも言えるのではないだろうか。

(3) 進行：ＮＦ公式パンフレットは11月祭事務局が発行しており、当委員会は11月祭事務局に原稿を提出すればよい。以下、詳細な時系列とともに、今年度の進展状況を示す。

7 月 2 日　11月祭事務局パンフレット局と2003年度パンフレットの環対担当ページ数について　協議。今年度のページ数は、見開き 2 ページ（実質 4 ページ）と決まった。
7 月 7 日　原稿担当者の決定
9 月上旬　原稿第一版提出（e-mailにて提出）
　　原稿第二版提出（e-mailにて提出）
9 月 15 日　最終原稿提出
9 月 19 日　11 月祭事務局へ提出
9月下旬　11月祭事務局により原稿ミスを指摘され、即日修正
11 月 1 日　ＮＦ公式パンフレット発行

(4) 留意点・結果＆反省・今後の展望

・環対担当ページ数

公式パンフレットにおける当委員会担当のページ数は、年々増加しており、今年は昨年に比べて0.5ページ増の4ページとなった。それに加え、昨年度の反省から、今年は連続した4ページで行くことになった。来年度からもぜひこの形式が継続することが望ましい。なお、このページ数の確認についてであるが、比較的早い時期に11月祭事務局のパンフレット局へ話し合いに行く必要があるので、担当者は6月頃から準備しておくとよい。

・原稿提出

今年は、イラストレーターファイル(.aiファイル)形式で原稿を提出した。これまでは、プリントアウトされた原稿を提出していたが、より明瞭な出来上がりを得るためにaiファイルでの提出をすることになった。イラストレーターファイルに関する細かな注意点は割愛するが、これについてはパンフレット局の方と事前に打ち合わせておく必要がある。

・原稿担当者

昨年度は、3.5ページ分の原稿を数人に割り振って作成していたが、今年は4ページ全てを一人の担当者で作成するようにした。担当者には大きな負担を強いるのであるが、スペースを自由に使って作成できること、原稿に統一性が生まれること、などの利点は大きい。もちろん、多くの場面で他の人の協力が必要であるが、ひとりの担当者が統括して原稿の作成にあたることは良かったと思う。なお、原稿担当者は広報担当から人員を割くと最も円滑に事を運べるだろう。

・提出締め切り

11月祭事務局は多くの団体や企画から原稿を回収し、パンフレットの作成を行う。そのため、定められた原稿の提出期限に遅れることは非常に迷惑かつ失礼なことであり、11月祭事務局との友好的な関係を維持して

れた原稿の提出期限に遅れることは非常に迷惑かつ失礼なことであり、11月祭事務局との友好的な関係を維持していく上でも、提出期限は厳守するように心がけた。来年度以降も担当者は、注意していただきたい。

・第一版チェック

当初、第一版原稿の提出日を7月28日と決めていたが、試験期間が重なり、9月になってしまった。このため、例会での十分なチェックができず、結果として最終チェックのみで事務局へ提出することになった。大変反省すべきことである。今後このような事にならないためには、より早い時期に原稿担当を決め、7月上旬に第一版を提出できるようにする方法が有効と思われる。

・原稿ミスの修正

こちらの提出したイラストレーターファイルの一部が間違っており、印刷所から11月祭事務局経由で修正依頼が来たため、即日事務局ＢＯＸへ出向き、パンフレット局の方と共にファイルを修正した。間違いは内容的なものではなく、あくまでファイル上の問題だったのだが、このように修正できたことは非常に良いことであった。また、ファイル提出時により厳密に個々の個所をチェックする必要があることも実感した。

・ページ番号およびインデックスの不掲載について

11月祭事務局への原稿提出時に、パンフレット局の方からページ番号の挿入とインデックス（見出しタグ）を付けるかどうか尋ねられた。しかし、今年度の原稿はページ番号やインデックスを挿入するのに十分な余白がなく、何も挿入しないということになった。これらを入れたほうがいいのかどうかは賛否両論であるし、原稿のタイプにもよるが、ページ番号やインデックスの形状と挿入位置について、担当ページ数の打ち合わせ時に併せて聞いておく必要があるであろう。来年度以降は、その話もしておいてもらいたい。

3．環境虎の巻

(1) 内容：11月祭での環境対策活動の説明をまとめた冊子を作成し、模擬店企画者に配布する。

(2) 目的：従来、模擬店企画担当者説明会で各回ごとに配布していた説明用レジュメをまとめ、ひとつの冊子として配布することで、レジュメの紛失をふせぎ、模擬店企画者に適切な環境対策活動を行ってもらうこと。

(3) 進展：冊子は、10月7日の第一回企画担当者説明会にて配布されるので、それまでに作らなければならない。

6月30日	昨年度の調査結果や反省点を踏まえ、今年度の作成指針を決めた。
7月7日	内容構成案ならびに原稿担当者決定、冊子配布までの予定の提示
7月28日	第一版原稿提出
9月8日	第二版原稿提出（e-mailにて提出）
9月15日	ページ割りの決定
9月22日	第三版原稿提出
9月29日	最終原稿提出
10月4日	印刷＆製本
10月7日	企画担当者説明会にて配布

(4) 留意点・結果＆反省・今後の展望

・今年度の作成指針

今年の環境虎の巻は、なるべく分かりやすい事、模擬店の視点にたって作る事、オフィシャルなイメージを作り出す事、捨てられないような雰囲気を出す事、などを心がけて作ることになった。そのため、昨年度の環境虎の巻に比べて、大幅に変化した部分がたくさんある。

・今年度の作成指針

今年の環境虎の巻は、なるべく分かりやすい事、模擬店の視点にたって作る事、オフィシャルなイメージを作り出す事、捨てられないような雰囲気を出す事、などを心がけて作ることになった。そのため、昨年度の環境虎の巻に比べて、大幅に変化した部分がたくさんある。

・冊子の統一感

これまで、環境虎の巻は文章とレイアウトの両方をすべて各原稿の担当者が自由に作成し、それを束ねる方式をとっていたが、この方法だと冊子のページごとに様相が大きく異なり、これが読みにくさの一因となっていたと考えられる。もちろん、メリハリがついて分かりやすいという意見もあるのであるが、オフィシャルなものにすることを考えた場合、書体やレイアウトなどはある程度揃える事が欠かせないと考えた。そこで今年は、担当者の提出した原稿を改めて広報で作り直し、その際に書体やレイアウトなどを統一することで、冊子の統一感を出そうと試みた。この試みが成功したのかどうか、そして統一感が出たことで読みやすくなったのかどうかは、読者である各模擬店担当者の意見を聞かないと分からないことであるが、ある程度の成果は得られたのではないかと思う。

・読者への配慮

昨年度の模擬店アンケートで、「もっとコンパクトにまとめてほしい」とか「するべき作業とそうでないものをきちんと区別してほしい」という意見が見られたため、今年はなるべく情報量を減らし、作業内容を中心に作成したことは先に述べた。この他にも、これまで一纏めに載せられていた『会場内ごみ箱の管理』と『発泡スチロールトレーの洗浄』を分けて記し、担当ごみ箱一覧とごみ箱ステーション配置図、発泡スチロールトレーの洗浄作業シフト表の位置を工夫した。また、作業内容以外の情報についてはすべて後回しにし、目次も工夫するなどして、情報の区別を明確にするように努めた。

・内容構成

今年度の内容構成は、作業内容を中心にし、昨年度にあったようなリサイクルフローや4Rの意義などは最小限にとどめた。これは、余計なものを省き、作業内容をより的確に伝えるためである。ただし、作業の意義については説明義務があると考えたため、載せることにした。模擬店データ集も本来は載せなくてよいと考えるが、これは食品ごみを出さないために載せることになった。以下、今年度環境虎の巻の内容構成を示す。

§もくじ

もくじについては、はじめに、11月祭での作業、その他、アンケートの4部門に分けて記した。また、目次の下の余白に 11 月祭環境対策委員会の説明を載せた。

§模擬店企画の皆さんへ

11月祭における環境への取り組みを模擬店企画者に説明し、3つの作業の協力をお願いする。

§店内から出るごみの分別とその注意点

店内ごみの分別品目とごみを出す時の諸注意

§会場内ごみ箱の管理

模擬店がごみ箱を管理する旨と具体的な作業内容

§担当ごみ箱一覧表

個々の模擬店が担当するごみ箱ステーションとごみ箱の一覧表

§ごみ箱ステーション配置図

会場内ごみ箱ステーションの配置図

§発泡スチロールトレーの洗浄

発泡スチロールトレー洗浄の作業説明

§洗浄作業シフト表

個々の模擬店が担当する作業時間帯の一覧表

個々の模擬店が担当する作業時間帯の一覧表

§模擬店に作業をお願いする理由

先に説明した3つの作業を行う意義と、その作業を模擬店にお願いする理由を説明する

§スプレー缶の使用禁止について

スプレー缶やガスボンベが使用禁止であることの呼びかけ

§過去の模擬店データ集

過去の模擬店のメニューや食材購入量などを示したデータ表。残飯減量のために載せている。

§アンケートご協力のお願い

模擬店企画担当者アンケートと模擬店メニュー・食材調査票の協力のお願い

§模擬店企画担当者アンケート

環対の活動と環境虎の巻についてのアンケート

§模擬店メニュー・食材調査票

模擬店で販売したメニュー、購入した食材や容器などの調査票

----反省 ----

・当初、9月27日に印刷と製本を行うことを予定していたが、原稿の訂正が間に合わず10月に延期してしまった。これは私の予見不足のためであり、大変反省している。来年度の担当者は、気をつけてもらいたい。

・(模擬店アンケートから)

全体として、今年度の環境虎の巻はよく読んでもらえたようだ。後述されている「巡回」での模擬店の反応に反して、作業内容に関するページは高い割合で読まれていた。以下、いくつかの意見について反省と展望を述べる。

「会場内ごみ箱の管理において、とまどった点などがなかったか？⇒あった：10、なかった：26」

会場内ごみ箱に関しては、実際の作業の流れに即した記述をしておらず、大変内容を掴みにくかったと思われる。また、鉄製ごみ箱の処遇や雨の日・風の日の対策などについて何も書いてなかったので、模擬店がとまどったこともあったのではないかと思う。今後より一層の改善と、できる限り早めに11月祭のごみ箱管理に関して、環対内で決めておくことが必要にである。

「分別基準をもっと詳細に記述してほしい」

アルミ箔や輪ゴム、ペーパーモールドのカップなど分類が分かりにくい物の分別先を書いてほしいという意見が見られた。これらの分別基準に関しては、コアスタッフでも実際の作業をするまで分からなかったのではないだろうか。今年は紙面の関係で最低限の注意事項しか載せなかったが、せめて「分別の不明な物は、環対へ聞くように」と大きく目立つように書いておけばよかった。次の項目にもかかわる話であるが、作業内容に関することは、量が多くなってしまってもキチンと書くほうがよい。もちろん、細かすぎるのも考え物であるが、紙面という枠にとらわれずに、大事な事はしっかりと記述するべきであると私は考える。

「過去の模擬店データ集」

90%の模擬店が「役に立った。今後も必要としている。」という答えを返してきた。たしかにこのデータ集は模擬店運営の上で大きく役立つのであろう。しかし、これを環境虎の巻に載せることは非常に疑問である。もちろん、このデータ集が生ごみ減量に大きく貢献するアイテムであることは間違いないが、模擬店企画者は「過去の模擬店データ集」を資料のひとつと捉えており、決して「環境虎の巻」と同質なものだとは感じていないはずである。そういう異質なものを一つの冊子とする行為は、「作業内容の周知」に関わる部分を小さなものに思わせてしまい、「環境虎の巻」の全貌をよく分からないものにしてしまっているのではないか、と私は思う。これはアンケートに関しても同様であり、「過去の模擬店データ集」は「模擬店企画虎の巻」か配布資料に、アンケートも直接配布という方式の方が、企担において「環境虎の巻」がより扱いやすくなるのではないかと思う。

まっているのではないか、と私は思う。これはアンケートに関しても同様であり、「過去の模擬店データ集」は「模擬店企画虎の巻」か配布資料に、アンケートも直接配布という方式の方が、企担において「環境虎の巻」がより扱いやすくなるのではないかと思う。これはあくまで私見であり、提案である。

・今後の展望

「環境虎の巻を来年度以降もつくることについてどう思いますか？」

改善を加えて作ってほしい:20
今年と同じ物を作ってほしい:13
必要ないので作らなくてよい:1
無回答：2

今後もきっと環境虎の巻は作られていくのだろうと思う。今年もかなり配慮を入れて作成にあたったつもりであったが、やはり至らぬ点は数多くあったように思う。その大部分は本当に細かな言い回しであったり、図や表のバランスなどであるが、中には情報の区分の仕方や説明の順番が明らかに不親切な部分もあって、反省すべき点は多い。また、環境虎の巻は、当該年度のごみ処理システムなどが明確に定まらず、また誰も全体像を具体的に把握できているスタッフが居ない時期に作成するので、どうしても何かの情報が欠落していたり、後で訂正する必要が出てきてしまう。それを無くすためには、環対の活動時期を早める必要があるが、もし後で訂正などがあった場合でも模擬店企画者へ確実に情報を伝え、作業内容の遂行に支障をきたさないための対策手段を考えておくのもよいかもしれない。何をするにせよ、模擬店を第一に考えて、冊子の作成にあたってもらいたいと思う。

4.環対アッピール(ポスター)

(1) 内容：本学学生に対し、11月祭での環境対策活動をアピールする。
(2) 目的:11月祭環境対策委員会の存在を知ってもらい、理解してもらうこと。
(3) 進行:おもに10月になってから活動した

10 月 5 日　原案担当者を決定（3 者）
10 月 20 日　第1版チェック
10 月 27 日　最終版チェック
11 月 10 日　ポスター印刷
11 月中旬　ポスター展開

(4) 留意点、結果＆反省、今後の展望

・ポスターの形状は、Ａ3サイズのフルカラー(1種類30枚)と単色カラー（2種類60枚）の計3種類90枚である。

・環対をアピールするという目的を踏まえ、各原案担当者に自由に作成してもらった。これは広報から特に要請する項目がなかったからであるが、結果的に三者三様のポスターにしあがった。どれも出来はよくて、そのまま印刷展開したが、後になって考えてみると「統一的な環対のイメージ」をアピールできたのかどうか疑問である。ある程度フォーマットを統一した作成指針を出すべきであったかもしれない。

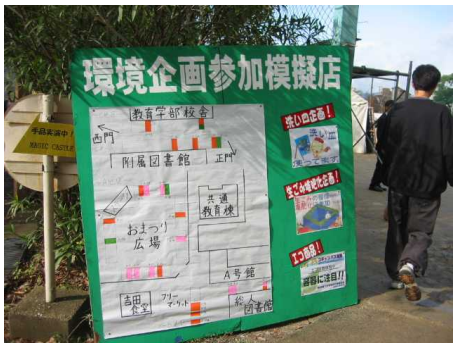
・ポスターというのは何気なく我々の生活習慣の中に入り込んでくるものであり、手軽に大量生産・大量配布が可能な広告物である。11月祭において協力を得ねばならない模擬店担当者の大部分は本学学生であり、このようなポスターを広く配布し、知名度を高めると共に、活動について理解してもらうことが大事であるのは言うまでもない。今後は、ポスターの展開時期なども含め、一年を通して効果的なアピール戦略を考えていってもらいたい(10月からでは遅すぎた)。

的なアピール戦略を考えていってもらいたい(10月からでは遅すぎた)。

5.環対アッピール(立て看板)

(1) 内容：一般来場者に対し、11月祭での環境対策活動をアピールする。
(2) 目的:11月祭環境対策委員会の存在を知ってもらい、理解してもらうこと。
(3) 進行:おもに10月になってから活動した

10 月 5 日	立て看板の内容決定（洗い皿・堆肥化・環境企画模擬店）
10 月 13 日	第1版チェック
	立て看板設置場所の決定
10 月 15 日	立て看板設置場所について 11 月祭事務局へ打診
10 月 20 日	最終版チェック
	立て看板作成計画の決定
10 月 25 日＆26 日	洗い皿・堆肥化の 2 枚の立て看板を作成
10 月 27 日	環境企画参加模擬店看板の第一版チェック
11 月 3 日	環境企画参加模擬店看板の第二版チェック
11 月 8 日＆9 日	環境企画参加模擬店看板の作成
11 月 21 日	立て看板を設置予定場所に設置。



(4) 留意点、結果＆反省、今後の展望

・立て看板の種類と設置場所

洗い皿のアピール立て看板（2 枚看・1 枚）@吉田グラウンド南側
食べ残し防止立て看板（2 枚看・1 枚）@Ａ号館東側
環境企画参加模擬店アピール立て看板（2 枚看・3 枚）@吉田グラウンド東南入り口、1 号館東側、正門前

・設置場所の移動

11月祭初日に立て看板を設置する際、当初予定していた1号館東側は看板の設置が困難であることが判明し、急遽通路の反対側に設置場所を変更した。たまたまその場所で何も企画が行われる予定がなかったから良かったものの、設置予定場所を策定する際に現地確認を怠ったことは反省している。今後はよく気をつけてもらいたい。

・今後の展望

今年の立て看板は「実務一辺倒」という感じで、環対そのものの大々的なアピールは行わなかった。正確に言えば、行う余裕がなかったのであるが、2002年度に巨大なＰＲ看板を用いたように、何かしらのアピールを行うことはよいことだと思う。我々は11月祭事務局と比べると、立て看板の規模という点で及びもつかないが、なにか一つ大きなものを作ることは大きな広報効果がでる。もちろん看板の内容や配置場所などによってその効果も大きく変わるので、来年はひとつ、「環対魂」を見せつけるような作品をどこかに置くのもよいのではないだろうか。

6. 集積場表示

(1) 内容：吉田集積場内の各部署の位置、および吉田集積場内での作業順序を知らせる。
(2) 目的:各企画者の人たちに、吉田集積場の作業の流れを分かりやすく伝えること。
(3) 進行:おもに10月になってから行動を開始した。

10月5日　　集積場表示の必要性と可能性について例会で説明(承認をもらう)
10月13日　　具体的な表示内容とその原案担当者決定
10月20日　　第一版チェック
10月27日　　第二版チェック
11月3日　　最終版チェック
11月8日＆9日　集積場案内作成
11月19日　　集積場表示全て作成
11月20日　　吉田集積場にて展開

(4) 留意点、結果＆反省、今後の展望

・この活動の根本にあるのは、「模擬店にやさしい集積場」でありたいと思う心であり、今まで外部者にとって分かり難く、ほとんど説明されてこなかった吉田集積場を、模擬店が少しでも分かりやすく動けるようにしようと思っての活動である。実際のところ、それほど大きな活動ができたわけではないが、今後も吉田集積場においてなお一層の配慮が行き渡ることを期待する。

・吉田集積場はただでさえ混雑する現場であり、また周囲の状況も非常に煩雑であるため、これらの表示物を取り付けるのは困難である。そのことを事前に踏まえ、表示物の形状やタイプを試作検討しなかったため、11月祭本番になって表示を取り付けるのに苦労した。これは大いに反省する点であり、効果的な表示の位置や方法について、今後よく検討を重ねていく必要がある。

7.店内ＰＯＰ

文責：矢野 順也

(1) 目的

模擬店で働く人間の目につくところにPOPを吊るすことで、ＮＦ中自分たちがしなければならない仕事、また吉田集積場の場所や受付時間、ごみの分別基準などの情報をわかりやすく伝える。

(2) 店内ＰＯＰ概略

店内ＰＯＰとは上記の目的のために説明用紙が両面に貼り付けられた段ボール片のことである。

サイズ：Ｂ4
Ｂ5×2枚の用紙に、1枚には店内ごみについて、もう1枚には会場内ゴミ箱について記載した。

数　：Ａ地区30枚、Ｂ地区26枚、Ｃ地区16枚

ちなみに、
71（ＰＯＰ数）　×　2（両面あるため）　＝　142（模擬店数）
である。

ＰＯＰの1面に1模擬店分。用紙は両面に貼るため142＋α枚印刷した（αは予備用）。

(3) 必要物品

Ｂ4用紙　×　142＋α枚（αは予備用）
段ボール片（Ｂ4サイズに加工）　×　71＋α枚
ビニール紐　×　71＋α本

(4) 作成方法

原案はイラストレーターにより作成。模擬店番号、担当ごみ箱など模擬店によって異なる内容は空欄にし、後で赤ペンで手書きして完成させた。用紙をＢ4サイズに切った段ボール片の両面に貼り、上部に穴を2つあけてビニール紐を通して完成。

(5) 作成までの流れ

10.13… 記載内容の確認
10.27… 第一版完成
11.03… 第二版完成
11.07… 印刷
11.15… 貼り付け等作業→完成

(6) 設置方法

2模擬店が1つのテントを共用しているため、1テントの真中の中央の梁に模擬店番号どおりに紐で吊るした。

(7) ＮＦ中の仕事(シフト名：ＰＯＰ設置)

当日の作業は２人１組とした。ＮＦ初日にそれぞれａ地区、ｂ地区、ｃ地区を１組ずつ(計３組)担当してもらい、1人が模擬店に説明、1人がＰＯＰを設置してもらう予定だった。

しかし、実際は初日の巡回(朝)と説明内容が同じだったため巡回(朝)のスタッフにもＰＯＰ設置をしてもらい、a地区を２組、ｂ地区を２組、ｃ地区を１組が担当した。

(8) 反省点

・紐の結び方を指示していなかったため、正しく（両面が模擬店側を向くように）設置できていないところがあった。
・自転車置き場に吊るすには紐が短かった。
・ステージ付近(a地区)ではうるさくて説明が大変であった。
・説明項目が多すぎた。最重要項目だけに言及したほうがよかったと思われる。
・後片付け日のＰＯＰ回収について、共用する2模擬店のどちらに頼むかが決まっていなかった。今年はどちらかが持ってきてくれるだろうという甘えのもと、両方の模擬店にお願いした。
・ＰＯＰのサイズが小さいと思う。A3（A4×2枚）のほうが良かったのではないか。実際にＰＯＰを見ている模擬店が少なかったように感じるが、目だっていなかったためではないかと思われる。

(9) 今後の展望

分別基準等ＮＦ中のごみ処理方法を記載した環境虎の巻は各模擬店1冊しか所持していない。さらに環境虎の巻を模擬店で働く全ての人間が目を通しているとは考えにくい。これらのことを考慮すると、店内ＰＯＰを模擬店テント内に吊るすことでごみの分別基準、集積場の受付時間等の情報を模擬店内にいる人間に広く提供でき、またそれによりごみの適正処理に大きく貢献できる。来年度以降も店内ＰＯＰの継続は必要であろう。

しかし、POPを吊るしてもなおトレー洗浄の日時を知らない等自分たちの仕事を知らない模擬店が多かったことから、今年は（例年のことかもしれないが）店内POPを利用している模擬店があまりに少なかったように感じる。サイズを大きくするなどして目立つように、かつ見やすいものにしなければ店内ＰＯＰは唯の段ボール片にすぎない。利用する者の視点に立つことを怠ってしまったことは大いに反省し、次回に活かさなければならない。

当日の説明については説明項目が多すぎたため、かえって模擬店側も把握しきれなかったのかもしれない。担当ごみ箱、トレー洗浄の時間などの重要事項以外は省略し、POPをよく見るよう促す程度でよかったかもしれない。

また、今年はわかりやすさを重視しようと考えていたが、載せる項目が多すぎたためか初見の人、すなわち

ない。担当ごみ箱、トレー洗浄の時間などの重要事項以外は省略し、POPをよく見るよう促す程度でよかったかもしれない。

また、今年はわかりやすさを重視しようと考えていたが、載せる項目が多すぎたためか初見の人、すなわち模擬店の人にはわかりにくかったと思われる。記載項目の検討が必要である。本祭中のごみの受付場所は種類によらず基本的に（廃食油など例外はあった）吉田集積場であったので、受付場所の下にごみの項目名を全て挙げる必要はなかった。後片付け日についてだけに触れれば十分だったと思う。

8. 巡回

文責：佐藤　亘

(1) 内容：11月祭期間中に構内を巡回し、環境対策活動が正しく行われているかチェック・指導する。
(2) 目的：環境対策活動の円滑に進行させること
(3) 進行：特に事前準備は必要ないので、巡回システムに関する話し合いがほとんどである

10 月 20 日　2002 年度の反省とそれに対する改善策を検討
10 月 27 日　トレー洗浄作業の巡回の処遇について検討
　　模擬店巡回チェックリストのチェック
11 月 3 日　模擬店巡回チェックリストのチェック
　　2003 年度の巡回の概要説明
11 月 10 日　2003 年度の巡回の詳細説明
　　当日マニュアル原稿提出
11 月 21 日　11 月祭にて実施

(4) 留意点・結果と反省点・今後の展望

・今年度の巡回は、第一になるべく模擬店を回らずに済ます、第二に正しく協力していただいてる模擬店に失礼のないように巡回する、ということを心がけて、効率的に回れるようにシステムを考えた。基本の流れは、初日の巡回朝で丁寧にごみ箱管理について説明し、後はごみ袋の回収とごみ箱の保管＆設置が出来てない模擬店を回るというものにした。また、今年から発泡トレー洗浄作業についての呼びかけも巡回のシフト内で行うことにした。
※詳しいシステム内容は、「2003年度の当日マニュアル」を参照していただきたい（デジタルファイルに保存されている）。

・4日間にわたる巡回のシフトにおいて様々な問題が発生し、その問題に可能な限り対処した。以下、今年度みられた大きな問題とその原因および解決策に関する分析を記述する。初めに断っておくが、分析には私見が大いに含まれるので注意していただきたい。

[ＰＯＰ設置へのシフト統合]

11月祭初日の朝には、ＰＯＰ設置と巡回朝という二つのシフトが直接的に各模擬店と接触する。時間も互いに重なっており、説明する内容もほぼ同じなので、11月17日の例会でこの二つのシフトをＰＯＰ設置として統合することになった。模擬店から見れば、何度も青ジャンパーに来られるよりは、一回で終わるほうが嬉しいだろう、という判断であった。しかし結果的に、ＰＯＰを設置する際の説明項目が予想以上に多く、おそらく説明を聞いている模擬店担当者の人たちには、全内容の半分くらいしか伝わってなかった。初日朝の巡回で模擬店にしっかりと理解してもらうことを前提に作った今年度の巡回にとって、とても大きな誤算であった。これは11月17日の例会で、安易にシフトを統合してしまったことが原因であり、もっと根本的なことを言えば、初日の朝という時間帯に環対→模擬店へと流れるべき情報の種類と量について、私が正確に把握できてなかったことに起

種類と量について、私が正確に把握できてなかったことに起因するとも言える。この結果、発生した問題は初日の巡回3および巡回4(臨時)で表面化することになった。

[ごみ箱管理について知らない模擬店]

初日の巡回3で、ごみ箱を各模擬店のテント内に撤収することを知らない模擬店が多いことが分かった。また、臨時シフト巡回4で、多くの模擬店が担当するごみ箱以外のごみ箱を撤収していることが判明し、ごみ箱を正しく入れ替える作業が必要になった。この状況に対して、初日の反省会で「担当するごみ箱ステーションを知らせるビラ」を各ごみ箱に貼り付けてゆくことが決められ、作業にあたった。これでごみ箱の間違いは大幅に減らすことが出来た。

[巡回1と巡回2の持つ本質的問題点]

今年度の巡回は、まずごみ箱ステーションでごみの溜まり具合をチェックし、チェックに引っかかった模擬店のみへ巡回するという方式をとったため、元々ごみの排出量が少ない「缶・ビン」や「割り箸」などのごみ箱は、模擬店が全く回収を行っていなくてもチェックに引っかからず、巡回3になるまで引っかからないという問題点がある。しかしこれは、ごみ箱が正常値で稼動しているならば、ごみを回収しなくてもよいということであり、それほど重要な問題ではない(むしろ良いことだ)と私は思っている。

しかし、「巡回時間と点検時間の逆転」というもう一つの問題点は、今後何かしらの対応が求められる問題点である。各巡回シフトは、定められたごみの点検回収時刻になるべく合うように時間帯を設定したが、どうしても最大30分程度の誤差が出てしまい、まだ点検時間になってないのに模擬店に回収の指導を行わなくてはならないことになってしまう場合があった。ごみ箱チェックの基準に差をつけておく事で、幾分か弊害は減らせるように対策を取ったつもりだったが、シフト中に戸惑ったスタッフも居て、事前に意思疎通をよく図っておくべきだったと反省している。

解決策としては、シフト時間の変更かごみ箱点検時間の変更であるが、前者はシフト管理上難しいと思われるので、ごみ箱点検の時間を調整してみてはどうかと思う。これは、集積場運営担当者とよく話し合ってみてほしい。

[チェックリストおよび地図]

今年度は巡回用チェックリストを6分割し、巡回シフト時に各グループが持って行動できるようにした。地図は「環境虎の巻」の地図を流用したが、各模擬店の位置まで細かく記入されておらず、巡回時に不都合を感じたスタッフが多かった。来年度以降は、11月祭事務局の模擬店配置図をもとに模擬店の位置まで記した地図を用意するとよいと思う。また、今年は雨が多く、巡回チェックリストと地図の雨対策も必要となった。たまたま今年は上質紙でチェックリストを作成していたため、紙の劣化はそれほどみられなかった。担当者は頭の片隅にでも置いておいてほしい。

[当日マニュアルの不備]

今年度の巡回は行動目安の時刻を細かく指定(発泡トレー洗浄があるため)し、それらを当日マニュアルに載せる必要があったため、内容自体は大したことを書いてないにもかかわらず、8ページもの超大作になってしまった。そのため、実際の巡回時における注意事項を幾つか省かざるを得なくなり、シフトに入ったスタッフは困惑する事態になったことがあったのではないかと思う。巡回とは、模擬店担当者との話合いであり、お願いという名の指導をしてまわることであるので、行動時刻よりもむしろ大事な注意事項がある。たとえば、『模擬店の裏から店内に入る』とか『必ず模擬店担当者に話をする』とか『態度が悪いところは作業するまで見つめ続ける』とか、あるいは『チェックと指導を各ステーションごとに行ってゆくほうが効率的』といったことである。来年度の巡回システムがどうなるかは分からないが、もし来年も当日マニュアルがページ超過になってしまうのであれば、上記のような「体験から得られる注意事項」を別途プリントとしてシフト担当者に配布しておくことも必要であろう。

・今後の展望

今年の巡回の基本姿勢は、先にも述べたように「模擬店の善意を信じる」という点にある。それは、「はじめに十分に説明して、後は模擬店の不備に応じて指導を行っていこう」という方針に反映させたつもりだ。しかし結果的には、初日の説明不備により、スタッフはかなり大変な思いをすることになってしまった。その点は反省している。だが、この基本姿勢は間違っていないと私は思っている。巡回の最終目標は「環境対策活動（要するにごみの回収）が円滑に進行すること」であり、何もすべての模擬店が「決められた時間にごみ袋を点検回収すること」ではないのだ。どのような巡回システムを作れば、模擬店の負担をなるべく抑えてごみをキチンと回収することが出来るか、ということを考えることが何よりも大事であると思う。

ただ、朝のごみ箱設置の状況、夜間のごみ箱保管の状況を見ればわかるように、決められたとおりに行動していない（しないのか、忘れてるのかは分からない）模擬店は必ずある。そのような模擬店をどのように無くしていくか、どのようにすればキチンと行動してもらえるのか、ということを研究し、先手を打っていくことが必須となるのは言うまでもない。その方法は「巡回」だけに留まらない。例えば、今年度の11月祭2日目に用いた「ビラ貼り付け」の手法が挙げられる。この貼り付けビラが、かなりの情報伝達能力を持っていることは実証された。他にも「企画担当者説明会」に実物のごみ箱を持っていって実演することも有効かもしれない。このように、模擬店に動いてもらうために有効な手段は何か、ということを事前に良く考え、「巡回」ですべて解決しようと思わないことも大事なことだと思う。

来年度以降の担当者は、これらのことを踏まえ、自由な発想と行動力で、よりよい「巡回」のカタチを探していってもらいたいと思う。

第 8 話　企画担当

文責：山本　紘嵩

1.企画担当の目的および方針

今年度の企画担当は、祭りの場にふさわしいイベントや休憩の場を来場者に提供し、かつ環境対策委員会の存在や活動内容、意義などを来場者に伝えることを活動目的とした。企画担当としては後者が第一の目的となるが、あくまで来場者の楽しみを前提としてそれを達成すること、またできる限り予算を削ること、以上の2点に気を付け、活動を行った。

2.NF における企画担当の仕事

- レストスペースの設置
- 分別の説明（本年度より開始）

3.企画担当の仕事の内容説明およびその意義

(1) レストスペース

（内容）

吉田グラウンドに4箇所、立て看板を設置し、立て看板を挟みこむ形で両脇にいすを設置する。

立て看板の内容

①共通ネタ立て看板（4枚作成）

下図のA～Dのすべてに設置。内容は、来場者にリサイクルの必要性を訴え、また各ごみの分別方法を示した。分別方法に関しては、空き缶など、本物のごみを看板に貼り付けるという手法をとった。

②洗い皿立て看板（2枚作成）

AおよびDに設置。内容は、洗い皿を使用してくれた模擬店の宣伝、また洗い皿の存在のアピールである。

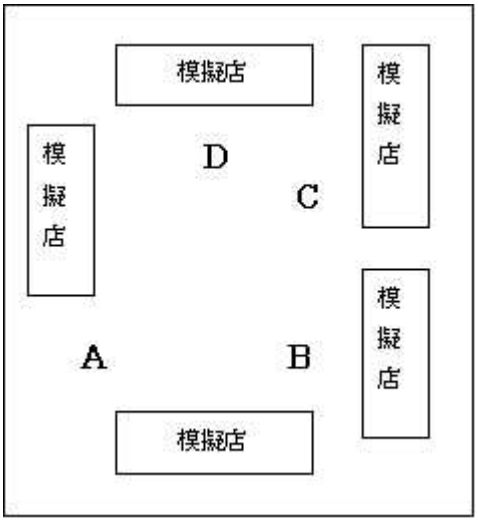
③生ごみ堆肥化立て看板（1枚作成）

B地点に設置。内容は、会場で出た生ごみを堆肥化していますよ、ということ、およびパルプモールド（パルプを原料としてできたお皿。燃やしても環境負荷が少なく、また石油を使わない更新性資源である。）の使用をアピールした。

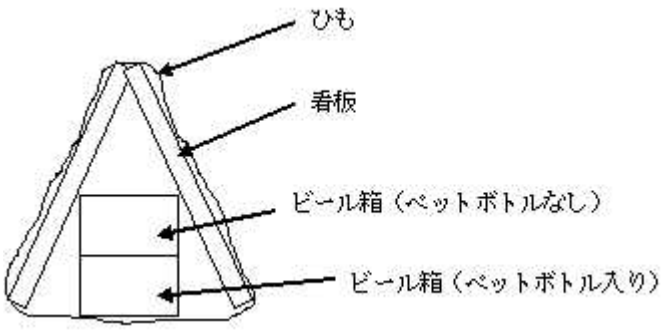
④3R立て看板（1枚作成）

C地点に設置。内容は、recycleは必要だけれども、それほど有効な手段ではなく、環境負荷を減らすためにはむしろreduceやreuseのほうをしっかりやらなければならない、ということを絵を用いて説明した。

吉田グラウンド図



立て看板設置方法



（意義）

- 来場者に食事をする場所を提供する。
- レストスペースに環境意識を啓発するための立て看板を設置し、休みながら見てもらう。そのことによって、環境問題に興味を持つ、また実際に行動するなどの効果を狙う。

(2) 分別の説明

（内容）

くまの着ぐるみを着たスタッフ（以下、着ぐるみ）が一名。着ぐるみ役のサポートおよび分別の説明をするスタッフ（以下、説明者）が一名。11：30からと13：30の計2回、約30分をかけてレストスペースA～Dを回り、ペットボトルや空き缶など数種類のごみを持った説明者がレストスペースで休んでいる人たちの前で持参したごみの分別をする。くまは人の目を引くことが目的であり、立て看板のアピールも同時にする。

（意義）

- 実演という形をとることで、分別の仕方をわかりやすく来場者に伝える。
- 立て看板のアピールをする。

4.主な時系列

8月・・・今年の企画担当は何をするのか、を漠然と考える。去年と同じレストスペースに決定する。

9月・・・分別実演の案が出てくる。面白そうなので採用。

10月・・・具体的な計画を立て始める。中谷酒店よりレストスペースに設置するビール箱を借用（用途はいす）。これは10/16、10/23、10/30、11/6、11/13の5回に分けて借用した。（すべて木曜日なのは借用人員が木曜に最も確保できたため。）また、立て看板の作成を10/11に開始する。

11月・・・ビール箱の借用は終了する。また、11/17に血液センターよりくまの着ぐるみを借用してくる（松山さん経由）。立て看板の完成・試作はNFの数日前。もう少し早めにできれば、余裕ができてよかったと思う。

5.当日の動き

11月20日　「立て看板計8枚」、「ペットボトル」、「くまの着ぐるみ」などの必要物品を本部に運ぶ。（物品輸送Ａ）

11月21日　本祭1日目。8：00からレストスペースの設置を始める（※1）。作業自体はほぼ定刻通りに終了。分別説明は、降雨のため中止。18：00になると、レストスペースの撤収作業を始めた（※3）。これは予定よりかなり早く終わった。

11月22日　本祭2日目。9：00からレストスペースの設置を始める。夜中の強風のためかブルーシートがとれていたが、予定よりも早く終わる。この日は風が強かったものの雨は降っていなかったので分別実演は実行。しかし、たいした効果は得られないことがわかり、方法を変更することにした（※2）。ごみの分別をしようとしているという意図が伝わる上に、くまがやっているので手伝ってくれる人も少数だが出てきた。また、「説明者」の気恥ずかしさも軽減され、「分別実演」はけっこう楽しい。以上、メリットが多かったので、次回からもこちらの方法を採用することに決定した。18：00には本祭初日と同じく撤収作業を始めた。※3の改定により、これも予定よりだいぶ早く終わった。

11月23日　本祭3日目。9：00からレストスペースの設置を始め、予定よりも早く終わる。分別実演は※2における改定を加えた上で、くまに「大変なの」「おねがいてつだって」とかかれたプラカードを持たせた。来場者により意図は伝わりやすくなるが、プラカードを持って実演するのはとても大変なので使用は任意ということになった。また、強風のためレストスペースの看板のひとつが壊れた。これは本部に撤収した。18：00からは撤収作業。予定より早く終わった。

11月24日　本祭4日目（最終日）。9：00からのレストスペース設置作業は、事務局からの要請でレストスペースの位置を少し変えるという作業が加わったものの、予定よりも早く終わった。分別の実演はプラカードなしで行った。実演の意図は伝わるようで、プラカードなしでも特に問題はないように思われた。撤収作業（※4）は22：00を予定していたが、17：00ごろから雨が降ってきたので、その時点で撤収作業を行った。

※1・・・今回の立て看板は「共通ネタ」と称したものに空き缶やペットボトルなどを実際に貼り付けるという方法をとったが、貼り付けの作業を当日にしたのは失敗だった。立て看板はできるだけ完成した状態で設置に望むのが良いかと思われる。また、事務局から長いすを借りるために物品援助の列に並ぶことも「レスト設置」の作業の一部だが、今回、列に並ぶタイミングを逃してしまったために多くの時間を無駄にしてしまった。

も「レスト設置」の作業の一部だが、今回、列に並ぶタイミングを逃してしまったために多くの時間を無駄にしてしまった。

※2・・・くまは会場内に落ちているごみを拾い、また間違って分別されているごみをごみ箱から取り出し、正しく分別する。ごみの分別がよくわかっていない人を助ける。などの行動をする。「説明者」は、少し離れたところからくまを見守り、もしくまが誰かに絡まれるようならそれを助ける、という役目とした。「説明者」の負担を減らし、またより多くの人が注目してくれるようにするため。

※3・・・従来、本祭1～3日目におけるレスト撤収の作業は、立て看板を固定している紐を解いて行ってきた。今回はその作業をやめ、単にブルーシートをかぶせるだけとした。シートの端をいすの下に挟んでしっかりと固定しておけば風に飛ばされることもなく、大して問題はなかったと思われる。

※4・・・事務局との交渉の結果、本祭最終日の撤収作業は本祭1～3日目と同じく、ブルーシートをかぶせるだけにとどまり、実際に看板などをグラウンドから運び出すのは後片付け日にすることにした。（昨年度は本祭最終日に物品の運び出しも行った。）

6.反省点・来年度への展望

(1) レストスペース

- 立て看板は完成した状態で持っていくのが望ましい。
- 物品援助の列に並ぶための人員は一人あったのだが、並んでいない間は立て看板の設置を手伝ってもらおうとしたために、列に並ぶ機を逃してしまった。
- 立て看板設置の方法は、今年度のもので特に問題はないかと思われる。5.の通り、立て看板の一つが倒壊したことは事実であるが、本年度のような強風では無理もない。無論さらにしっかりしたものを作ることができればそれに越したことはないが、ひまを見つけて会場内を回り、その都度直せば、それほどの被害はない。
- 当日マニュアルにはレストスペース撤収のときには立て看板をしばっている紐をはずすと書いたが、その必要はない。ブルーシートの固定だけはしっかりとお願いしたい。

(2) 分別説明

- 着ぐるみの借用は松山さんを経由して血液センターの方にお願いした。借用に際しては特に必要とする文書はないが、話は早めに出しておいたほうがよい。
- 当日の活動に関しては、※2の「改定後」の方を勧める。くまのみでやったほうが来場者の注目も集めるし、楽であるからだ。分別の際にくまの手が汚れるが、手洗いですぐに落ちるので問題ないだろう。実際やってみるとなかなか楽しいので、やってみても良いかと思う。

第９話 調査担当

文責：大道 雄介

１. 調査担当概要

(1) 調査の目的およびその内容

NFにおいてごみに関わることを調査し、今後のＮＦにおける環境対策に役立てる。詳細は各項目を参照のこと。

(2) NF前に行ったこと

10/06　模擬店企画担当者アンケート(NF前)案提出
10/13　ごみ組成調査企画書・模擬店実態調査企画書の提出
10/20　ごみ総量調査企画書の提出
10/27　11月祭事務局のアンケートに載せてもらうアンケート案提出
11/03　ごみ組成調査企画書・模擬店実態調査・ごみ総量調査のマニュアル提出、模擬店アンケート(NF前)の集計
11月中旬　ごみ組成調査・ごみ総量調査・模擬店実態調査の調査用紙作成

２.各調査について

(1) 総量調査

①目的

ごみの分別形態別の総量、及びＮＦで排出されるごみの総量を調査することで、ＮＦの環境負荷の程度を考える際の参考にする。また内部資料や外部への啓発として活用する。

②調査内容と方法

前夜祭、及び本祭中：集積場において集めるごみ(割り箸、洗浄済みトレーは除く)は台秤を用いて計量した。ただしペットボトルはカウンターを用いてその本数を数えた。

後片付け日　：紙ごみとビニール・プラスチック類は予定では1袋ずつ計量する予定だったが、時間が予想より長くかかったのでビニール・プラスチック類だけ予定の方法で行って紙ごみは一定の長さを測ってその領域内のごみの重さを計量して領域全体の長さを測って全体の重さを推測した。段ボールについては紙ごみと同じように一定領域の長さと重量を計量し、全体の重量を推測した。
割り箸　：後日箱詰めを行う際に計量した。
洗浄済みトレー　：割り箸の箱詰めをする際にまとめて計量した。

③調査結果

	20日(木)	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	合計(kg)	合計(個数)
紙ごみ（kg）	173	232.2	253.9	273.8	375.1	434.6	1742.6	
ビニール・プラスチック類(kg)	100.9	108	146.9	166.8	218.1	366.6	1107.3	
缶（kg）	15.9	11.7	19.1	30.7	43.8	51.7	172.9	
ビン（kg）	17.9	8.1	31.3	39.8	62.1	98.2	257.4	
生ごみ（kg）	―	65	95	210	262	131	763	
ペットボトル(本)	171	342	265	393	1002	1000	95	3173本
発泡スチロールトレー総量(kg)	49.1	17.5	32.9	34.5	45.9	9.3	189.2	54000枚

洗浄済み発泡トレー(kg)							54.2	15000枚
牛乳パック（kg）	0.5	0	1.6	2	1.7	2.9	8.7	290枚
割り箸							210	35000膳
段ボール（kg）	－					248	248	
総量（kg）	362.4	452.7	588.7	769.4	1038.7	1372.3	4794	

注)－は回収したが、データ無し。下線のついた値は推測値。ペットボトルは30ｇ／本、発泡スチロールトレーは3.5ｇ／枚、牛乳パックは30ｇ／本、割り箸は6ｇ／膳として算出した。

	2003年度	2002年度	2001年度
紙ごみ(kg)	1742.6	1840.1	1513.3
ビニール・プラスチック類(kg)	1107.3	1226.6	762.69
缶・ビン(kg)	430.3	310.6	396.25
生ごみ(kg)	763	677.6	546.03
ペットボトル(本)	3173	3648	3478
洗浄済トレー(枚)	15000	3600	11400
割り箸(膳)	35000	40000	34000

注)2002年度の紙ごみ、ビニール・プラスチック類、ペットボトルの値は後片付け日の分も含む
2003年度の紙ごみ、ビニール・プラスチック類、缶・ビン、ペットボトルの値は後片付け日の分も含む

④考察

・紙ごみ、ビニール・プラスチック類に関しては前年度の 1840.1 kg、1226.6 kgと比べてそれぞれ約 100 kg減少した。原因としては今年度は雨が降った日が多く来場者の出足が鈍ったためであろう。ただし今年度、昨年度ともに後片づけ日は推測した値なので誤差が含まれる。

・缶・ビンについては昨年度は前夜祭と後片づけ日のデータがないので本祭中のデータで比較すると缶はほぼ同程度、ビンは40kg程度減少しているが、今年は後片づけ日に集中して模擬店がごみを持ってくる傾向が強かったので一概には比較できない。

・ペットボトルは昨年度に比べて475本減った。

・生ごみは今年は昨年度と同程度であった。ただ今年は後片づけ日に大量の余りが出なかった。

・トレーは昨年度は諸事情(昨年度報告書参照)のため予定通りの回収ができなかったため、データが少ないが、存在するデータと比較すれば同程度の量であった。また今年度は前夜祭で出たトレーも洗浄したため、かなりの量をリサイクルに回すことができた。

・割り箸は膳数では前年度に比べ5000本の減少だが、これは推定に用いた1膳あたりの重量の差から生じたもので、総量そのものはほぼ変わっていない。

⑤反省・次年度以降への展望

・前夜祭を初め、今年度は雨が多かったので、調査用紙の損耗率が高く、調査用紙がかなり不足した。雨対策として45リットル透明ごみ袋で覆って記入をしていたのは効果があったようだ。

・後片付け日の紙ごみ・ビニール・プラスチック類については全ての回収が終わってから1時間で量り終える予定だったが、無理であった。本祭中と同様にごみが持ち込まれる毎に1袋ずつ計量した方がはるかに現実的におもえる。

・段ボールについて昨年度比で約10分の1程度になった。やはり推測はよくないようだ。来年度以降は手間がかかっても1枚ずつ量るべきだろう。

・生ごみは生ごみ受付の所に台秤を常備すべきだった。

・割り箸は箱詰めの際、段ボールにつめて量ったため(段ボールは大きさに関係なく一律500ｇとして引いた)誤差がかなりあったように思われる。1袋ずつ量った方がよかったかもしれない。袋で測ると不純物も含んでしまうが、不純物による誤差は小さいだろう。

(2) 組成調査

①目的

ＮＦにおいて出される再分別後のごみのサンプルを取り、それに含まれるごみの種類と種類別の重量を調査する。また、異物混入率から本年度のごみ分別が適切に行われたかどうかを見た上で本年度の環境対策委員会の再分別指導の効果、過年度の調査結果をふまえて来年度以降の参考にする。

②調査内容と方法

ⅰ.NF本祭1日目から4日目までに紙ごみ、ビニール・プラスチック類、缶、ビンのごみ袋をそれぞれ3袋ずつ確保しておく。不法投棄と誤回収を防止するため集積場南のトイレの裏に隠し、ビニールシートで覆う。

ⅱ.次の日の午前8:00～9:00にごみ袋を開封し、組成調査分類にしたがって分類して、それぞれの重量を計測する。

ⅲ.調査が終了したら、ごみ袋は集積場に返還する。

③組成調査分類

(1)ビニール・プラスチック類
- (a)発泡トレー(お椀型)
- (b)発泡トレー(平型)
- (c)透明フードパック
- (d)ペットボトル
- (e)プラスチックスプーン・フォーク
- (f)プラスチックコップ
- (g)ビニール袋（ごみ袋・買い物袋・包装）
- (h)その他

(2)紙類
- (a)紙トレー(お椀型)
- (b)紙トレー(平型)
- (c)段ボール
- (d)紙コップ
- (e)その他

(3)木片
- (a)割り箸
- (b)竹串
- (c)その他

(4)金属類
- (a)スチール缶
- (b)アルミ缶
- (c)その他

(5)生ごみ

(6)ビン
- (a)リユース可能なビン
- (b)リユース不可能なビン

(7)その他

④調査結果

分類	品目	紙ごみ			ビニール・プラスチック類			缶		ビン	
		重量(%)			重量(%)			重量(%)		重量(%)	
		2003年度	2002年度	2001年度	2003年度	2002年度	2001年度	2003年度	2002年度	2003年度	2002年度
プラスチック類	発泡トレー(お椀型)	0.07	0.08	0.15	0.24	1.24	0.27	0	0	0	0
	発泡トレー(平型)	0.19	0.17	0.36	0.88	0.27	0.88	0	0	0	0
	透明フードパック	0	0.12	0.16	12.25	16.58	22.77	0	0	0	0
	ペットボトル(500ml)	0	0	0.14	0.45	0.41	0.85	0	0	0	0
	ペットボトル(500ml以外)	0.15	0	0	2.97	7.02	0.58	0	0	0	0

	プラスチックスプーン	0.04	0	0.03	1.49	0.94	1.24	0	0	0	0
	プラスチックコップ	0.25	0.05	0.28	2.15	0.91	9.31	0	0	0	0
	ビニール袋	0.22	0.18	0.52	32.02	38.65	7.46	0	0	0	0
	その他	2.24	17.8	3.4	35.41	15.27	34.46	0.03	0	0.08	0
紙類	紙トレー(お椀型)	0.33	0.55	1.07	0	0	0.69	0	0	0	0
	紙トレー(平型)	3.92	2.98	0.43	0	0	0.04	0	0	0	0
	紙コップ	11.31			0.16			0		0	
	パルプモールド	0			0			0		0	
	段ボール	2.12	5.31	3.79	0	0	0.88	0	0	0	0
	その他	73.46	62.74	73.59	4.78	3.12	10	0.3	0.78	0.02	0
木片	割り箸	1.08	0.66	0.99	3.37	0.81	0.79	0.17	0	0.02	0
	竹串	0.46	3.08	4.06	0.03	0.37	0.14	0.06	0.03	0	0
	木製スプーン・フォーク	0			0			0		0	
	その他	0.34	1.06	0.37	0	0.23	0.14	0.16	0.07	0	0
金属類	スチール缶	0	0	0	0	0	0	54.47	33.39	0	0
	アルミ缶	0	0.03	0	0	0	0.24	32.18	54.01	0	0
	その他	0.9	0.05	0.1	0.85	0.25	0.89	1.3	9.33	0.03	0
生ごみ		2.92	5.12	7.52	2.94	13.94	2.99	0.09	0	0	0
ビン	リユース可能なビン	0	0	0	0	0	0	0	0	11.14	9.83
	リユース不可能なビン	0	0	0	0	0	0	11.23	1.74	88.12	90.17
その他		0	0	3.04	0	0	5.37	0	0.67	0	0

⑤考察

全体的に分別率は高く、問題はないようだ。ただ、缶にかなりビンが混じっていた。

⑥反省・次年度以降への展望

・1日目のサンプルの確保を忘れた。これは確かに集積場の責任者の担当ではあるが、集積場が忙しいことを考えると、調査担当が行ったほうがよいように思える。

・紙ごみに本来分別すべきである1リットル牛乳パックがかなり見られたので、来年は牛乳パックという項目を設けたほうがよいだろう。

(3) 模擬店実態調査

①目的

ＮＦ当日の模擬店の実態を調査することにより、実際に出されたごみと集積場に集まったごみとの関連などを調べ、内部資料として活用する。

②調査内容と方法

環境対策委員が模擬店の営業時間内に各模擬店を巡回し、以下の項目を記録用紙に記入する。

イ.模擬店コード、模擬店名(あらかじめ記入)

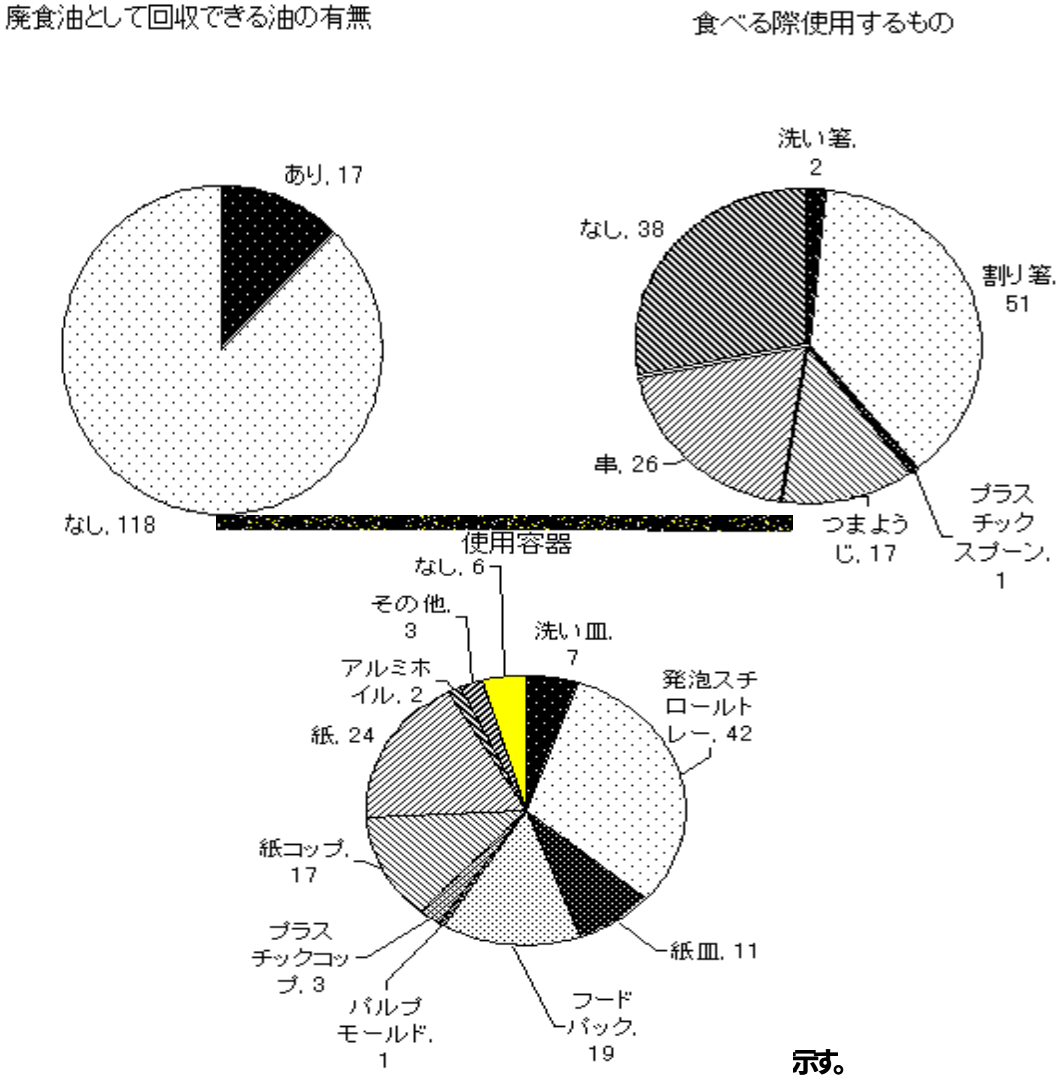
ロ.メニュー

ハ.廃食油として回収できる油の使用の有無

ニ.使用容器(洗い皿、発泡スチロールトレー、紙皿、フードパック、パルプモールド、プラスチックコップ、紙コップ、紙、アルミホイル、その他、なし)

ホ.食べる際使用するもの(洗い箸、割り箸、プラスチック製スプーン、プラスチック製フォーク、木製スプーン、木製フォーク、つまようじ、串、なし、その他)

③調査結果



示す。

④考察

・メニューについては1模擬店で複数のものを販売している店についてはメニューの数の分売り上げが伸び、環境負荷が他の模擬店より高いとは考えにくいので独断で一つにした。来年度はもっと事前に検討すべきかもしれない。メニューについては今年度も焼きそば、クレープ、焼き鳥などを取り扱う模擬店が多かった。

・今年度も発泡スチロールトレーを使用する模擬店が42模擬店と最も多かった。次いで、紙24、フードパック19であった。やはり例年と同じくこの3種類の容器が最も多く使われたようだ。

・食べる際使用するものについては例年通り割り箸が多かった。

・廃食油として回収できる油の使用の有無については、昨年度は油の使用の有無を基準に、今年度は揚げ物などを売っている店としためかもしれないが、今年度は昨年度の42に比べて、17と少なくなった。

⑤反省・次年度以降への展望

・今年度は未記入が少なく、データとして有意であったと思う。

・今年はスタッフジャンパーを着ずに調査は行われた。このほうが目立たずにしやすいとのことであるので、マニュアルに明記すべきかもしれない。

メニュー	店舗数	メニュー	店舗数	メニュー	店舗数
焼きそば	10	揚げアイス	2	うどん	1
クレープ	9	イカ焼き	1	トッポッキ	1
焼き鳥	8	りんごあめ	1	日本酒	1
たこ焼き	8	アイスクリ	1	ドリンク	1
おしるこ	7	焼きいも	1	だご汁	1
おでん	5	明石焼き	1	アメリカン	1
フランクフ	5	揚げピザ	1	お好み焼き	1
たいやき	5	串焼き	1	なすの田楽	1
餃子	4	そばめし	1	水あめ	1
豚汁	3	チョコバナ	1	創作料理	1
お茶漬け	3	ケーキ	1	じゃがいも	1
お餅	3	鉄板焼き	1	オムソバ	1
串かつ	3	肉まん	1	パンの耳揚	1
カレーうど	2	パフェ	1	筑前煮	1
春巻	2	一銭洋食	1	なんこつの	1
チヂミ	2	ベビーカス	1	コーヒー	1
ワッフル	2	揚げ物	1	かつサンド	1
コロッケ	2	大判焼き	1	カレー	1
炒飯	2	ライスコロ	1	石狩鍋	1
フレンチト	2	塩焼きそば	1	たこせん	1
だんご	2	ハニートー	1	パンケーキ	1
ドーナツ	2	ホットドッ	1		

(4) 模擬店企画担当者アンケート(NF前)

①目的

模擬店企画者の環境と学園祭に対する意識、および環境虎の巻と企画担当者説明会に対する認識を調査し、11月祭事務局と環境対策委員会の今後の環境対策改善の参考とする。

②実施方法

第4回企画担当者説明会(10/28)にてアンケートを配布して、その場で回収する。

③アンケート内容と結果

(1) 模擬店企画担当者説明会での環境対策委員会の説明はいかがですか？

A)わかりやすい　B)普通　C)わかりにくい

A) 18　B) 71　C) 31　無回答2

(1－A) (1) で「わかりにくい」と答えられた方にお尋ねします。

どのような点がわかりにくいのですか？(複数回答可)

A)声が小さい　B)話すスピードが速い

C)内容説明自体がわかりにくい　D)周囲がうるさい

E)その他(　　)

A) 24　B) 3　C) 5　D) 11　E) 17

その他に関して

・くどい

・話し方が不明瞭

・棒読みで何が大切かわからない

・要領が悪い
・マイクがこもっている
・わかりきった話が多い
・滑舌が悪くて何を言ってるのかわからない
・ときどき声が小さくて聞こえない人がいる
・何をしゃべっているのか聞き取りにくい
・質問の意図をしっかり把握できていない
・板書してほしい
・プリント読んでるだけなので、それじゃ意味が無い
・モゴモゴ言ってなにを言っているのかわからない
・声がこもっていて何を言っているのかぶつぶつしゃべっているように聞こえる。
・ぼそぼそしゃべっていて何がしたいのかよく分からなかった
・消防署の方の話について　2

(2)環境と学園祭とのかかわりについて模擬店企画者としてどのようにお考えですか？
A)普段から環境負荷を減らそうと努めており、学園祭においてもそうしたい。
B)普段は環境負荷を減らそうと努めているが、学園祭という場においては環境負荷をあまり考えない。
C)普段は環境負荷を考えていないが、学園祭という場においては環境負荷を減らそうと努めたい。
D)普段から環境負荷を考えておらず、学園祭においても考えない。
E)その他(　　)
A)50　B)26　C)38　D)6　E)2
その他について
・うちの企画からはごみは出ません！
・学園祭の準備において、環境負荷まで考えている余裕がない

(3)あなたの模擬店では洗い皿を使用しますか？
A)はい　　B)いいえ
A) 11　B) 111

(3－A) (3) で「いいえ」と答えられた方にお尋ねします。
あなたの模擬店ではなぜ洗い皿を使用しないことにしたのですか？(複数回答可)
A)メニューから不要だったから。　B)メニューが未定だったから。
C)コストがかかりそうだったから。　D)手間がかかりそうだったから。
E)衛生的によくなさそうだったから。　F)知らなかったから。
G)使いたい種類の皿がなかったから。　H)その他(　　)
A)41　B)26　C)12　D)42　E)2　F)1　G)13　H)8
その他について
・メリットがよくわからない
・気付いたのが遅かった
・客に手間をかけさせるのは商売をする側としては考えられない
・客に持っていかれたときに責任を負わされるから
・皿が実際はどんなものか写真では十分はわからない
・洗う人数を割けない
・意味不明なもの　2

(4)あなたの模擬店はエコ商品 (パルプモールド、木製カトラリー)を使用しますか？
A)はい　　B)いいえ
A）8　B）107　無回答7

(4－A）(4) で「はい」と答えられた方にお尋ねします。
エコ商品を使用するのはなぜですか？
A)環境にやさしいから。 B)広報をしてもらえるから。
C)見栄えがいいから。　D)その他(　　)
A）8　B）0　C）0　D）0

(4－B）(4) で「いいえ」と答えられた方にお尋ねします。
エコ商品を使用しないのはなぜですか？
A）メニューから不要だったから。　B）メニューが未定だったから。
C）コストがかかるから。　D)知らなかったから。
E）見栄えが悪いから。
F)その他(　　)
A）32　B）17　C）8　D）36　E）3　F）8
その他について
・毎年使用してないようだから
・どんなものか知らない
・容器に関しては未定　3
・特に考慮せずに決めた　2
・意味不明

以下は環境虎の巻についてお尋ねします。

(5)トレー洗浄シフトについての説明は、当日の作業内容がわかりやすいですか？
A）わかりやすい
B）普通
C)わかりにくい
A）14　B）80　C）20　無回答8

(6)店内ごみの分別についての説明は、当日の作業内容がわかりやすいですか？
A)わかりやすい
B）普通
C)わかりにくい
A）17　B）81　C）16　無回答8

(7) 会場内ごみ箱の管理についての説明は、当日の作業内容がわかりやすいですか？
A）わかりやすい
B）普通
C)わかりにくい
A）17　B）79　C）18　無回答8

(8)データ集は役に立ちますか？
A）役に立つ

B)どちらともいえない
C)役に立たない
A）73　B）37　C）4　無回答8

(9)ＮＦのごみの分別数についてどのようにお考えですか？
A)多すぎて面倒だ。　B)多いが環境のためなら仕方がない。
C)ちょうどよい。　D)もう少し増やしたほうがよい。
A）15　B）72　C）25　D）2　無回答8

(10)環境虎の巻についてなにか意見や感想等ございましたらご自由にお書きください。
・トレーを使用しないのにトレー洗浄をしないといけないのはちょっと･･･。
・役に立った
・環境のためにどんどん改善していってほしい
・ちょっと分別数が多すぎます。昨年は点検も厳しく協力したいと思ってもさすがにうんざりです。
・わかりやすい
・当委員会へのねぎらいの言葉
・11月祭事務局への意見

④考察

(1)環境対策委員会の説明は今年は昨年度より「わかりにくかった」という意見が多かった。全員に理解してもらうのは難しいようだ。11月祭事務局に対する意見も含まれているのかもしれない。

(1－A)声が小さい、周囲がうるさい、という意見が多かった。もっと大きな声を出す必要があったのかもしれない。その他については全体として要領よく説明する必要があるようだ。質問についてもっと正確に把握し、対応すべきようだ。

(2)多くの人がNFにおいて環境のことを考えてくれているようだ。

(3)実際にはNF前に1模擬店がキャンセル、NF中に3模擬店がキャンセルしたため、実際は7模擬店が使用した。

(3－A)メニューから不要、手間がかかる、という意見が大勢を占めた。

(4)実際には8模擬店も使用していなかったので、勘違いをしたのかもしれない。実際は調査でわかる範囲では1店舗少なくとも8はなかったと思われる。

(4－A)環境へ配慮して、エコ商品を使用したようだ。

(4－B)知らなかったという意見が最も多かった。コストについては生協にだいぶ安くしてもらったので、それほど気にならなかったのだろう。あとパルプモールドはどんぶり状のものしか生協では取り扱わなかったのでメニューの関係で使用しないという意見は仕方がなかったかもしれない。

(5,6,7)環境虎の巻の説明はわかってもらえたようだが、実際にはごみ箱の設置場所を間違うことが本祭中かなり多かった。

(8)多くの人が役に立つであろうと考えてくれたようだ。

(9)多くの人が分別数が多いと考えているようだが、環境のためなら仕方がないと考えてくれるようだ。

(10)まず環境虎の巻への意見は「役に立った」などの好意的意見を除くと特になかった。またやはり事務局と環境対策委員会を混同しているようだ。

⑤反省・次年度以降への展望

ささいなことだが実はアンケートの番号をふり間違えていた(これでは訂正済み)。もっときちんとチェックすべきだった。このアンケートは回収率が高いのでより充実がなされることを望む。

(5) 模擬店企画担当者アンケート(NF後)

①目的

NFで実際にごみ箱の管理・ごみの再分別・トレー洗浄の作業を行った模擬店の意見を聞き、来年度以降の環境対策委員会の活動の参考とする。

②実施方法

アンケートを環境虎の巻の巻末に添付しておき、第6回模擬店企画担当者説明会(12/02)にて回収した。

③アンケート内容と結果

Ａ.11月祭環境対策委員会およびその活動についてお聞きします。

1.会場内のごみ箱の回収作業の負担はどうでしたか？

ア.かなり負担があった　　イ.負担はあったがこれくらいは行うべき

ウ.普通　　エ.もう少し負担すべき

ア．3　イ．17　ウ．16　エ．0

2.会場内ごみ箱の回収作業において、とまどった点や疑問に思った点はありませんでしたか？

ア.あった　　イ.特になかった

ア．10　イ．26

3.2でアと答えた方にお聞きします。それはどのような点についてですか？

・(ごみ箱の)場所がよくわからなかった。特に雨の日は。
・ごみの種類により負担が異なり、まぎらわしい分別は紙ごみに入れられている。
・全然やってないところがあって不快だった。
・発泡スチロールのカップとペーパーモールドのカップの見分けがつかなかった。
・仕方がないとは思うが、ごみの分別ができていない。ビニール類にトレイ、割り箸に串が多かった。
・竹箸と竹串の区別→Ｃ地区にないはずの箸が入っていた(だからどうということではないかも)←意味不明
・段ボールではないごみ箱を、どう片付けてよいか。
・ごみ袋代を自分らで負担しなきゃいけなかった点に納得がいかん。
・まず会場内ごみ箱のごみ袋の代金を負担するのが模擬店であること。これを仕方ないと考えるならば、最低でもこのことをどこかに明記してほしい。
・記入無し。

4.発泡スチロールトレーの洗浄作業の負担はどうでしたか？

ア.かなり負担があった。　　イ.負担はあったがこれくらいは行うべき

ウ.普通　　エ.もう少し負担すべき

ア．7　イ．14　ウ．12　エ．1　やってない2

5.発泡スチロールトレーの洗浄に関して、とまどった点や疑問に思った点はありませんでしたか？

ア.あった　　イ.特になかった

ア.2　イ.31　やってない2　無回答1

6.5でアと答えた方にお聞きします。それはどのような点についてですか？

・スタッフの指示があいまい

6.5でアと答えた方にお聞きします。それはどのような点についてですか？
・スタッフの指示があいまい
・普通にこすっても落ちない汚れがあったけどいいの？

7.模擬店企画担当者説明会および11月祭期間中の当委員会の活動全般について何か不満に感じたことや要望点、改善点などあればお書きください。
・説明会での委員会の方の説明はわかりにくく、かつ「環境虎の巻」を読んでいるだけである。もう少し、要点をおさえて説明してほしい。模擬店が行うべき仕事の説明については特にそうである。
・説明会で何か質問をした時に、それを答える人があんまよく分かっとらんのじゃ話にならんと思います。環境対策委員の対応はちょっとひどかったと思います。
・方針はとても良いと思う。
・担当じゃないごみ箱の管理を命じられました…コード番号はちゃんと確認してください。
・ＮＦ委員の人（事務局と思われる）と連携関係が不明。こちらは同じスタッフと思って質問するので分かれているなら初めからそう言ってほしい。
・人員配備が不適切
・11月祭事務局に対する意見

Ｂ．本冊子、『環境虎の巻』についてお聞きします。

1.『環境虎の巻』の中で目を通したページはどれですか？すべて選んでください。
□　模擬店企画の皆さんへ　26
□　店内から出るごみの分別とその注意点　32
□　会場内ごみ箱の管理　33
□　担当ごみ箱一覧表　34
□　ごみ箱ステーション配置図　33
□　発泡スチロールトレーの洗浄　31
□　洗剤作業シフト表　33
□　模擬店に作業をお願いする理由　27
□　スプレー缶の使用禁止について　22
□　過去の模擬店データ集　33

2.『環境虎の巻16ページ』にある過去の模擬店データ集は、模擬店運営の際に役に立ちましたか？
ア.役に立った　イ.役に立たなかった
ア.32　イ.2　無回答2

また、今後データ集に追加してほしい項目があればお書きください。
・模擬店の地区・場所3
・値段2
・材料費・利益5
・より多くの店のデータ
・天候1
・模擬店を運営した団体（テニスサークルなど）

3.『環境虎の巻』を来年度以降も作ることについてどう思いますか？

ア.改善を加えて作ってほしい　　イ.今年と同じものを作ってほしい
ウ作っても作らなくてもよい　　エ.必要ないのでつくらなくてもよい
ア．20　イ．13　ウ．0　エ．1　無回答2

4.『環境虎の巻』について何か不満に感じたことや要望点、改善点などあればお書きください。
・対策委員会の場所がわかりにくい。
・何日に何をするのかのスケジュール的なものが別にあったら便利かも。見やすいし。
・文字や表が見づらい。要点がわかりにくい。
・紙ごみの分類をもっと詳しく書いてほしい。アルミ箔や輪ゴム・ペーパーモールドのカップなど分類がわかりにくいものをコメントしておいてほしい。

④考察

A1.ごみ箱の管理作業は負担になると考える人は多いが、作業自体には納得している人が多いようだ。

A3.ごみ袋の代金を模擬店が負担することが納得できないとする意見が見られた。ただ普通の飲食店は自分の店で出たごみは自分のところで引き受けるのだからその程度は負担してもらいたいものだ。ただごみ袋代を模擬店が負担しなければならないことはどこかに明記すべきだろう。木製ごみ箱についてどう取り扱えばよいのかをきちんと説明すべきだった。

A4.洗浄作業も負担は大きいが、作業自体は納得してやってもらえているようだ。

A6.これらの意見も参考にすべきかもしれない。

A7.企画担当者説明会で質問に答えられるようにもっと把握しておくべきだったのであろう。当日に運営場所を変えていたりする(隣がキャンセルしたのでそこに移った)模擬店があったり模擬店の位置が事務局からもらった地図と違っていたりしたことがあったためかもしれない。第1回企画担当者説明会で環境対策委員会は独立した組織、と言ってあるのだから聞いてもらえないならばどうしようもない。

B1.模擬店に実際に関係することはよく読んでもらえたようだ。理念系のものは読まれている率がやや低い。しかし代表のお言葉は約7割の人が目を通した。

B2.データ集は役に立ったようだ。

B3.環境虎の巻は必要とされてるようだ。

B4.対策委員会の場所がわかりにくい、という意見はおそらく洗い皿参加模擬店から寄せられたようだ。吉田食堂がわかりにくいとは思えないが･･･。表については確かに見にくいかもしれない。来年度はより見やすいものを作れればよい。紙ごみについては書き出すとキリがないので難しい問題だろう。

⑤反省・次年度以降への展望

今年はＮＦ後に第6回模擬店企画担当者説明会があったので、回収率は上がった。それでも36枚と約25％の回収率に過ぎないが、第6回模擬店企画担当者説明会の模擬店企画担当者の出席率が低いため仕方がない。アンケート内容ではトレー洗浄については「洗い皿参加模擬店なのでしていない」という選択肢がある方が親切だろう。できれば7割程度の回収率は欲しい。回収率向上は今後の課題である。

(6) 模擬店メニュー・価格及び容器・食材購入量調査

①目的

模擬店メニュー・価格及び容器・食材購入量を調べ、次年度に模擬店を運営する団体に配布することで、模擬店に食材や容器購入の目安としてもらい、NF中のごみ減量の一助とする。

②実施方法

模擬店企画担当者アンケート(NF後)と同様

③調査結果

このデータは当委員会が参考としても意味がないため、ここでの掲載は割愛する。データは来年度の環境虎の巻に掲載予定である。

④反省・次年度以降への展望

有意なデータとして回収できたものは29枚であった。あまり多くないが、近年では多いほうだ。やはりＮＦ後アンケートと同じく回収率向上は今後の課題である。

第 10 話　スタッフ管理担当

文責：田邉　文子

1.今年度のスタッフ管理の仕事と方針

◆　スタッフの確保

環境対策委員会の活動を充実させ、かつ円滑な運営を行うにはスタッフの確保が必須である。スタッフには例会に参加し、環境対策委員会の運営に深く関わるコアスタッフと、11月祭の当日の運営のみに参加する当日スタッフがいる。必要なスタッフ数を確保するため、また当委員会の活動に参加することによって環境問題に対する関心を深めてもらうため、今年度も昨年同様、各方面にスタッフの募集を行った。

◆　シフトの作成および運用

11月祭当日の環境対策委員会の運営を円滑に進めるためには、しっかりとしたシフトの作成と当日の運用が必要である。今年度は、当日に問題が生じないよう適切にシフトを組むことはもちろん、各スタッフが士気の高さを持続できるようなシフトになるよう努めた。

◆　スタッフの意見の回収

11月祭当日の活動から見えてきた改善点等を祭り中に反映させたり、次年度以降の活動を向上させるためにはコアおよび当日スタッフの意見を回収することが必要である。今年度も詳細な意見を集めるために、昨年同様、当日シフト管理票とスタッフアンケートを実施した。

◆　当日スタッフへのお礼

当日スタッフとして参加していただいた方へは礼儀として何らかのお礼をする必要があり、またそのお礼如何が次年度以降の参加に影響することも考えられる。よって今年度は当日スタッフへのお礼の一つとして、「ありがとう冊子」という冊子を作成した。

2.各仕事の詳細と反省、来年度への展望

(1) スタッフの確保について

〈時系列〉

6/2　コアスタッフ募集ポスター、ビラの第1版提出
6/9　〃　第2版提出
6/16　〃　第3版提出
6/17　スタッフ募集立て看設置
6/18　環境科学ゼミナールでスタッフ募集
6/19　ポスター掲示
6/23　コアスタッフ募集説明会、ビラ配布、黒板書き
6/30　〃　〃　〃
9/22　当日スタッフ募集ポスター、ビラの第1版提出
9/29　当日スタッフ募集説明用紙(※)第1版提出

9/29　当日スタッフ募集説明用紙(※)第1版提出
10/6　〃　第2版提出
10/10　当日スタッフ募集説明会、黒板書き
10/14　当日スタッフ募集ポスター、ビラの第3版提出
10/15　生協学生委員会へスタッフ募集について口頭確認
10/17　ポスター掲示
10/20　当日スタッフ募集説明会、黒板書き、ビラ配布
23日まで生協学生委員会の例会にて当日スタッフ募集
10/27　当日スタッフ募集説明会、黒板書き、ポスター再掲示
11/7　当日スタッフ募集説明会、黒板書き

(※)当日スタッフについての説明をする際に用いるもので、環対の目的や当日にやる作業などについての説明が記載してある。

〈一般公募　参加者：1人〉

ポスター、ビラ、立て看、黒板書き、Websiteによってスタッフ募集の告知を行い、併せてスタッフ募集説明会を開いたが、今年度は、ビラは無駄が多いとの考えからポスターを約50枚、ビラを約50枚（環境系の授業が行われる1教室）配布した。当初ではもう1教室にビラを配布する予定であったが、原稿のチェックが遅れ、1教室のみになってしまった。

結果、黒板書きを見て1人が説明会に来てくれ、当日スタッフとして参加してくれた。十分な成果が出た、とは言えないが、喜ばしいことである。予算や紙資源の浪費との兼ね合いが難しいが、次年度以降、2人、3人と少しでも多くの人に参加してもらえるようがんばって欲しい。

〈元コア・安全センター関係　参加者：14人〉

メーリングリストでの募集、関係サークルの例会での募集、個別の連絡による募集を行った。

〈生協学生委員会　参加者：9人〉

生協学生委員会には以前、生協環境対策委員会があり、環対の活動に協力していただいていた。いまこの委員会はないが、その流れで例年各学生委員会にスタッフ募集をさせていただいている。そこで、今年度も例年通り各学生委員会（Pallet、あらんじぇ、Silly Fox、らいふすてーじ編集部）の例会でスタッフの募集をさせていただいた。

しかし、今年度は残念ながら昨年度の5割ほどの参加者数であった。募集の方法は昨年度と変わりないことから参加者が減った確かな理由はわからないが、各委員会の例会での説明に何か問題があったのであろうか。説明は上記の時系列中にある「当日スタッフ募集説明用紙」と「シフト記入票」を配布して行ったが、説明する内容や説明の仕方について事前に話し合った方が良いかもしれない。

〈スタッフの知人　参加者：6人〉

主としてコアスタッフに、知人に声をかけてもらいスタッフを募集した。今年度は6人が集まったが、3回生以上のスタッフの知人のいなかった。昨今、環境問題に関心のある人は多く、コアスタッフの周りにも少なからずいると思う。コアスタッフが知人ということで参加しやすいと思われるので、環境問題に興味のある知人はもちろん、そうでない人にも積極的に声をかけていって欲しい。

〈他大学からの参加　参加者：4人〉

エコ・リーグを通じて4人の方が環対の活動に参加しに来てくださった。お互いの学園祭での環境対策などについて話すことができ、お互いに良い刺激になるため、次年度以降はスタッフの募集をする段階で、他大学の方たちに対しても呼びかけてみてはどうだろうか。

(2) シフトの作成および運用について

〈時系列〉

10/6　当日スタッフシフト票第1版提出
10/14　コアスタッフシフト票配布
10/20　コアスタッフシフト票回収、当日スタッフシフト票配布開始
10/27　この週、各担当長と必要人員等について打ち合わせ
10/30　各担当の必要人員提出締め切り、当日スタッフシフト票提出締め切り
11/5　シフト表第1版提出
11/10　この週、当日スタッフへの仮シフトを告知
1114　当日スタッフ説明会（シフト表配布、シフト説明、マニュアル配布）
11/17　当日スタッフ説明会、仕事別シフト表提出
11/19　シフト表最終版提出

1.で述べたことを満足するため、特に以下のような点に注意してシフトを作成した。

〈1回生に対して〉
・1人当たりのシフト合計時間に大きな差がでないようにする
・なるべくシフトを詰めない
・なるべく多くの種類のシフトを経験させる

〈2回生に対して〉
・あまり担当のシフトばかりに入れない
・長時間のシフト休みは入れず、その分の休みは1回生に回す

〈3回生に対して〉
・長時間のシフト休みは入れず、その分の休みは1回生に回す

〈全員に対して（当日スタッフを含む）〉
・昼食休憩、夕食休憩（30～60分）を必ず入れる
・一つのシフトに長時間連続で入れない
・同じシフトにばかり入れない

シフトの作成に関しては、スタッフアンケートでは反省点は何も指摘されず、「休みがあったので何も言うことはありません。」といったものもあった。まず成功したとみてよいのではないだろうか。皆、根が真面目なだけによほど無茶なシフト以外はこなしてしまうが、次年度以降も、それに甘えることなく、各スタッフが必要以上に疲れることなく、気持ちよく作業できるよう、努力してもらいたい。

また、昨年度は当日スタッフの方からシフトの発表が遅いという指摘をいくつか受けたため、今年度は当日スタッフの方にはシフト票の提出締め切り日から約一週間後に仮のシフト票を配布した。配布後に数人のスタッフから都合が悪くなったとの連絡があったが、他のスタッフに振り替えることで対応できた。早めにシフトを知らせることでこのような事態にも余裕を持って対処できた。

11月祭当日のシフトの運用に関しては問題なく行えた。しかし、当日のシフト運用に関しては1人でやる必要はないと思う。次年度以降は3日交替で、2人で行ったらどうであろうか。シフトの見方や引き継ぎさえちゃんとしていれば問題はないと思う。私見であるが、ある意味、シフト管理の6日間缶詰は代表より疲れる。

(3) スタッフの意見の回収について

〈時系列〉

11/14　当日スタッフアンケート第1版提出、当日シフト管理票第1版提出

今年度は責任者がシフト管理票を記入する際、当日スタッフの人にも側について話してもらうことがあった。その際は当日スタッフからも有用な意見が多く聞けたため、シフト管理票に記入する際は、なるべくそのシフトに

あった。その際は当日スタッフからも有用な意見が多く聞けたため、シフト管理票に記入する際は、なるべくそのシフトに入った人を集めて代表やシフト管理とともに話し合いながら記入するのが良いと思う。

スタッフアンケートについては2,3人配布できなかった人がいた。これは、シフト管理がてんやわんやしているときにシフトが終わり、お礼を言うまもなく気づいたときにはいなくなっていた、というものである。最終のシフトに入る人には、シフト終了後にはアンケートを書いてもらうことをあらかじめ伝えておくべきであった。また、後片づけ日の最後まで参加している当日スタッフに関しては、作業終了から打ち上げのどたばたで渡し忘れやすいので気をつけるべし。

(4) 当日スタッフへのお礼について

〈時系列〉

9/22　ありがとう冊子の作成を決定
11/10 ありがとう冊子の内容・原稿担当者決定
12/1　ありがとう冊子第1版提出
12/8　〃　第2版提出
12/12 生協学生委員会へ上記冊子の配布委託
12/15 この週、各当日スタッフへ上記冊子の配布
※　なお、外部向け報告書（11月際環境活動報告書）もでき次第配布する

「ありがとう冊子」とは

【目的】
・スタッフ協力へのお礼
・今年度の活動についての報告
・スタッフに参加して感じたことを日常生活(社会)に結び付けて考えてもらう

【項目】
・スタッフ協力へのお礼(1ｐ、表紙)
・現在のごみ問題と環対の活動の関係(1ｐ、2ページ目)
・今年度の調査結果(分別毎のごみの量、洗い皿の使用枚数など)(1ｐ、3ページ目)
・寸話集（抜粋）（0.7ｐ、4ページ目）
・例会日時、安全センターの位置、連絡先など(0.3ｐ、4ページ目)

今年度は上記の「ありがとう冊子」および「外部向け報告書」を当日スタッフの方に配布する。これらを読んで環境問題に対しより深い関心を持っていただければ幸いである。また願わくば次年度以降も手伝ってくれんことを・・・。

3.終わりに

11月祭当日までおよそ半年かけて準備をしてくるわけだが、そうやって準備してきた当日の活動をしんどいものにするか、楽しく行えるようにするかはシフトに寄るところが大きいと思う。一人々々性格も状況も違うわけで、どうすればよりスタッフのためになるかは難しいところであるが、自分の裁量で人の時間を拘束する以上、そういったことを良く考えてスタッフ管理の仕事を務めなければと思う次第である。

第 11 話 代表

文責：原 康祐

1. 総括

今年度の代表の仕事を一言で言えば、多くの担当に関わる仕事と、どの担当にも含まれない仕事であった。具体的には、企画担当者説明会の準備、外部向け文書作成などの外部団体と関わる仕事、当日マニュアル作成の統括、物品作成統括などの 11 月祭当日備品の準備・事後処理の統括、11 月祭当日の本部運営・物品輸送を行った。

2. 企画担当者説明会（以下、企担と略す）の準備

(1) 概要

昨年度の11月祭環境対策反省会において、当委員会の説明が分かりにくいという指摘が、11月祭事務局からあった。それを受けて、今年度、企担における説明の改善をすることとなった。

(2) 目的

① メリハリのあるわかりやすい説明により、当委員会の説明を十分理解してもらうこと。
② 意見募集などにより、企画担当者の意見を聞き当委員会の活動に生かすとともに、企画担当者に自分たちが出すごみの始末について、考えてもらうこと。

概要で述べたとおり、説明の改善が1つの重要な目的である。しかし、それだけではない。適切な説明をすれば、企画担当者に適切に作業を行ってもらえると考えた。適切な説明とは、まず、説明内容自体が分かりやすい、次に、説明者がメリハリをつけて話す、さらに、作業の意義をきちんと言う説明であると考えた。また、企画担当者に自分たちが出したごみの始末は自分たちでやるのだという意識を持ってもらうため、②も目的とした。これも、今年度の重点目標につながることである。

(3) 実施内容

① 原稿（カンペ）チェック

企担での説明原稿を、事前にチェックした。要点がまとめられたカンペのようなものでよいとしていたが、ほとんど、文章化されていたものをチェックした。原稿は、説明内容に最もかかわりの深い担当が原案を作り、説明者に渡し、説明者がアレンジした。

② 大人数に対する説明のノウハウの勉強会

説明のコツ、気をつけることなどを中心に、例会中に勉強会を行った。

③ 全体練習

勉強会で学んだことを身につけることを目的として、9／29にA西31で実施した。実施手順は、第1回模擬店企担の説明原稿を参照しマイクで説明し、直すべき点をほかの人が指摘するという方法であった。これを一人ずつ行った。

④ ごみ箱の雨・風対策についての意見募集

第1回模擬店企担において、意見募集用紙を配布し、第2，3回模擬店企担で出席確認表とともに提出してもらった。ごみ箱の雨・風対策に絞った理由は、これ以外の意見を募集したいことについてはすでに決定されて環境虎の巻などに書かれていたため、意見が集まっても変更できない状態になっていたためである。

⑤ 反省会

毎回の企担の後、安全センターにおいて、実施した。説明者の反省、説明者の説明を聞いて感じたこと、事務局の説明を聞いて感じたことを書き留めて、次の例会において全員で共有した。

(4) 例会における議題とNFまでの流れ

6 ／ 2 3　第 6 回環対準備会議

6 ／23 第6回環対準備会議
○実施内容の検討と決定
7 ／7 第18回例会
○直前にリハーサルを行うことの検討　○勉強会の概要決定　○原稿チェックの概要決定
7 ／21 第19回例会
○リハーサルの中止決定　○意見募集の方法検討
7 ／28 第20回例会
○全体練習の概要決定
9 ／15 第21回例会
○意見募集するテーマ･方法の議論･決定　○説明内容の検討
○原稿チェックの詳細決定
○昨年度の企担に模擬店として参加した人に話を聞くことの検討
9 ／22 第22回例会
○意見募集の詳細決定　○昨年度の企担に出席した人への質問内容の検討
○第1回模擬店企担の説明内容・配布物確認、説明者等決定　○勉強会
9 ／29 全体練習
第23回例会
○反省会の詳細決定　○第1回模擬店企担の原稿チェック
○第2回模擬店企担の説明内容・配布物・回収物確認、説明者等決定
10 ／6 第24回例会
○昨年度の企担出席者の話は聞けないことが判明　○第1回模擬店企担の当日の流れの確認
○第2回模擬店企担の原稿チェック
○第3回模擬店企担の説明内容・配布物・回収物確認、説明者等決定
10 ／7 第1回模擬店企担
10 ／13 第25回例会
○第1回模擬店企担の反省点列挙　○第2回模擬店企担の当日の流れの確認
○第3回模擬店企担の原稿チェック　○第2回屋内･グラウンド企担の説明内容確認
○第4回模擬店企担の説明内容・配布物・回収物確認、説明者等決定
10 ／14 第2回模擬店企担
10 ／20 第26回例会
○第2回模擬店企担の反省点列挙　○第3回模擬店企担の当日の流れの確認
○第4回模擬店企担の原稿チェック　○第2回屋内･グラウンド企担の説明者等決定
10 ／21 第3回模擬店企担
10 ／24 第2回屋内･グラウンド企担
10 ／27 第27回例会
○第3回模擬店企担の反省点列挙　○第4回模擬店企担の当日の流れの確認
○第5回模擬店企担の説明内容確認、説明者等決定
○第2回屋内･グラウンド企担の反省点列挙
10 ／28 第4回模擬店企担
11 ／3 第28回例会
○第4回模擬店企担の反省点列挙　○第5回模擬店企担の原稿チェック
11 ／10 第29回例会
○第5回模擬店企担の当日の流れの確認
○第6回模擬店企担の説明内容・配布物確認、説明者等決定
○第3回屋内・グラウンド企担の説明内容決定、説明者等決定
11 ／11 第5回模擬店企担

11 ／17　第 30 回例会
　　○第5回模擬店企担の反省点列挙　○第6回模擬店企担の原稿チェック
　　○第3回屋内･グラウンド企担の原稿チェック
12 ／1　第 31 回例会
　　○第 6 回模擬店企担の説明内容・配布物確認
　　○第3回屋内・グラウンド企担の説明内容・配布物確認
12 ／2　第 6 回模擬店企担
12 ／5　第3回屋内・グラウンド企担

(5) 反省・今後の展望

今年度ほど企担の準備をしっかりやったことは今までなかっただろう。その結果かどうかは分からないが、11月祭事務局から、当委員会の説明についてよい評価をいただけた。

さて、当初計画していたものの内、実施できなかったものが2つある。1つは企担のリハーサル、もう1つは昨年度企担に出席した模擬店企画担当者に企担における当委員会の説明を評価してもらうことである。リハーサルについては、企担が火曜日に行われるためできなかった。変更要請を事務局に提出したが、1週間遅かった。企担の反省で、慣れの不足のために失敗したという人が多かったことから、リハーサルは説明の改善に十分意味があると思うので、来年度以降検討する価値はある。

次に、昨年度企担に出席した模擬店企画担当者への質問であるが、今年度は結局質問できる人が見つからなかった。アンケートでは、分かりやすかったか？など、簡単な質問しかできないので、この試みは意味があると思う。

その他の反省としては、私見だが、反省会で出た反省を次の説明に十分生かせなかったと思う。来年度以降、反省会をやるなら、生かすための対策を考えるのもよいかもしれない。

最後に、企担の準備についての今後の展望を述べる。企担における説明は重要である。この場で企画担当者に作業の手順・意義を理解してもらうことは、当委員会への信頼にもつながる。また、作業の手順・意義を前もって理解してもらわなければ、なぜそのような作業を模擬店企画にお願いしているか考えてもらうことなどできないだろう。逆に、そういうことを模擬店企画に考えてもらうために模擬店に働きかけることが今年度の重点目標であった。来年度の重点目標は当然今年度と異なるため、今年度ほど企担は重要視されないかもしれないが、決して無視できないものなので、来年度以降も説明の改善には力を注ぐべきであると思う。

3.外部団体に関わる仕事

(1) 概要説明

今年度当委員会と関わりがあった主な外部団体は、京都大学生活協同組合、生協学生委員会、大学の事務、11 月祭事務局、応援団、みのり（有機農業研究会が団体名を変更）、ごみ回収・処理業者である。生協学生委員会についてはスタッフ管理担当に、応援団については前夜祭担当に、みのりについては生ごみ堆肥化担当に、ごみ回収・処理業者についてはごみ分別・リサイクル担当にそれぞれ譲り、ここではそれ以外の団体との関係について報告し、思うところを述べる。

① 京都大学生活協同組合

毎年、たくさんのご協力をいただいている。来年度注意すべきことをいくつかあげる。

まず、今年度は中央購買部の模擬店に対する斡旋物品の中に色付のごみ袋があった。斡旋を取り消してもらったが、来年度以降、前もって言っておいたほうがいいだろう。

次に、前夜祭の日の洗い皿の洗浄時間についてであるが、事前に店長さんには13：30からにしてほしいと言われていたが、当日吉田食堂に行くとその時間にはできないとパートの方に言われた。来年度以降、しっかり確認すべきである。

そのほか、お世話になったことは、外部向け文書の項に書くこととしてここでは割愛する。

そのほか、お世話になったことは、外部向け文書の項に書くこととしてここでは割愛する。

② 大学の事務

大学の事務としては、学生部学生課課外教養担当と高等教育研究開発推進機構施設・管理掛に主にお世話になった。また、一部の物品を、工学部11月祭実行委員会を通して工学部から借りていたので注意を要する。

今年度は前夜祭の日の夕方までに集積場を空にしてもらうようお願いすることを忘れていた。したがって、その文書が残っていないので来年度は注意していただきたい。

③ 11 月祭事務局

最も頻繁に連絡を取り合った団体である。ともに11月祭を企画・運営する団体として、様々なことで協力しあった。以下に個々の項目について記す。

- ごみ箱用段ボールについて

ごみ箱等に使う段ボールを例年通り11月祭事務局に集めていただいた。これは、11月祭に必要な物品を集めるのは、11月祭事務局の仕事であるから、また、当委員会はトラックを所有していないため集められないからである。今年度は250個集めていただいたが、30個程度余った。来年度以降、減らしてもかまわないだろう。

- 物品請求について

11 月祭における模擬店の当日作業に必要な諸物品について、例年通り 11 月祭事務局に申請した。その結果、90L ごみ袋 300 枚、布製ガムテープ 35 個、透明梱包用テープ 2 個をいただいた。この量で不都合はなかったが、どのような物品がいただけるのかなど、全く確認しなかった。不必要なものまでいただく必要はないが、何がいただけるか確認しておくと、予算の節約に役立つだろう。

- 最終日夕方からの雨について

今年度は最終日のフィナーレ前から雨が降り出した。その影響で、フィナーレ終了が90分遅れとなった。さらに、本来なら最終日の夜のうちに終わっているはずのステージの解体が後片付け日の朝まで続いた。その結果、11月祭事務局は大幅に人が足りないという事態に陥った。

そのような事態は当委員会へも影響を与えた。まず、夜に雨が降ったため、11月祭事務局の機材を当委員会の本部である吉田食堂に入れて雨を避けた。今年度は雨が降ったときに吉田食堂を使うことになるということを事前に聞いていなかったため、大変戸惑った。結局、又貸しするような形になってしまったが、了承した。これについては、来年度以降、当委員会と吉田食堂に事前に了承していただくということを、11月祭環境対策反省会において確認した。

- 11 月祭環境対策反省会

12 月 8 日（月）に吉田食堂 2 階リザーブ室において、11 月祭における環境対策の反省会を 11 月祭事務局と行った。その後懇親会を開いた。11月祭における環境対策について多くの有用な意見が得られたので、是非来年以降も続けるべきである。

(2) 外部向け文書について

外部向け文書のファイル名と内容を列挙する。

① 吉田食堂

・吉田食堂使用依頼（7 ／ 15）	11 月祭中の吉田食堂と洗浄機の使用願
・吉田食堂使用最終確認（11 ／ 11）	食堂使用日時の確認、洗い皿洗浄に伴う物品の貸出願、前夜祭朝の食堂付近の駐輪規制について
・洗浄機使用時間最終確認（11 ／ 12）	洗浄機使用時間の確認

・洗浄機使用時間最終確認（11 ／ 12）洗浄機使用時間の確認
・吉田食堂お礼と洗浄費（12 ／ 2）　お礼と洗浄費納入

② 生協本部
・生協物品借用依頼（11 ／ 2）　スタッフジャンパー・計数器の借用願
・吉田食堂鍵借用依頼（11 ／ 2）　11 月祭中の吉田食堂の鍵借用願
・生協へのお礼文書（12 ／ 3）　生協へのお礼

③ 生協学生委員会
・お礼（学生委員会）（12 ／ 12）　スタッフ協力のお礼

④ 学生部学生課課外教養担当
・ごみ箱用倉庫借用申請（9 ／ 8）　学生部中庭の新倉庫の借用願
・中庭倉庫借用申請（11 ／ 13）　中庭倉庫の借用願（新倉庫に入りきらなかったため）

⑤ 高等教育研究開発推進機構施設・管理掛
・施設・管理へ（11 ／ 13）　吉田南構内のごみ箱について、集積場鍵借用願等
・校舎内ごみ箱配置図（11 ／ 13）　校舎内ごみ箱配置図（吉田南構内）、上の文書とセット

⑥ 工学部
・物品借用（環対へ）（11 ／ 7）　トラメガ・パイプ椅子の借用願
・物品借用（環対へ）(追加)（11 ／ 18）電気ドラムの借用願

⑦ 11 月祭事務局
・会計報告（5 月下旬）　第 1 回 11 月祭全学実行委員会用の昨年度の会計報告
・全学実行委員会提案（5 ／ 29）　環境対策委員会設置の提案
・企担の曜日変更要請（7 ／ 8）　企担のリハーサルのための変更要請
・模擬店企担予定（9 ／ 23）　模擬店企担における説明内容のお知らせ
・担当長の紹介（9 ／ 23）　緊急時の連絡先
・模擬店企担の変更点（10 ／ 9）　説明内容変更のお知らせ
・必要物品申請（11 ／ 5）　ごみ袋等必要物品の申請
・ＮＦ後の企担について（11／11）　ＮＦ後の企担の説明内容のお知らせ
・ごみ集のお願い(総合情宣)（11 ／ 11）吉田南構内屋外のごみ集確認
・屋内企画ごみ回収（11 ／ 11）　屋内企画への当日説明ビラについて、屋内ごみ集の確認
・反省会開催について（12 ／ 1）　11 月祭環境対策反省会の開催について
・大？反省会詳細（12 ／ 5）　11 月祭環境対策反省会の議題について

外部向け文書は昨年度と同様の文書を同様の時期に昨年度と同じ担当が提出した。しかし、実際にやってみると、ごみ分別・リサイクル担当とは、近い日に同じところへ別の文書を持って行くというような、非効率な点もあった。来年度は一度外部向け文書を列挙して、文書を出す担当などを考え直したほうがよい。そうすることで、今年度の前夜祭の日に集積場を空にしておくようお願いすることを忘れるというような事態も避けることができるだろう。

なお、今年度は吉田食堂に「洗浄機使用時間最終確認」という文書を提出したが、これは「吉田食堂使用最終確認」という文書の補足であるので、来年度はまとめるべきである。気をつけてもらいたい。また、11月祭事務局に提出した文書の中にはぎりぎりのものがいくつかあったので、11月祭事務局にいつまでに出せばよいか確認するか、早めに出すようにしたほうがよいだろう。

4.当日マニュアルの作成

(1) 概要

11月祭当日は、作業のやり方をほとんど知らない多くの当日スタッフに作業を手伝っていただく。また、コアスタッフも自分の担当とはほとんど関係のない作業を経験しなければならなあい。そのような状況で作業を円滑

で作業を円滑に進めるためには、作業のやり方をまとめた冊子類が不可欠である。そのため、例年作っている当日マニュアルを今年度も作成した。

(2) 今年度の変更点

①「模擬店によるごみ回収システム」の解説の追加

11月祭におけるごみの流れを当日スタッフにも理解してもらうために加えた。これにより、各作業の全体における位置づけがしやすくなると考えた。

②マニュアルの該当項目をシフト名から検索できるようにした。

使いやすさを向上させた。また、それと同時に、当日スタッフが関わるすべてのシフトについてマニュアルを作った。

(3) 反省・今後の展望

当日スタッフアンケートを見る限りでは、読まなかった人がいるようだ。マニュアル自体に原因があるとすれば、それはマニュアルの厚さだろう。ほとんどのシフトについてマニュアルを作ったため、昨年度の1.6倍のページ数となった。一方、細かすぎるという意見もあるようなので、個々のマニュアルを、要点をさえつつ簡潔なものとすることで、さらに役立つマニュアルになると思う。

しかし、今年度説明を詳しくした巡回マニュアルについては、役に立ったという意見が多数だった。巡回は、コアスタッフとコアスタッフ経験者しかやらないシフトであるので、このような結果だったのかもしれない。コアスタッフ、当日スタッフにそれぞれどこまで知っておいてもらうべきか、よく考えるべきである。

5. 必要物品の準備・事後処理

(1) 当日必要物品の準備について

- 作成・調達に人手が必要なもの

物品作成計画に従い、10月下旬からＮＦ前までの土日に物品を作った。物品製作日については、総括の時系列（Ｐ6）を参照。ごみ箱作成予定だった週の金曜日に倉庫の鍵を借り忘れてごみ箱作成が最終週になってしまったが、それ以外は問題なかった。雨が降ればごみ箱作成はできないので、最後まで残しておくべきではない。

- 作成・調達が少人数でできるもの

11／3に各担当に必要物品リストを提出してもらい、それをもとに、「作成物品リスト」、「要調達物品リスト」を作成した。そして、作成・調達が完了したものからチェックしていき、不備がないようにした。

また、「箱作り用物品リスト」も作成した。物品箱とは、当日に、シフトごとの必要物品をまとめて入れておく段ボール箱で、箱作用物品リストとは、その物品箱に何を入れるかが書かれたリストである。今年度は、物品箱にすべて物品が入っていない場合がいくらかあり、リストがうまく機能しなかったようだ。また、そもそも作ったが実際は物品箱がいらなかったシフトもあると思う。来年度以降検討していただきたい。

(2) 事後処理について

要洗浄物品については「要洗浄物品リスト」を作成し、そのほかのものについてもＮＦ後2週間以内に片付けることとした。しかし、明確な担当を決めなかったためか、順調に片付かなかった。安全センターが乱雑な状態であると、安全センターを使用する他のサークルにも迷惑であるため、早急に原状復帰することが必要である。ＮＦ直後に安全センター大掃除を実施するとよいかもしれない。

(1) 本部に求められるもの

① 各種スペースの確保

物品の保管場所、スタッフの荷物の保管場所、スタッフの待機及び休憩所、事務スペース、反省会スペー

6.11 月祭当日の 11 月祭環境対策委員会本部運営

(1) 本部に求められるもの

① 各種スペースの確保

物品の保管場所、スタッフの荷物の保管場所、スタッフの待機及び休憩所、事務スペース、反省会スペースなどが必要である。詳細な設置については、（2）を参照。

② シフトの管理

シフトに入る前には本部に集合し、説明を受ける。また、シフトが終われば本部に帰り報告をする。今年度も昨年度に引き続き、当日シフト管理表をシフト後に書いてもらった。また、当日スタッフアンケートも書いてもらった。詳しい説明は、スタッフ管理担当の項（P 74）を参照。

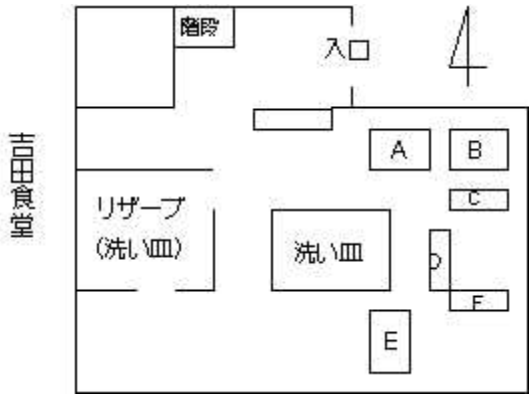
③ 不測の事態への対処

11月祭中は、天候の不順を始め、さまざまな不測の事態が起こる。本部はそれに早急に対応することが求められる。また、このために代表は本部に常駐しなければならない。

④ 来客への対応

主に他大学の環境サークルがいらっしゃる。今年度は、京都新聞社の方などもいらっしゃった。そういう方に対応するのも本部の役割である。

(2) 今年度の本部設置形態



A：物品保管場所
B:スタッフ荷物置き場
C:スタッフ休憩所
D：本部事務処理スペース
E：反省会スペース
F：ごみ袋設置場所

(3) 反省・今後の展望

おおむねうまくいったと思う。ただ、代表が本部から離れることが多かったように思う。人の話では正確にわからない部分が多いので、実際に見に行きたかった。しかし、吉田グラウンド南、吉田集積場くらいまでしか行っていないのだが、本部を離れているときに対処すべき事態が生じたようである。やはり、代表は本部を離れるべきではなかった。

本部事務処理スペースに関して、今年度はスタッフの荷物が置かれる場合が多かった。来年度以降、厳格に、スタッフ休憩所と本部事務処理スペースを分けるべきだろう。

7.11 月祭当日の物品輸送

(1) 概要

今年度はスタッフ数が足りなかったこともあり、前夜祭の日の物品輸送の責任者が代表になったため、

結局、物品輸送全般に関して代表が担当することとなった。

物品輸送は、前夜祭の日の13時から洗い皿やその他の必要物品を吉田食堂へ運ぶものと、後片付け日に吉田食堂から洗い皿やその他の必要物品を安全センターや工学部1号館地下などへ運ぶものの2種類がある。今年度は、リヤカー3～4台を使って作業を行った。また、前夜祭の日については、輸送物品リストを作成した。

(2) 反省・今後の展望

まず、前夜祭の日の物品輸送についてだが、これは明らかにスタッフ数が足りなかった。当初シフトに入っていなかった人に2,3人手伝ってもらったが、それでもシフト時間を大幅にオーバーした。これは、立て看板の輸送方法を考えていなかったことも原因の一つである。今年度は、レストスペース用1.5枚看については、リヤカーを使いながら、3人で運んだ。

次に、後片付け日の物品輸送についてだが、これは、午前中に輸送すべきものの選択が難しい。集積場は動いているし、トレー洗浄も行われている。そのため、主に運んだものは立て看板である。

午後は、人が多くなる。順調に運び出していたのだが、時間はオーバーしてしまった。輸送する順番について受け入れの責任者と前もって話し合ってはいたが、実際にはそのとおりにできなかったからかもしれない。何が何時ごろから輸送できるようになるか、確認しておくべきだった。

8. 総合的な反省・今後の展望

今年度は、企担の準備に力を入れ、それを代表が担当したこともあって、時間が不足しがちになり各担当に十分目を配れなかった。それは、例会の進行レジュメを見ても分かる。昨年度までは、各担当が例会でどのようなことを話すかについてある程度把握していたようだが、今年度はほとんど各担当に任せた。費用対効果が少ないと感じたためだが、そのために話すべき議題が抜けていることもあった。来年度以降検討していただきたい。

代表の仕事のうち最も重要なことは、常に全体に目を配ることであると思う。抽象的な表現で分かりにくいが、要するに、11 月祭環境対策委員会という組織が、理念・方針・重点目標に基づいて、皆が望んでいる方向に進んでいるか、常に気を配るということである。それと比べて、今年度の代表は、企担の準備、当日マニュアルの作成など、細かいことに力を注ぎ全体を疎かにした嫌いがあった。今後、代表がやるべき仕事は何か、きちんと検討すべきであると思う。

第 12 話　会計

文責：河村 有介

1. 今年度決算報告

【一般勘定】

資産及び収入の部

主管	費目	金額（円）	備考
会計担当	繰越金	82993	前年度からの繰越
	利子収入	0	繰越金の運用収入
代表	洗い皿貸出収入	6117	11月祭以外における洗い皿貸出
収入総額		89110	みずほ銀行普通預金口座に預入

【11 月祭環境対策活動勘定】

収入の部

主管	費目	金額(円)	備考
会計担当	環境対策費	50000	11月祭事務局より
	寄附金	5307	
洗い皿担当	キャンセル料収入	5000	
	紛失費収入	2925	
収入総額		63232	

支出の部

主管	費目	金額（円）	備考
代表	印刷費	28462	
	用紙購入費	7598	
	文房具購入費	2961	
	紐購入費	415	
ごみ分別・リサイクル担当	割り箸輸送費	8400	王子製紙までの輸送のため
	クリーニング費	600	生協スタッフジャンパーの洗濯のため
	ゴム手袋購入費	2625	トレー洗浄のため
	スポンジ購入費	623	同　上
	洗剤購入費	210	同　上
	のり購入費	220	ごみ箱作成等のため
広報担当	複写費［カラー］	6208	ポスター作成のため
生ごみ堆肥化担当	堆肥化援助費	3000	みのりへの援助のため
洗い皿担当	ラップ購入費	268	
広報担当・企画担当（共管）	筆購入費	273	立て看板作成のため
	模造紙購入費	1128	同　上
	紙やすり購入費	241	同　上
支出総額		63232	

2. 会計制度概説

えこみっとの会計は、2つの勘定からなっている。1つは一般勘定、もう1つは11月祭環境対策活動勘定である（会計規則第2条）。

(a)一般勘定　　原則として、11月祭環境対策委員会（以下、環対）としての活動以外の活動のために用いられる勘定であるが、前期活動と環対の活動を厳密にわけることは難しいので、11月祭期間外の洗い皿貸出収入を収入源として、将来の洗い皿整備のための予備財源として貯蓄されている。また、昨年度以前からの繰越もこの勘定に組み入れられている。一般勘定の資金については、通常みずほ銀行百万遍支店の普通預金に預けられている。

(b)11月祭環境対策活動勘定　　昨年度までは11月祭全学実行委員会から給付される環境対策費と寄附金を収入源としていたが、今年度は新たに11月祭の洗い皿企画における紛失費を財源に組み入れた。この勘定は万年赤字であり、不足分を寄附金で補う形をとっているが、黒字になった場合の剰余金は、11月祭事務局に返還する前例がある（第41回11月祭環境対策委員会）。

11月祭環境対策勘定における支出の各項目について、特に必要と思われるものに付いて説明を加えていく。

(a)印刷費　　新歓びら、例会レジュメ、環境虎の巻、当日マニュアル、ごみ箱表示など環対の活動にとって欠かすことのできない費目である。印刷費に関しては、固定費的なものも多いが、削減できる部分も少なくない。これについては、次項に詳述する。

(b)複写費　　今年度はポスター、生協卓上メモの作成という広報分野においてカラーコピーを多用した。そのため今年度は、昨年度に比して多くの経費がかかった費目である。

(c)用紙費　　一般的には工学部新入生歓迎実行委員会並びに工学部11月祭実行委員会から購入するのであるが、今年度は直接大学生協にて購入した例もあった。

(d)割り箸輸送費　　11月祭で出された割り箸を王子製紙に輸送するのにかかる経費である。例年日本通運のアローボックスを利用し、費用は8400円である。割り箸を資源ごみとして王子製紙に輸送する限り、欠かすことのできない固定費と言える。

(e)クリーニング費　　生協から貸していただいたスタッフジャンパーを返却する前にコインランドリーにて洗濯した際の経費である。これも、生協からスタッフジャンパーを貸していただく限り、欠かすことのできない固定費と言える。

3. 今後の展望

【増収策について】

◆ 環対の活動は年々大規模化しているにもかかわらず、予算規模は5万円で固定されたままとなっている。このままでは、よりいっそうの活動活発化の妨げとなろう。予算額を上げるため、来年度は早めに事務局と折衝する必要があるのではなかろうか。

◆ 環対として大量のビニールシートを保有しているにもかかわらず、ほとんど使用されていないと言う現状がある。この使用されていないビニールシートを11月祭期間中に模擬店に貸し出すというのはどうであろうか。これによって環対としての収入が見込める上に、毎年ごみとして排出されるビニールシートを減らすことができるのではなかろうか。

【固定費について】

◆ 「環境虎の巻」については、模擬店から事務局の発行する「模擬店企画虎の巻」との区別がつかないという指摘があった。解決策として現状で考えられるのは、「環境虎の巻」に書かれていることをすべて「模擬店企画虎の巻」に吸収させればよいのではなかろうか。これによって印刷費の削減にはなろう。

4. 参考

～当委員会の取り組みによる経費削減効果～

● 発泡スチロールトレー

約 15000 枚をリサイクル（無償引取）。ごみ袋（90L）75 袋分に相当。

袋の 6 割の体積をとるとして、約 4?＝ 36000 円分の削減（産業廃棄物扱い）。

● 割り箸

約 35000 膳を製紙会社に搬送。ごみ袋（90L）30 袋分に相当。

約 1.5?＝ 7500 円分の削減（一般廃棄物扱い）。

● 生ごみ

約 700kg 程度、ごみ袋（90L）70 袋分に相当。

約 4?＝ 20000 円分の削減（一般廃棄物扱い）。

● 洗い皿

約 3800 枚の貸し出し、ごみ袋（90L）19 袋分の使い捨て容器に相当。

約 1.5?＝ 6000 円分の削減（産業廃棄物扱い）

単純な合計で7万円相当のごみ処理経費の削減（なお、ごみ処理経費の総計は約70万円）となる。ごみ減量、再資源化促進のためにはシステムの構築、周知・広報の徹底のための大きな準備が必要となる。

数字には表れないが、集積場において当委員会が減容化や再分別を行うことも経費削減につながっている。また、単に費用の問題のみならず、ごみ減量、再資源化を図ることは社会に対する責務であると認識する。

もちろん、来場者や各規格担当者に対する広報や情報の提供（例年の売上量や分別の仕方など）を実施している。この価値を金銭的にはかることはできない。

（松山直樹「環境対策費に関するレポート」(2002年)をもとに試算）

第13話 寸話集

～　NF中におきた小話をどうぞ　～

◆ 前夜祭 ◆

〈物品輸送クマ〉

ジャンケンに負けた1回生のN木氏は、安Cから吉田食堂までクマの着ぐるみを調達することになったが、すでに満載のリヤカーを前にして、彼がどんな行動をとったかは言うまでもない。

〈本陣へ報告〉

隊長、分別表示発見しました！！

〈小さな鉄製〉

A号館中庭にあると・て・も小さなごみ箱。
鉄製部隊は、この思いもよらないごみ箱によって、約15分の後れをとった。遅れはともかく、鉄製部隊の出鼻をくじく超大物ごみ箱であるには間違いない。

〈謎の封鎖〉

隊長！鉄製ごみ箱封鎖されてます！
ごみ箱には、手書きで「使用禁止」と書かれた紙。誰だか知らないけどありがとう。

〈封鎖されしゴミ箱の巻〉

雨降りしきる中、鉄製ごみ箱を封鎖すべく暗躍する錦木鉄製部隊は、何者かの心暖かさにより保護されたごみ箱に遭遇した。

〈謎の消失〉

隊長！鉄製ごみ箱がありません！
二カ所計六個のごみ箱が跡形なく消えてました。一体どこに。

〈現地調達〉

屋内ごみ箱封鎖ビラが足りなくて、あるポスターを犠牲にしました。何をしたかはナイショ。

〈試食〉

ありがたや、前夜祭のこの日、吉田食堂では密かに試食会が開かれていた・・・
残ったものは・・・ウマー

〈カセットコンロは使わないで――〉

試食中の吉田食堂に訪れた事務局のＭ田氏。お鍋の下にあったコンロを見て一言。
「コンロやめてください(笑)」これはもうお約束である。

〈たった一人で敵本陣突入〉

我らが総大将主君の原康祐は、コーン３つを取り戻すべく敵本陣『５演』へ突入した。

〈靴〉

前夜祭にごみ袋からでてきた靴一足。一体この人は前夜祭で何をしたのだろう。そしてこの人はどうやって帰ったのだろう。謎は深まるばかり。

◆ 洗い皿 ◆
〈『洗い皿買いに来ました』〉
　はい、一皿100円になります。（笑）

◆ 企画 ◆
〈くまINますださん〉
　ますださん入りのくま、めっちゃかわいかった。受けもよかった。でも、隣で歩いてる俺、「なにこの人？」みたいな目で見られた。
　全然OK！

◆ 模擬店 ◆
〈まちがえてました。〉
　スタッフ:「あなたの店ではパルプモールドや非木材紙のスプーンを使っていますか？」
　店の人:「多分そうだと思います。」
　しまった間違えてる。

〈いわし〉
　環対『イワシですか？』
　もぎ『はい、イワシです』

〈組成調査〉
　大量の不法投棄・・・検挙のため路上で組成調査。検挙率は50%。
　推理って楽しいな。

〈自主ぐるぐる〉
　私服でステーションをまわり、ごみ箱をチェック。間違いを見つけたらジャンパーを着て模擬店にあたっく。
　趣味になりそうです。

〈おだんごやさん〉
　背中向けてるから客が来ないんだぞ！！

◆ 集積場 ◆
〈何ごみ？〉
　二人の女子が手をつないで集積場に持ってきた袋にはゲ〇が。
　・・・追いかえされてました。

〈生ごみに見えるらしい〉
　発泡酒の缶には確かに「生」とありますが・・・

〈ナババ〉
　生ごみの王様。どのごみ袋にもほぼ君臨する生ごみの中の生ごみ。

〈ため息〉
　集積場でキレイなおねーさんをみて、「ほぉ～っ」。我が身をふり返って「はぁ～」。
　しかも、ごみ女って・・・。
　to N木氏　　キレイなおねぇさんは好きですか？

〈勢いあまって・・・〉
　ごみを投げたら集積場の塀の向こうに・・・福井さーん！！

◆ 本部 ◆
〈さめる さめる〉
　目の前にあるオイシイ物をねらう取締役たちの言い訳(笑)

〈代表の遠征〉
　シフト管理のお言葉「もう！いつも肝心なときに代表がいないんやから。」と。
　お怒りです。原代表！！

◆ 雨 ◆
〈雨〉
　吉田食堂は完全封鎖を強調すべき。

〈雨、あめ、アメ・・・〉
　グラウンドに川が出現した。

◆ その他 ◆
〈本祭初日〉
　通勤途中、チャリのチェーンが外れて動かなくなり、バスで出勤。

〈本祭二日目〉
　土曜のためバスが少なく、わずかに遅刻。

〈本祭三日目〉
　日曜のため、土曜に輪をかけてバスが少なく、ケルンに先を越されるほど遅刻。

〈本祭四日目〉
　堅実に四十分歩き、ようやく時間通りに出勤。

〈ありえへんｃ〉
　ありえへんから ありえへんから
　カツサンド
　ありえへんから ありえへんから
　カツサンドがありえないのか、ありえないからカツサンドなのか？

〈『枠』改め・・・？〉
　お酒にめっぽう強いことから、『ざる』ならぬ『枠（網目すらない、の意）』と呼ばれていたＨ川嬢だが、本祭中吉田食堂で、「仕事上がりのビールはうまいっ！」と言って昼間っから飲んでいたことが発覚。もはや『おやぢ』である。

〈もう一度〉
　勝手にもう一度やりたいシフトを
　3位　やってないけど着ぐるみはどんなだろう
　2位　悔いの残る前夜祭集積場
　1位　ｂ箱設置→何でもよいがまたあの３人で・・・。